

歳出經常部		△印増設	
款	項	目	節
軍事費	俸給及諸給	末位ニ	
	修繕費	末位ニ	
		臺北兵器支廠兵器庫修繕費	
		基隆要塞防禦築造物修繕費	
		步兵第十聯隊庖厨浴室修繕費	
	雜給及雜費		
		給與	末位ニ
			與

○文部省訓令第六號

明治四十二年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス
明治四十二年五月七日

大臣官房會計課
直轄諸學校
帝國圖書館
文部大臣 小松原英太郎

一歳入經常部前年度繰入金ノ款中末位ニ支出未済金ノ項目ヲ加フ
○文部省訓令第七號

大臣官房會計課
直轄諸學校
帝國圖書館

明治四十二年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス
明治四十二年五月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省訓令第十一號

道廳 府縣

明治四十年農商務省訓令第十四號ハ之ヲ廢止ス
明治四十二年五月三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔参照〕

明治四十年五月三日農商務省訓令第十四號ハ露領沿海州出漁ニ關スル報告事項ナリ

○農商務省訓令第十二號

山林局 林區署

明治四十二年農商務省訓令第八號科目表中歳入經常部官業及官有財産收入ノ款森林收入ノ項ノ末位ニ建物貸下料ノ目及同歳入臨時部官有物拂下代ノ款ノ次位ニ雜收入ノ款利子收入ノ項利子收入ノ目ヲ設置ス
明治四十二年五月五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第十三號

明治四十二年農商務省訓令第八號科目表中森林資金歲入林野拂下代ノ款林野拂下代ノ項ノ末位ニ延納利子ノ目ヲ設置ス

明治四十二年五月八日

○農商務省訓令第十四號

森林主事教習規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月八日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第十二條 大林區署長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ現ニ大林區署又ハ小林區署ニ在職中ノ

左記各號ノ一ニ該當スル雇員ニ對シ乙種教習ヲ行フコトヲ得

一 文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者

二 森林主事特別任用規則第十二條ニ依リ有效合格證書ヲ有スル者

第四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔參照〕

農商務省訓令第三十七號森林主事教習規則(明治三十九年十二月七日抄録)

第十二條 大林區署長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ森林主事特別任用規則第十三條但書ニ依リ雇員ニ對シ乙種教習ヲ行フコトヲ得

○農商務省訓令第十五號

明治二十九年十月農商務省訓令第三十五號道廳府縣郡市農業工業林業水産各技師技手設置心得ノ件

道廳 府縣 郡市

中第三條ヲ削リ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

農商務省訓令第三十五號(明治三十九年十月一日抄録)

第三條 農業工業林業及水産各技師技手ニ關スル經費ノ種別及豫算金額ハ毎年三月三十一日迄ニ届出ツヘシ

○農商務省訓令第十六號

明治四十二年四月農商務省訓令第八號科目表中歲出臨時部足尾國有林復舊費ノ款足尾國有林復舊費ノ項ノ末位ニ休職俸給ノ目ヲ設置ス

明治四十二年五月十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第十七號

國有林野部分林規則、社寺保管林規則、國有林野委託規則及國有林野法施行規則ニ依ル事務取扱手續中左ノ通改正ス

林區署

明治四十二年五月十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第十八號

大林區署分課規程左ノ通改正ス

明治四十二年五月十二日

農商務大臣 男爵大浦兼武

大林區署分課規程

- 第一條 大林區署ニ業務課、庶務課及特別經營課ヲ置ク但シ農商務大臣ニ於テ必要ナシト認メタル大林區署ニハ特別經營課ヲ置カス
- 前項各課ノ外別表ノ製材所ヲ置ク
- 第二條 業務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 主副產物ノ處分ニ關スル事項
 - 二 斫伐及其ノ製品ノ處分ニ關スル事項
 - 三 製材及其ノ製品ノ處分ニ關スル事項但シ製材所ヲ置キタル場合ヲ除ク
 - 四 貯木ニ關スル事項
 - 五 造林ニ關スル事項
 - 六 林業試驗ニ關スル事項
 - 七 樹病、蟲害、砂防等ニ因ル森林被害ノ防止ニ關スル事項
 - 八 其ノ他森林ノ事業ニ關スル事項
- 第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 林野ノ管理及處分並境界保護ニ關スル事項
 - 二 小林區及保護區ノ廢置分合ニ關スル事項
 - 三 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項
 - 四 部分林ニ關スル事項
 - 五 保安林ニ關スル事項
 - 六 訴願、訴訟其ノ他一切ノ爭議ニ關スル事項
 - 七 森林警察ニ關スル事項

- 八 林業講習ニ關スル事項
- 九 林野ニ關スル臺帳及小林區保護區臺帳ニ關スル事項
- 十 歲入歳出ノ豫算、決算、出納其ノ他會計ニ關スル事項
- 十一 用地、建物、物品及圖書ニ關スル事項
- 十二 官吏、雇員並巡視ノ進退及身分ニ關スル事項
- 十三 文書ノ往復、編纂及保存並統計ニ關スル事項
- 十四 廳舎、給仕、小使ノ雇傭、取締ニ關スル事項
- 十五 營宿直ニ關スル事項
- 十六 他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第四條 特別經營課ニ於テハ國有林野特別經營ニ屬スル左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國有林野ノ存廢區別、不要存置林野ノ處分調査及其ノ處分ニ關スル事項
 - 二 國有林野ノ境界査定及測量ニ關スル事項
 - 三 施業案ニ關スル事項
 - 四 造林ニ關スル事項
 - 五 森林土工ニ關スル事項
 - 六 土地、森林、原野ノ買上及交換ニ關スル事項
- 第一條 第一項但書ノ規定ニ依リ特別經營課ヲ置カサル大林區署ニ於テハ前項各號ノ事項中不要存置林野ノ處分調査及其ノ處分ニ關スル事項ハ庶務課ニ於テ之ヲ掌リ其ノ他ノ事項ハ業務課ニ於テ之ヲ掌ル
- 第五條 製材所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 製材及其ノ製品ノ處分ニ關スル事項

- 二 職工定夫ノ雇傭取締ニ關スル事項
- 三 庶務會計並取締及宿直ニ關スル事項
- 第六條 各課長及高等官ヲ以テ充ツル製材所長ハ農商務大臣之ヲ命ス
- 第七條 大林區署長ハ必要ニ依リ課所ニ係リ設ケルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各係ニ係長ヲ置クコトヲ得
- 前項ニ依リ課所ニ係リ設ケ又ハ係長ヲ命免シタルトキハ遲滞ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月農商務省訓令第五號大林區署分課規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別表)

大林區署名	製材所名	所在地
青森 大林區署	青森 製材所	青森縣東津輕郡瀧内村
同	同	同縣同郡三所村
同	同	同縣北津輕郡相内村
同	同	同縣南津輕郡大饗村
同	同	同縣北秋田郡長木村
秋田 大林區署	秋田 製材所	秋田縣玉造郡温泉村
宮城 大林區署	宮城 製材所	宮城縣東磐前郡中川手村
長野 大林區署	長野 製材所	長野縣東足利郡原村
廣島 大林區署	廣島 製材所	島根縣安藝郡馬路村
高知 大林區署	高知 製材所	高知縣安藝郡馬路村
同	同	同縣同郡東川村
同	同	熊本縣球磨郡一勝地村
同	同	宮崎縣東臼杵郡北川村
同	同	鹿兒島縣伊佐郡山野村
同	同	同縣給良郡收園村
鹿兒島 大林區署	鹿兒島 製材所	

○農商務省訓令第十九號

大林區署

大林區署管内監督規程左ノ通改正ス

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十二年五月十二日

大林區署管内監督規程

第一條 大林區署長ハ其ノ主管ニ屬スル左ニ掲ケタル事項ニ付毎年一回以上其ノ管内ヲ巡閱スヘシ

- 一 法律命令施行ノ狀況
 - 二 事務ノ狀況及其ノ成績ノ良否
 - 三 事業ニ關スル施設ノ適否
 - 四 事業ノ狀況及其ノ成績ノ良否
 - 五 林野產物及製品處分ノ適否
 - 六 製材場貯木場苗圃等ノ管理ノ適否
 - 七 森林警察其ノ他森林保護ニ關スル事務ノ舉否
 - 八 臺帳並文書簿冊類ノ整否
 - 九 小林區署長事務引繼ノ適否
 - 十 小林區署職員ノ配置並事務分掌ノ適否
 - 十一 職員ノ勤怠及其ノ性行並技能
 - 十二 前各號ノ外監督ヲ要スト認メタル事項
- 大林區署長止ヲ得シテ前項ノ巡閱ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ適當ナル署員ヲシテ代リテ視察ヲ爲サシムヘシ

第二條 大林區署長ハ隨時各課長又ハ課員ヲシテ其ノ主掌ノ事務ニ付視察ヲ爲サシムヘシ
 第三條 第一條ニ依リ巡閱又ハ視察ヲ爲ス者ハ同時ニ左ニ掲ケタル事項ヲ視察スヘシ
 一 御料公有社寺有及私有林野ノ管理經營ノ狀況
 二 國有林野ノ管理經營ニ對スル地方人民ノ感情
 三 林務官吏ト他ノ官吏トノ關係
 第四條 前三條ノ規程ニ依リ巡閱又ハ視察ヲ爲ス者ハ務メテ實地ニ臨ミ調査ヲ爲スヘシ
 第五條 巡閱又ハ視察ノ結果重要ナル事項ニ付テハ大林區署長ハ意見ヲ付シ其ノ都度農商務大臣ニ報告スヘシ
 第六條 大林區署長ハ本規程ニ基キ監督ニ關スル細則ヲ定ムヘシ
 附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十三年^三月^三號^三及明治三十九年^五月^五訓令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

(參照)

明治三十九年^六月^六號^六農商務省訓令第二十一號ハ本號ト同伴ナリ

○農商務省訓令第二十號

明治四十年^一月^一農商務省訓令第三號國有林事業豫定案實行ニ要スル印刷物ノ調製職工人夫ノ雇傭工
 事物件ノ買入借入運搬ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス
 明治四十二年五月二十四日
 農商務大臣 男爵大浦兼武

林區署

○統監府訓令第十一號(官報五月二十二日)

明治四十年^四月^四統監府訓令第六號外國旅券規則取扱手續中左ノ通改正ス但シ乙號離形ハ別ニ之ヲ頒
 布
 理事廳

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年五月十五日
 第五條及第六條中但シ^下ニ^下移民專用外國旅券及^下ヲ加フ
 第三號書式

外國旅券用紙受拂數		自明治何年何月何月及現在數表		(何廳)	
旅券種類	券受入數	券使用數	券現存數	現在數	現在數
普通	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	何枚	何枚
移民專用	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	何枚	何枚
韓國臣民專用	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	自第何號至第何號 何枚	何枚	何枚

○統監府訓令第十二號(官報五月二十二日)

明治四十年^四月^四統監府訓令第十一號管内學事狀況申報事項中左ノ通改正ス
 一 各學校現狀中資產職員生徒又ハ兒童ノ三項ヲ削リ「校地校舍附屬舎ノ圖面」ノ次ニ左ノ一項ヲ
 加フ
 理事廳

- 一 生徒(別表ニ依ル)
- 二 「公學費及資産」ノ下ニ(別表ニ依ル)ヲ加フ
- 三 別表中學校資産表、學校職員表及兒童學年學級男女別表ヲ削リ、學齡兒童表ノ次ニ別記四表ヲ加フ

明治四十二年五月十五日
(別表)

統監代理
副統監 子爵曾禰荒助

何學校生徒府縣別表

第一地方部	府縣	生徒數	第二地方部	府縣	生徒數	第三地方部	府縣	生徒數	第四地方部	府縣	生徒數	第五地方部	府縣	生徒數	第六地方部	府縣	生徒數	第七地方部	府縣	生徒數	合計		
																					計	平均	
	東京	新潟	北海道	三重	京都	島取	長崎																
	神奈川	群馬	宮城	愛知	大阪	島根	福岡																
	埼玉	栃木	茨城	滋賀	兵庫	岡山	大分																
	千葉	長野	青森	和歌山	奈良	廣島	佐賀																
	茨城	福島	山形	岐阜	和歌山	山口	熊本																
	山梨		秋田	福井	德島	香川	宮崎																
				石川	高知	愛媛	鹿兒島																
				富山			沖繩																

何學校生徒數及授業日數月別表

種別	月	在籍生徒數		入學生徒數		退學生徒數		出席百分比		授業日數	備考
		計	平均	計	平均	計	平均	計	平均		
合計	四月										本年度及累計卒業者數左ノ如シ (小學校ノ場合) 尋常科男何名(累計何名) 高等科男何名(累計何名) 計 男何名(累計何名) 計 女何名(累計何名) (小學校以外ノ場合) 本年度何名 累計何名 女何名(累計何名) 女何名(累計何名) 計何名(累計何名) 計何名(累計何名)
	五月										
	六月										
	七月										
	八月										
	九月										
	十月										
	十一月										
	十二月										
	一月										
	二月										
	三月										
計											
平均											

公學費表

種別	何學校											其ノ他合計
	何學校	何學校	何幼稚園	何圖書館	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	
學校長團長館長俸給												
正教員副導俸給												
舍監俸給												
書記俸給												
准教員俸給												
代用教員俸給												
保母俸給												
旅費												
雜給												
借地借家費												
圖書器械標本費												
器具費												
消耗品費												
新築費												
修繕費												

公學資産表

注意 圓位以下ハ切捨マス

備考

種別	何學校											其ノ他合計
	何學校	何學校	何幼稚園	何圖書館	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	
家屋坪數												
附屬地坪數												
敷地坪數												
其他												
合計												

種別	何學校											其ノ他合計
	何學校	何學校	何幼稚園	何圖書館	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	合計	其ノ他	
合計												
國庫補助												
雜收入												
學校基本財産 リ生スル收入												
寄附金												
閱覽料												
保育料												
授業料												
合計												

○大藏省訓令第十九號

明治三十九年七月大藏省訓令第三十二號樟腦統計臺帳調製規程及同年十月十二日大藏省訓令第四十七號鹽務統計臺帳調製規程ハ明治四十一年度限り之ヲ廢止ス
明治四十二年六月二日 大藏大臣 侯爵桂太郎

專賣支局 專賣局製造所

○陸軍省訓令第十五號

明治四十二年度營省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十二年六月九日 陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍一般

歲出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	本營 仙臺屯在部隊上水 隨其他修繕 第二海防防波堤修繕	
	經抹費	糧食品製造購買補	△本位 試驗及模範

明治四十二年六月 訓令 陸軍省第十六號

歲出臨時部

款	項	目	節
營繕費	新營費	△岩島火藥製造所接續地買收	
戰後整理費	戰役殘務整理費	物件費	△病傷費
	復舊費	物件費	△病傷費

○陸軍省訓令第十六號

明治四十二年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年六月十一日

陸軍營繕費補充資金

陸軍一般

陸軍大臣 子爵寺內正毅

歲入

款	項	目	節
陸軍營繕費補充資金收入	陸軍營繕費補充資金收入	△辨償及違約金	△印増設

○陸軍省訓令第十七號

明治四十二年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年六月十八日

歲出經常部

陸軍一般

陸軍大臣 子爵寺內正毅

款	項	目	節
軍事費	修繕費	△部内各隊修繕物件費	
	兵器彈藥費	兵器費	△試驗及摸範
		彈藥費	△試驗及摸範

明治四十二年六月 訓令 陸軍省第十七號

歳出臨時部		工兵器具費	輜重器具費	試驗及摸範	試驗及摸範
△ 災害費	△ 工兵第七大隊下士兵會所共 世兵會所共	△ 工兵第七大隊下士兵會所共 世兵會所共	△ 試驗及摸範	△ 試驗及摸範	△ 試驗及摸範

○司法省訓令第三號

典獄看守長 看守服裝規則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月二十八日

司法大臣 子爵岡部長職

監獄

第二條 典獄ノ正裝トハ 帽衣、袴、肩章、飾帶、刀、正緒、手套、下襟及ヒ短靴ヲ著裝スルヲ云フ

看守長ノ正裝トハ 飾帶ヲ除クノ外前項ニ掲ケタルモノヲ著裝スルヲ云フ

看守ノ正裝トハ 帽衣、袴、肩章、刀、刀緒、手套、下襟及ヒ靴ヲ著裝スルヲ云フ

夏衣、夏袴ハ正裝ニ用ウルコトヲ得ス

第三條 典獄、看守長ノ禮裝トハ 帽衣、袴、肩章、刀、正緒、手套、下襟及ヒ短靴ヲ著裝スルヲ云フ但帽ハ

第二條ニ依ルモ妨ナシ

第四條 典獄、看守長ノ常裝トハ 帽衣、袴、肩章、刀、常緒、手套、下襟及ヒ靴ヲ著裝スルヲ云フ但平常勤

務ノ場合ニ於テハ 肩章ヲ用非サルコトヲ得

看守ノ常裝トハ 帽衣、袴、刀、刀緒、手套、下襟及ヒ靴ヲ著裝スルヲ云フ

第八條 夏衣ハ 炎暑ノ際凡六月一日ヨリ九月一日迄ノ間以下同シ常裝ニ限リ着用スルコトヲ得夏衣ヲ着用スルトキ

ハ 夏袴ヲ着用スルモノトス但典獄、看守長ハ 夏衣ト冬袴トヲ併用スルモ妨ナシ

第十三條 日覆ハ 炎暑ノ際常裝ニ限リ之ヲ用ウルモノトス

第十五條 手套ハ 何レノ服裝ニ在テモ 白色ノモノヲ用ウルモノトス但常裝ノ場合ニ在テハ 夏衣ヲ

着用スルトキノ 外鼠、茶、茶褐色等ノモノヲ用ウルモ妨ナシ

下襟ハ 何レノ服裝ニ在テモ 白色ノモノヲ用ウルモノトス

第十六條 靴ハ 長短ノ二種トシ 黑色革製トス但典獄、看守長ハ 夏衣、夏袴着用ノ場合ハ 黑色ノモノ

ヲ用非サルモ妨ナシ

長靴ハ 雨雪、泥濘ノトキ 短靴ハ 其他ノ場合ニ於テ用ウルモノトス但長途ノ旅行又ハ 監外就業者

戒護等ノ際ニ於テハ 短靴、グートル又ハ草鞋脚絆ヲ用ウルコトヲ得

附則

本令ハ 明治四十二年勅令第七十號及ヒ 明治四十二年勅令第七十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
従前ノ制服ヲ着用スル場合ハ 仍従前ノ規定ニ依ルモノトス

○文部省訓令第八號

大臣官房會計課

直轄諸學校

帝國圖書館

明治四十二年勅令第七十號及ヒ 明治四十二年勅令第七十一號施行ノ日ヨリ之ヲ追加ス
明治四十二年六月二日 文部大臣 小松原英太郎

一歳入臨時部中末位ニ前年度繰入金ノ款用途指定寄付支出殘金ノ項學校費寄付ノ目ヲ加フ
一歳出臨時部用途指定費ノ款同名ノ項中末位ニ圖書器具及標本費ノ目ヲ加フ
○文部省訓令第九號

大臣官房會計課
直轄諸學校
帝國圖書館

明治四十二年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス
明治四十二年六月十四日

一歳入經常部學校及圖書館ノ款諸收入ノ項中末位ニ生徒養成費收入ノ目海軍造兵生徒養成費收入ノ節ヲ加フ
一資金部歳入維持資金收入ノ款中末位ニ交付公債端金受入ノ項同上ノ目期滿後收入ノ項同上ノ目ヲ加フ

○農商務省訓令第二十一號

山林局 林區署

明治四十二年農商務省訓令第八號科目表中歳出經常部森林費ノ款並同臨時部國有林野經營費ノ款各條給及諸給ノ項ノ末位ニ費與ノ目ヲ設置ス

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第二十二號

林區署

明治四十年訓令第一號大林區署長及小林區署長ノ權限ニ關スル件中左ノ通改正ス
明治四十二年六月七日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第二條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 高等官タル署員ニ訴訟ノ爲又ハ裁判所ノ證人參考人若ハ鑑定人トシテ大林區署管外ノ旅行ヲ命スルコト

同條第二號中但書ヲ削ル

同條第三號中判任官以下ノ及判任官タルヲ削ル

同條第四號中「二十圓ヲ二十五圓ニ六十錢ヲ八十錢ニ改ム

同條第十五號ヲ左ノ如ク改ム

不用物品賣拂ノコト

同條第十七號中「五十圓ヲ百圓ニ改ム

第三條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 前條第一號ノ二ニ依リ高等官タル署員又ハ第二號ニ依リ小林區署長ニ大林區署管外ノ旅行ヲ命シタルトキ

第五條第二項ヲ削ル

〔參照〕

農商務省訓令第一號(明治四十年一月二十九日)抄録

第二條 大林區署長ハ左ニ掲クル事項ヲ專決處分スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 小林區署長及其ノ署員ニ小林區署管外ノ旅行ヲ命スルコト但シ高等官タル小林區署長ノ大林區署管外旅行ヲ除ク

三 判任官以下ノ署員及判任官タル小林區署長ニ着陸歸省 藝藝 轉地療養又ハ旅行願ヲ許可シ及其ノ除服出仕ヲ命スルコト

四 月俸二十圓又ハ日給六十錢ヲ超エサル職員ノ命免及賞與ノコト

十七 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信、運搬等金額五十圓以内處理ノコト

第三條 大林區署長前條ニ依リ左ニ掲ケル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度退滯ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 前條第一號又ハ第二號ニ依リ大林區署管外ニ旅行ヲ命シタルトキ

第五條第二項

小林區署長前項ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度退滯ナク之ヲ大林區署長ニ報告スヘシ但シ第一號第六號第八號又ハ第十三號ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○農商務省訓令第二十三號

造林臺帳規程左ノ通相定ム

明治四十二年六月九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

林區署

造林臺帳規程

- 第一條 林區署ハ左ノ區分ニ從ヒ造林臺帳ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ
- 一 造林第一部及第三部ニ付テハ小林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調製整理シ其ノ副本ヲ大林區署ニ備附ヘシ
- 二 造林第二部ニ付テハ大林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調製整理シ其ノ副本ヲ關係小林區署ニ備附ヘシ
- 第二條 造林臺帳ハ左ノ九種ニ別チ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 一 人工植栽臺帳
 - 二 天然生育臺帳
 - 三 砂防植栽臺帳
 - 四 苗木養成臺帳
 - 五 防火線臺帳

- 六 林道臺帳
- 七 河川臺帳
- 八 貯木場臺帳
- 九 雜工臺帳

成林撫育ニシテ從來臺帳ニ記載ナキ植栽地ニ對スルモノ又ハ從來備ヘアル臺帳ニ記載ノ餘地ナキモノニ在リテハ前項各號ノ外別ニ成林撫育臺帳ヲ調製スヘシ

第三條

造林臺帳ハ左記各號ノ區分ニ依リ之ヲ整理スヘシ

一 人工植栽、天然生育、砂防植栽及防火線ハ事業區(事業區ナキ場合ハ豫察事業區、豫察事業區ナキ場合ハ團地)毎ニ各別冊トス但シ事業區ニシテ二以上ノ小林區署管轄區域ニ跨ル場合ニ於テハ各管轄區域ニ屬スル部分毎ニ別冊トス

第二條

苗木養成ハ苗圃毎ニ別冊トス

三 貯木場及雜工ハ一小林區ヲ通シテ各別冊トス

四 林道及河川ハ輸送ノ連絡アル一線路毎ニ各別冊トス但シ同一河川ニシテ名稱ヲ異ニスルモノニ在リテハ其ノ名稱ノ異ナル毎ニ別冊ト爲スコトヲ得

林道及河川ノ雜ハ各別冊トス

第四條

造林臺帳ハ臨時防火線ヲ除クノ外左記各號ノ區分ニ依リ各紙葉ヲ別チ逐年記入スルモノトス

- 一 人工植栽、天然生育及砂防植栽ハ事業箇所及著手年度
- 二 防火線、貯木場及雜工ハ箇所
- 三 苗木養成ハ播種年度及樹種
- 四 林道ハ幹線及各支線

五 河川ハ本流及各支流
 六 林道及河川ノ雜ハ種類
 臨時防火線ニ在リテハ特ニ紙葉ヲ別タス施行ノ順序ニ依リ逐次記載スルモノトス
 第五條 造林臺帳ハ豫定ノ事業成功ノ都度記載スルモノトス
 第六條 造林臺帳ニハ苗圃及貯木場ニ限り箇所毎ニ平面圖ヲ添附シ其ノ他ハ每冊ニ位置圖ヲ添附スヘシ
 第七條 事業費ニシテ各種ノ事業ニ共通使用シタルモノハ其ノ施行高ニ應シテ適宜按分シテ整理スルモノトス
 第八條 造林臺帳ニ記載シタル事項ニ關シ誤謬ヲ發見シタルトキハ朱ノ二線ヲ畫シテ之ヲ訂正シ又其ノ事項ヲ變更若ハ加除セントスルトキハ各記載例ニ依リ原數字ニ朱ヲ以テ括弧ヲ附シ其ノ結果ヲ登載シ備考又ハ摘要ニ其ノ事由及年月日ヲ記入シ主任官吏之ニ捺印スヘシ
 第九條 大林區署又ハ小林區署ニ於テ新ニ臺帳ニ記載シタルトキハ大林區署長ハ小林區署長ニ、小林區署長ハ大林區署長ニ之ヲ通知スヘシ其ノ之ヲ訂正シ變更シ若ハ加除シタルトキ亦同シ
 附則
 第十條 明治三十三年五月訓令第二十二號及同年十月林發第六十三號達ハ之ヲ廢止ス
 第十一條 本規程ハ造林第一事業ニ在リテハ四十二年度ニ於テ新ニ施設スルモノヨリ之ヲ適用シ四十二年度以前ノ施設ニ係ル事業ニシテ同年度以降其ノ補修ヲ爲スモノナルトキハ尙從來ノ臺帳ニ引續キ之ヲ記載スルモノトス
 造林第二事業ニ在リテハ從來ノ臺帳ニ記載セルモノト雖其ノ全部ヲ本規程ニ依ル臺帳ニ移記シ順次整理スルモノトス但シ本規程ニ依ル記載事項中調査シ能ハサルモノハ空欄ト爲スコトヲ得
 (別記)

經常部(特別經營部)
 人工植栽(天然生育)(砂防植栽)臺帳
 何々事業區(何々國有林園地)

何々大林區
 何々小林區署

明治四十二年六月 訓令 農商務省第二十三號 造林養護規程

經常部(特別經營部)
 河 川 臺 帳
 何 々 川

何 々 大 林 區 署

二二九

番號

登記 番號	實 行 年 度	總 括 入 番 號	種 別	數 量	經 費	備 考

明治四十二年六月 訓令 農商務省第二十三號 造林養護規程

二三八

勅語騰本ノミヲ下付セラレタル學校ニ在リテハ校舍内最清淨ナル場所若ハ職員室内ノ高所ニ尊
重ニ奉置スヘシ

第三條 御影竝 勅語騰本ヲ奉置セル學校ニ在リテハ職員ヲシテ宿直セシムヘシ
勅語騰本ノミ奉置セル學校ニ於テモ亦同シ

第四條 非常變災ノ爲豫メ奉遷所ヲ定メ置クヘシ

第五條 御影竝 勅語騰本ハ儀式ヲ舉行スル場合ノ外他ニ假用セシムルコトヲ得ス

第六條 御影竝 勅語騰本奉置ノ學校ニシテ廢校シタル場合ハ 御影竝 勅語騰本ヲ返納スヘシ
○統監府訓令第十五號(宣報六月二十八日)

統監府鐵道廳

統監 子爵會禰荒助

統監府鐵道廳事務分掌規程左ノ通定ム

明治四十二年六月十九日

統監府鐵道廳事務分掌規程

第一條 統監府鐵道廳ニ左ノ六課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

- 一 運輸課
- 二 工務課
- 三 建設課
- 四 工作課
- 五 計理課
- 六 庶務課

第二條 運輸課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 旅客、貨物ノ輸送及運賃ニ關スル事項
- 二 列車ノ運轉、船舶ノ運航ニ關スル事項
- 三 鐵道用電氣通信ニ關スル事項
- 四 運輸成績ノ調査及統計ニ關スル事項

第三條 工務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 線路及建造物ノ修理、保存及改良ニ關スル事項
- 二 用地ニ關スル事項

第四條 建設課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鐵道ノ建設ニ關スル事項

第五條 工作課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 車輛及機械ノ設計ニ關スル事項
- 二 車輛及機械ノ製作修理ニ關スル事項
- 三 運轉上ノ技術ニ關スル事項

第六條 計理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 歳入歳出ノ豫算、決算ニ關スル事項
- 二 歳入歳出ノ出納及監査ニ關スル事項
- 三 鐵道用品ノ調度ニ關スル事項

第七條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 文書ノ收受、發送ニ關スル事項
- 二 人事ニ關スル事項
- 三 統計報告ニ關スル事項

四 他課ニ關セサル事項

第八條 長官ハ必要ニ應シ事務官又ハ技師ノ内若干名ヲ指定シ屬務ノ監督ヲ爲サシムルコトヲ得

○統監府訓令第十六號(官報 六月二十八日)

統監府鐵道廳地方事務所ヲ左ノ地ニ置キ其ノ名稱左ノ通定ム

統監府鐵道廳

名 稱

位 置

龍山營業事務所

龍 山

平壤營業事務所

平 壤

營業事務所ハ統監府鐵道廳ノ事務ヲ分掌シ出張所ハ建設ニ關スル事務ヲ分掌ス

出張所ノ事務ノ開始期日ハ統監府鐵道廳長官之ヲ定ム

明治四十二年六月十九日

統監 子爵曾禰荒助

○内務省訓令第七號

炎暑ノ際ニ於テ警察巡閱ヲ行ヒ又ハ受クル者ノ服裝ハ常裝ヲ用ウルコトヲ得

明治四十二年七月二日

警視廳 府縣 東京府
内務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省訓令第二十號

明治四十一年三十大藏省訓令第十四號專賣局旅費支給規則中左ノ通改正ス

專賣局

明治四十二年七月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第四條中專賣ニ關スル検査査定收納賣渡ノ下ヘ回送保管ノ四字ヲ挿入ス

第六條中判任官ハ車馬賃又ハ日額金四拾錢以內雇員ハ車馬賃又ハ日額金參拾錢以內判任官及雇員トモ車馬賃又ハ日額金五拾錢以內ニ改ム

〔參照〕

大藏省訓令第十四號專賣局旅費支給規則(明治四十一年三月二十八日)抄録

第四條第一項

專賣ニ關スル検査査定收納賣渡指定引渡及專賣取締ノ爲メ其ノ區域内ノ巡回或收納賣渡回送保管及工事督役ノ爲メ支那局又ハ支所所在地若ハ其ノ他ノ用務地ニ滞在中ノ旅費ハ判任官及見習員ハ日額金壹圓貳拾錢以內雇員ハ日額金壹圓以內ヲ支給ス

第六條第一項

煙草製造作業監督ノ爲メ專賣局製造所又ハ同分工場所在地區域内ノ巡回ニシテ遠距離ニ涉ルトキ又ハ所在地準所在地ニ非ルモ陸路一里以內汽車路五哩以內水路五哩以內ノ地へ出張ノ旅費ハ判任官ハ車馬賃又ハ日額金四拾錢以內雇員ハ車馬賃又ハ日額金參拾錢以內其ノ以外ノ地へ出張ノ旅費ハ判任官ハ日額金八拾錢以內雇員ハ日額金六拾錢以內專賣局製造所又ハ同分工場所在地準所在地以外ノ作業場所在地ニ常駐在中ノ旅費ハ判任官ハ日額金七拾錢以內雇員ハ日額金六拾錢以內ヲ支給ス

○大藏省訓令第二十一號

明治四十一年三月大藏省訓令第十五號專賣局作業歳入取扱規程中左ノ通改正ス

大藏大臣 侯爵桂太郎

專賣局

第一條 中支所長ヲ支署長ニ改ム

第二條 左ノ如ク改ム

第二條 本規程ニ於テ支部局ト稱スルハ專賣支局又ハ專賣局製造所ヲ謂ヒ支署ト稱スルハ專賣局、專賣支局及專賣局製造所ノ出張所支所又ハ試験場ヲ謂フ但シ專賣局伏見工場ハ之ヲ支部局ト看做ス

第六條 中支所ヲ支署ニ改ム

第九條 及第十一條 中支所ヲ支署ニ支所長ヲ支署長ニ改ム

第十條 左ノ如ク改ム

第十條 支署ニ於テ發スル納入告知書ニハ其ノ納入告知書及之ニ接續スル通知書若ハ報告書中取扱應名(專賣局專賣支局又ハ專賣局製造所名)ノ左側ニ其ノ支署名ヲ記入スヘシ

第一號書式中(延)ノ文字ヲ削リ及備考ノ二ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ必要ナキトキハ之ヲ略スルコトヲ得

第二號書式中(延)ノ文字ヲ削リ及支所ヲ支署ニ改ム

第三號書式ニ左ノ備考ヲ加フ

備考

一 必要ニヨリ累計ヲ付スルコトヲ妨ケス

第四號書式中支所ヲ支署ニ改メ及左ノ備考ヲ加フ

備考

一 必要ニヨリ領收金庫ノ異ナル毎ニ區分シタル本月中收入濟額ノ内譯ヲ適宜ノ箇所ニ附記スルコトヲ妨ケス

第七號書式ヲ左ノ通改ム

<p style="margin: 0;">第七號書式</p> <p style="margin: 10px 0 10px 40px;">明治何年度</p> <hr style="width: 80%; margin: 10px auto;"/> <p style="margin: 0 0 10px 40px;">專賣局作業歳入收入過不足額整理簿</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <p style="margin: 0;">備考</p> <p style="margin: 0;">一本簿ハ過誤納ト徵收不足トノ口座ニ別テ之ヲ整理スヘシ</p> </div> <p style="margin-top: 20px; text-align: center;">某 廳</p>

過 誤 納 (徴收不足)											
決 議	所長	主任	年月日	摘 要	所屬元年度	科 目		過不足額		債主又ハ納人住所氏名	處分ノ額未
						項 目	何々	何々	何々		
①	①	①	何々	何月何日何分何秒何入ニ(徴收不足)	何年何度	何々	何々	15000	何	何市町村某	何年何月何日何分何秒何入ニ(徴收不足)
②	②	②	何々	何々	何年何度	何々	何々	5000	何	何々	何年何月何日何分何秒何入ニ(徴收不足)

○大藏省訓令第二十二號

明治四十一年三月大藏省訓令第十六號專賣局作業費豫算經理規程中左ノ通改正ス

專賣局

明治四十二年七月十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第二條ヲ左ノ通改ム

第二條 本規程ニ於テ支部局ト稱スルハ專賣支局又ハ製造所ヲ謂ヒ支署ト稱スルハ專賣局、專賣支局又ハ專賣局製造所ノ出張所、支所又ハ試驗場ヲ謂フ但シ專賣局伏見工場ハ之ヲ支部局ト看做ス

第五條中支所ヲ支署ニ改メ及左記ヲ左ノ通改ム

- 一 備品消耗品及通信運搬ニ關スル諸費
 - 二 旅費
 - 三 傭人及職工ニ給スル諸費
 - 四 煙草元賣捌人ニ交付スヘキ製造煙草運搬費
 - 五 煙草專賣法第三十九條ニ依リ相殺ヲ爲ストキ交付スヘキ金額
- 第五號書式ヲ左ノ通改ム

明治四十二年七月 訓令 陸軍省第十八號

○陸軍省訓令第十八號
明治四十二年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス
明治四十二年七月二日

陸軍大臣 子爵寺内正毅
陸軍一般

二五五

第五號書式

明治何年度

專賣局作業費

仕拂過不足額整理簿

某 廳

備考
一 本簿ハ過誤拂ト拂不足トノ口座ニ別
テ整理スヘシ

過誤拂(拂不足)何々(目)何々(節)

決 議		摘 要	整理額		處分濟額		處分未済額		處分ノ額末
所由	特異		圓	錢	圓	錢	圓	錢	
①	①	何月何日仕拂第何 號何某渡ノ内何々 ニヨリ過誤(誤拂)	0				0		何年何月何日返納
①	①	何某返納ノ分定額 戻入(歳入納付)			0		0		
①	①	何月何日何々代何 某渡ノ分何々ニヨ リ拂不足	0				0		何年何月何日仕拂
①	①	何々代拂不足ノ分 何某へ仕拂			0		0		
①	①	何年度仕拂何々代 何某渡ノ分何々ニ ヨリ拂不足	0				0		何年何月何日仕拂
①	①	何年度分何々代拂 不足何某へ仕拂					0		

明治四十二年七月 訓令 陸軍省第二十三號

二五四

○陸軍省訓令第十九號

明治四十二年度當省所管歲入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年七月十五日

歳出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

款	項	目	節
軍事費	修繕費	△本位 其陸軍皮病院病室	

○陸軍省訓令第二十號

明治四十二年度當省所管歲入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年七月十九日

歳出經常部

陸軍大臣 子爵寺内正毅

△印増設

陸軍一般

款	項	目	節
軍事費	修繕費	△本位 陸軍火藥庫兵大隊宿營 青森陸軍官舎敷地 護岸修繕 東京陸軍院事務室 其他修繕 △鳳山歩兵分遣隊兵舎修繕	
		△本位 歩兵第二十聯隊屋 根修繕 歩兵第九聯隊藥庫 庫移轉	

○農商務省訓令第二十五號

其縣下習志野原御獵場及江戸川筋御獵場ノ區域中左記ノ箇所ヲ明治四十二年六月三十日限り削除相成タル旨宮内大臣ヨリ照會アリタルニ付此旨心得ヘシ

明治四十二年七月八日

農商務大臣 男爵大浦兼武

内務大臣 法學博士 田東助

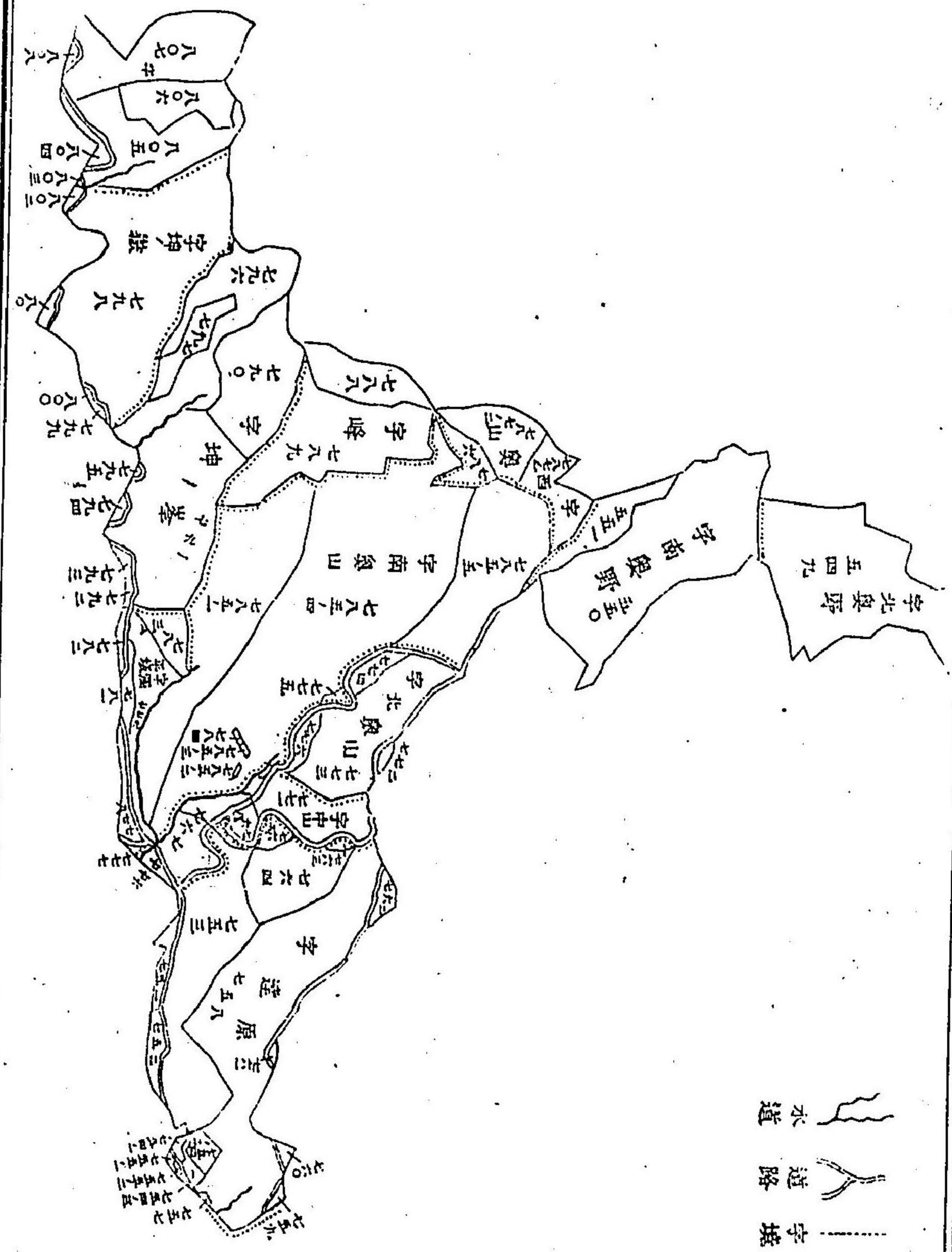
郡

習志野原御獵場

大字

小

村	大字	小
藤村	神保 久保 佐山 木野 小池 平野	



○農商務省訓令第二十七號

明治三十六年十一月二十二號 農商務省訓令第二十二號 大林区署職員服制禮式規程第三章禮式ヲ左ノ通改正ス

第三章 禮式

農商務大臣 男爵大浦兼武

第十三條 小林區署職員制服ヲ着用シタルトキハ本章ノ規定ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第十四條 敬禮ヲ分チテ室內ノ最敬禮、敬禮及室外ノ最敬禮、敬禮トス室內トハ居室、事務室、應接室、會議室、食堂等ヲ謂ヒ廊下、階段、製材工場等ハ室外トス

第十五條 皇族以上ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

外國ノ君主、皇族、大統領ニ於ケルモ亦前項ニ同シ

第十六條 內閣總理大臣、各省大臣、上官及職務ニ關係アル上級官吏ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ各國大使公使ニ對シテモ亦同シ

小林區署員ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ

第十七條 内外國官民ヲ問ハス敬禮ヲ行フトキハ之ニ答禮スヘシ

第十八條 二人以上ニ對シ同時ニ敬禮ヲ行フトキハ其ノ最高級ノ人ニノミ之ヲ行フモノトス此ノ場合ニ於テハ該最高級者ノミ答禮スルヲ例トス

第十九條 室內ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り直立シテ兩足ヲ整ヘ右手ニテ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ其ノ內部ヲ袴ノ縫目ニ著ケ劍ヲ鉤ヨリ外シ左手ヲ以テ其ノ柄ノ上部ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

第二十條 兩陛下ニ拜謁スルトキハ御室ニ入り一タヒ最敬禮ヲ行ヒ更ニ玉座ヲ距ルコト五六歩ノ處ニ進ミ再タヒ最敬禮ヲ行ヒ其ノ儘二三歩退歩シ右回轉ヲナシ御室ノ出口ニ於テ三タヒ最敬禮

シ然ル後退出スヘシ但シ特ニ式アルトキハ此ノ限リニ在ラス
 皇族及外國ノ君主、皇族、大統領ニ於ケルモ亦前項ニ同シ
 第二十一條 室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取リ直立シテ兩足ヲ整ヘ劔ヲ鉤ヨリ外シ左手ヲ以テ其ノ柄ノ上部ヲ握リ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ敬スヘキハニ注目スヘシ
 第二十二條 行幸行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍ヤ前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面乘車スル車駕五六歩前ニ近ツクトキ最敬禮ヲ爲シ五六歩過キ去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ
 皇族及外國ノ君主、皇族、大統領ニ於ケルモ亦前項ニ同シ
 第二十三條 室内ノ敬禮ハ敬スヘキハニ對シ姿勢ヲ正シ右手ニテ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ其ノ内部ヲ袴ノ縫目ニ著ケ左手ヲ以テ劔ノ鞘ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ但シ帽ヲ携ヘサルトキハ右手ヲ垂下スヘシ佩劔セサルトキハ左手亦同シ
 第二十四條 室内ニ入ルトキハ戶外ニ於テ帽及外套ヲ脱スヘシ但シ下級ノ者ノ室内ニ入ルトキハ外套ヲ脱セサルモ妨ナシ
 第二十五條 室外ノ敬禮ハ敬スヘキハニ對シ姿勢ヲ正シ左手ヲ以テ劔ノ鞘ヲ握リ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ受禮者ニ注目スヘシ但シ佩劔セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ
 車上ニ在ルトキハ前項ニ準シ乗車ノ儘敬禮ヲ行フモ妨ナシ
 第二十六條 上官其ノ他上級官吏ト同行スルトキハ其ノ左側若ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限リニ在ラス
 第二十七條 室外ニ於テ物品ヲ携帶其ノ他ノ事由ニ依リ第二十五條ノ敬禮ヲ行フコト能ハサルトキハ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

第二十八條 上官其ノ他敬禮スヘキ上級官吏ヨリ命令諭告等ヲ受ケ或ハ之ニ對シ事ヲ陳述スルトキハ起立シテ姿勢ヲ正スヘシ但シ其ノ許可アルトキハ著席スルモ妨ナシ
 第二十九條 上官其ノ他敬禮スヘキ上級官吏ヨリ書類其ノ他ノ物品ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキハ其ノ三四歩前ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ受クル所ノ物其ノ場ニ於テ披見ヲ要スレハ左手ヲ副テ披見スヘシ返簡又ハ領收證等ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ
 第三十條 狹隘ナル道路、橋梁又ハ廊下、階段等ニ於テ上官其ノ他敬禮スヘキ上級官吏ニ出會シタルトキハ相當ノ敬禮ヲ行フノ外途ヲ讓リテ其ノ通過ヲ待ツヘシ
 第三十一條 消防犯罪人追跡、刑事被告人護送其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ敬禮ヲ行フ限リニ在ラス
 附則第十八條ヲ第三十二條ニ改ム
 ○農商務省訓令第二十八號

大林區署

林區署旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十二年七月二十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第五條第三項中「判任官」ノ下ニ「及雇員」ヲ加フ

第七條ノ二 前條ニ依リ支給スル日額ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ減額スルコトヲ得

○統監府訓令第十七號（官報 七月二十四日）

統監府特許局

統監府特許局會計事務ニ關スル手續ハ明治四十一年六月統監府訓令第十一號理事廳會計事務章程ニ

依ルヘシ但シ同章程中理事官ノ職務ハ局長、屬ノ職務ハ屬又ハ審査官補之ヲ行フ

明治四十二年七月十七日

統監 子爵曾禰荒助

○統監府訓令第十八號(官報 七月三十一日)
理事應監獄在監人身分帳簿接見簿及死亡帳樣式別冊ノ通定△(別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ)

附 則

本令ハ明治四十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年七月二十四日

○陸軍省訓令第二十一號

陸軍一般

明治四十二年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍大臣 子爵寺内正毅

明治四十二年八月十四日

歳出臨時部

△印増設

款	項	目	節
災害費	△ 其他災害(兵分隊事務)	△ 横須賀憲兵分隊事務 其他火災復舊	
△ 罹疫馬匹補充費	△ 罹疫馬匹補充費	△ 馬匹買上代	

○文部省訓令第十號

大臣官房會計課

直轄諸學校

帝國圖書館

明治四十二年度學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通り追加ス

明治四十二年八月十一日

文部大臣 小松原英太郎

一資金部歳入特別資金收入ノ款中末位ニ獎學資金誤拂返納金ノ項同上ノ目ヲ加フ

○農商務省訓令第二十九號

明治三十八年六月農商務省訓令第十五號ハ砂鑛業出願地ニ關シ之ヲ準用ス
明治四十二年八月三日

〔參照〕

明治三十八年六月十農商務省訓令第十五號ハ鑛山監督官長鑛業ニ關スル願書受理ノ場合地方長官ニ通知ノ件ナリ
○農商務省訓令第二十號

獸醫假免許手續中左ノ通改正ス

明治四十二年八月三日

第一條第三號ノ次ニ左ノ各號ヲ追加ス

- 一出願區域中他ニ開業者ノ有無若シ之アルトキハ其ノ資格
- 一現ニ開業者アル鄰接營業區域トノ距離及牛馬交通ノ難易
- 一繼續出願ノモノニ在リテハ從來假免許開業中ノ成績及本人性行ノ概略
- 一特ニ假免許開業者ヲ置クヲ要スル理由
- 一出願者ノ技能其ノ他假免許ヲ與フルノ當否ニ關スル意見

○農商務省訓令第二十一號

蹄鐵工假免許手續中左ノ通改正ス

明治四十二年八月三日

北海道廳 府縣
農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條第二號ノ次ニ左ノ各號ヲ追加ス

- 一出願區域中他ニ開業者ノ有無若シ之アルトキハ其ノ資格
- 一現ニ開業者アル鄰接營業區域トノ距離及牛馬交通ノ難易
- 一繼續出願ノモノニ在リテハ從來假免許開業中ノ成績及本人性行ノ概略
- 一特ニ假免許開業者ヲ置クヲ要スル理由
- 一出願者ノ技能其ノ他假免許ヲ與フルノ當否ニ關スル意見

○農商務省訓令第三十二號

明治四十二年農商務省令第三十二號但書ニ依リ韓國政府ニ於テ行ヒタル檢疫ノ證明書ヲ有スル輸入生牛ノ獸疫檢疫規則第八條第一項ニ依ル緊留期間ハ之ヲ九日以内トス但シ必要アリト認ムルトキハ此ノ期間ヲ二十日以内ニ延長スルコトヲ得

右訓令ス

明治四十二年八月五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第三十三號

明治三十三年農商務省訓令第十四號中左ノ諸表ヲ廢止ス

明治四十二年八月二十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

- 第三號 不要存置林野處分編入總括表
- 第八號 賠償
- 第九號 補償

大林區署

〔參照〕

明治三十三年四月十日農商務省訓令第十四號ハ林野整理支局統計報告調製手續ナリ

○逓信省訓令第一號

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲出願セル水ノ使用ヲ許可セントスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除ク外電氣起業ノ目的竝水力ニ關スル設計ノ大要及圖面ヲ具シ豫メ本大臣ニ稟伺スヘシ使用權ノ讓渡其ノ他事業ニ著シキ變更ヲ許可セントスルトキ亦同シ

明治四十二年八月七日

逓信大臣 男爵後藤新平

北海道廳 府縣

○大藏省訓令第二十三號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
造幣局 印刷局 專賣局 稅關
稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部
本年^三大藏省訓令第五號明治四十二年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第四款雜收入第五項雜入中^二第十一目臺灣銀行配當金ノ目ヲ追加ス

明治四十二年九月十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第二十四號

明治二十六年^{十二}大藏省訓令第七十七號諸貸付金取扱規程第五條第八條ヲ左ノ通改正シ第六條ハ之ヲ削除ス

北海道廳 府縣

明治四十二年九月三十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第五條 諸貸付金返納期限又ハ年月賦金ノ割替等既定契約ノ變更及債務者ノ失踪逃亡其他已^ハコトヲ得サル事由アリテ雜種貸ヨリ据置貸ニ組替ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ事情ヲ調査シ之ヲ許可スルコトヲ得
但二十年ヲ超ユル返納延期ヲ許可スル場合ニ於テハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ甲號書式ニ依リ三箇月毎ニ異動報告ヲ調製シ翌月(四月七月十月)十五日限り大藏省ニ送付スヘシ
一 新タニ貸付金ニ編入シ又ハ除却シ若クハ返納ヲ受ケタルトキ
二 貸付金ノ種目ヲ組換タルトキ

三 債務者代替改姓名轉居シタルトキ
 四 第七條ニ依リ引繼ヲナシ又ハ引繼ヲ受ケタルトキ

〔參照〕

大藏省訓令第七十七號 貸付金取扱規程(明治二十六年十二月二十六日)抄錄
 第五條 貸付金返納期限ノ伸縮又ハ年月賦金ノ調整等既定契約ノ變更ニ關スル事項ハ特ニ大藏大臣ノ認可ヲ得タル場
 合ノ外之ヲ許可スルコトヲ得ス但繰上ケ返納ニ係ルモノハ此限ニアラス
 第六條 債務者失踪逃亡其他已ムコトヲ得サル事由アリテ雜種貸付ヨリ 據置貸ニ組換ヲ要スルモノアルトキハ事由ヲ詳具シ
 大藏省ニ稟申スヘシ
 第八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ甲號貸付式ノ報告書ヲ開製シ翌月十五日限り其地ヲ發立テ大藏省ニ送付スヘシ
 一 新タニ貸付金ニ編入シ又ハ除却シ若クハ返納ヲ受ケタルトキ
 二 貸付金ノ種目ヲ組換タルトキ
 三 債務者代替改姓名轉居シタルトキ
 四 第七條ニ依リ引繼ヲ爲シ又ハ引繼ヲ受ケタルトキ

○陸軍省訓令第二十二號

明治四十二年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年九月四日

陸軍大臣 子爵寺内正毅
 △印増設

款	項	目	節
軍 費	修 繕 費	不位ニ	△基隆重砲兵隊兵舎

○陸軍省訓令第二十三號

明治四十二年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年九月十五日

陸軍大臣 子爵寺内正毅
 △印増設

款	項	目	節
軍 費	修 繕 費	不位ニ	

歳出臨時部

款	項	目	節
韓國事件行費	旅 費		

雜給及雜費	雜 費	不位ニ	△移轉手當
-------	-----	-----	-------

ル各學校ノ設備ヲ利用スル等最モ簡易ナル方法ニ依リテ教育ノ普及ヲ圖ラシムル様指導監督共ノ宜シキヲ得ンコトヲ努メラルヘン

明治四十二年九月四日

○文部省訓令第十二號

文部大臣 小松原英太郎

北海道廳 府縣

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言フ俟タズ從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ訓戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ訓育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タシコトヲ要ス因テ各學校ニ於テハ自今飲酒ノ取締ニ就キ一層家庭ト聯絡ヲ保ツコトニ注意シ以テ教育ノ效果ヲ完ウセシコトヲ努ムヘン

明治四十二年九月九日

○文部省訓令第十三號

文部大臣 小松原英太郎

直轄諸學校

教育ハ人物ノ養成ヲ以テ主眼トス普通教育ト專門教育トヲ問ハス常ニ重キヲ品性ノ陶冶ニ置クヘキコト論ヲ俟タズ故ニ直轄諸學校ニ於テモ從來此ノ點ニ注意ヲ怠ラサリシハ本大臣ノ認ムル所ナリ是等諸學校ノ生徒ハ既ニ中學校以下ニ於テ修身教育ヲ受ケタルモノナリト雖道德上ノ觀念尙堅實ヲ缺キ各種ノ誘惑ニ陥リ易ク德育上最モ注意ヲ要スル時期ニ屬ス故ニ自今直轄諸學校ニ於テハ一層力ヲ修身ノ教育ニ致シ定時ニ修身ノ教授ヲ爲スノ外必要ニ應シ隨時訓誨ヲ施シテ生徒ノ道義的觀念ヲ鍊成シ以テ實踐躬行ノ意志ヲ強固ナラシメシコトヲ要ス又學校長及教官ハ常ニ協心戮力シ躬ヲ學校德育ノ中心ト爲リテ生徒ヲ薰陶シ以テ教育勅語及戊申詔書ノ聖旨ヲ貫徹セシコトヲ努ムヘン

明治四十二年九月十三日

文部大臣 小松原英太郎

○農商務省訓令第三十四號

明治四十二年農商務省訓令第八號科目表中歳出臨時部尾國有林復舊費ノ款尾國有林復舊費ノ項ノ未位ニ死傷手當ノ目ヲ設置ス

明治四十二年九月二日

農商務大臣 男爵大浦兼武

警視廳 北海道廳府縣 東京府 府縣

明治三十二年農商務省訓令第十五號中左ノ通追加ス但シ沖繩縣ニ於テハ此ノ目途金ヲ七十圓以內ニ増額スルコトヲ得

明治四十二年九月十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

明治三十二年三月三日農商務省訓令第十五號ハ獸疫豫防法施行上臨時借入ル、獸醫ニシテ監督ノ任ニ當ル者手當金ノ件ナリ

○内閣訓令第一號

警視廳 北海道廳 府縣

近來北海道及東北地方ニ流行スル馬疫ノ豫防ニ關シテハ曩ニ臨時馬疫調査委員會ヲ設ケ專ラ之カ
 研究調査ニ從事セシムル所ナルモ未タ其ノ原因病性等ヲ斷定スルノ域ニ達セス從テ目下直ニ之ニ
 對シ獸疫豫防法ヲ適用シ又ハ特別ノ豫防法ヲ制定スルコト能ハスト雖本疫ノ傳染性タルコトハ疑
 フ容レサルノミナラス其ノ病症ノ間歇期ニ於テハ病馬ノ外觀殆ント健馬ト異ナラサル爲各地方ニ
 轉々賣買セララルモ多ク病毒日ヲ追フテ蔓延スルノ狀況ナルカ故ニ今ニ於テ適當ノ豫防手段ヲ
 講スルニ非サレハ遂ニ馬産上回復スヘカラサル損害ヲ醸スヘシ各廳長官ハ宜シク此ノ主旨ヲ體シ
 左記馬疫豫防心得並病症說明書ヲ普ク管内ニ示シ馬匹所有者ヲシテ病性ヲ知悉セシムルト共ニ豫
 防ノ實行ヲ諭達獎勵シ以テ本馬疫ノ傳播ヲ防止スルコトニ努力スヘシ

右訓令ス

明治四十二年十月三十日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵大浦兼武

馬疫豫防心得

- 第一 本疫ハ主トシテ放牧期節中ニ多發スルモ他ノ期節ニ於テモ往々發病シ又放牧セサル使役馬
 ニモ發生スルコトアリ
- 第二 本疫ノ傳播ハ病馬及治癒不全ナル快復馬ノ媒介ニ基クモノニシテ殊ニ轉賣移動ノ爲漸次東
 北地方ヨリ南方ニ蔓延スルノ傾向アリ
- 第三 本疫ノ豫防ニ關シ馬匹ノ所有者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ實行スルヲ可トス
 - 一、本疫ノ初期ニ十分ノ手當ヲ施ストキハ治癒ノ望ナキニ非サルヲ以テ平素馬匹ノ容態ニ
 注意シ聊タリトモ異狀ヲ發見セハ直ニ獸醫ノ診察ヲ受クルコト

第四

- 一、凡テ馬匹ノ健康ヲ増進スルハ豫防上緊要ナルヲ以テ流行地ニ於テハ飼料飲料ニ注意シ成ルヘク滋養物ヲ給シ飲料水ヲ選ムコト水ハ煮沸ノ後飲用セシムレハ最モ可ナリ
 - 二、病馬ハ勿論快復馬ト雖急劇ニ使役スルハ宜シカラス之カ爲病勢ヲ増進シ又ハ再發ノ虞アルヲ以テ成ルヘク長ク休養セシムルコト
 - 三、本疫流行地ニ於テ買入レタル馬匹ハ獸醫ヲシテ検査セシメ尙成ルヘク一、二箇月間隔離觀察シ其ノ健全ナルヲ認メタル後ニ非サレハ在來ノ馬匹ト混同シ又ハ同一放牧場ニ放シタルコト
 - 四、本疫ノ發生セル原野ニハ他ノ健馬ヲ放牧セサルコト
 - 五、共用放牧場ニ於テ本疫發生シタルトキハ病馬ハ直ニ厩舎ニ收容シテ手當ヲ爲シ殘餘ノ放牧馬モ成ルヘク厩舎ニ牽入ル、ヲ可トス若シ厩舎ニ牽入ル、コト能ハサルトキハ放牧ノ儘一、二箇月間嚴重ニ觀察シ獸醫ヲシテ時々健康診斷ヲ行ハシムルコト
 - 六、本疫流行地ニ於テハ成ルヘク蛇蠅ヲ避クヘキ手段ヲ講スルコト
 - 七、全治ノ見込ナキ重症病馬又ハ恢復後體質不良ニシテ到底使役ニ供シ難キモノハ成ルヘク撲殺スルコト
 - 八、屍體、排泄物、厩舎、器具等ハ總テ消毒ヲ行フコト
 - 九、糞便及敷糞ハ安全ナル場所ニ堆積シ約四尺立方積ニ達スルノ後土ヲ以テ之ヲ覆ヒ二箇月間醗酵セシメタル後肥料ニ供スルコト
 - 十、厩舎等ノ消毒ニハ熱湯汁、石灰乳等ノ消毒藥ヲ用フルコト
 - 十一、屍體ハ深ク埋没スルコト但シ皮膚ハ豫メ亂截シ糞兒、クレシン等ノ惡臭消毒藥ヲ注キ發掘ヲ防グコト
- 本疫流行地ノ產馬組合等ニ於テ規約ヲ定メ左ノ事項ヲ實行スルトキハ豫防ノ效果一層大ナ

第五

- 一、放牧原野殊ニ入會地ハ適當ニ區劃シ亂牧ヲ禁スルコト
 - 二、放牧地ニ於ケル排水ノ便ヲ圖ルコト
 - 三、獸醫ヲシテ隨時放牧馬ノ健康診斷ヲ爲サシムルコト
 - 四、本疫流行地ヨリ他ニ轉出スル馬匹ニハ獸醫ノ健康證明書ヲ添附シ又流行地ヨリ購入スル馬匹ハ必ス獸醫ヲシテ検査セシムルコト
 - 五、各流行地ニハ隔離病舎ヲ設クルコト但シ隔離病舎ハ成ルヘク人家及放牧地ヨリ遠サカリ且相當ノ設備ヲ爲スコト
- 前諸項ノ外地方廳ニ於テハ流行地方ニ對シ取締上左ノ事項ヲ實施スルコトヲ要ス
- 一、馬匹ノ所有者、管理人又ハ獸醫木疫ニ罹リ又ハ其ノ疑アル病馬ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨警察官署又ハ市町村役場ニ届出ツルコト
 - 二、前項ノ届出ヲ受ケタル市町村役場ハ警察官署ニ之ヲ通知スルコト
 - 三、鄰接地方廳ハ本疫ノ發生傳播ノ狀況ヲ相互通知スルコト
 - 四、第一號届出ノ病馬ハ成ルヘク時々地方廳ノ主任技師又ハ經驗アル獸醫ヲシテ検査シ診斷ノ當否ヲ確メシムルコト
 - 五、現ニ本疫ニ罹レル馬匹ハ成ルヘク移動放牧ヲ止メ、症候減退後ト雖約二箇月間ハ觀察ニ付シ其ノ間發症スルトキハ更ニ觀察期ヲ延長スルコト但シ觀察中ノ馬匹ハ場所ヲ限リテ使役セシムルコトヲ得
 - 六、本疫ニ罹リタル疑アル馬匹ハ前號ニ準シ少クトモ一箇月間觀察ニ付スルコト
 - 七、屍體排泄物其ノ他病毒ニ汚染シタル物件ハ之ヲ消毒スルコト

病症說明書

傳染性貧血 俗稱ぶらり病

本病ハ馬屬固有ノ傳染病ニシテ放牧地ニ於テ蔓延シ易ク主ニ放牧季節ニ流行スルモ舍飼ノ馬冬季ノ季節ニモ發生スルコトアリ病性頑固ニシテ治療ニ應ジ難ク死亡率ハ百頭中四十乃至七十二達ス病毒ノ本體ハ尙不明ナレトモ病馬及快復馬ノ血液及内臟中ニ存スルコトハ試驗ニ依リテ證明セラレタリ乃チ血液ヲ健馬ニ注射スルカ又ハ之ヲ嚥下セシムルトキハ五六日乃至二十二日平均二週日ノ後ニ發病ス

〔傳染法〕 ハ未ダ詳カナラス佛獨ノ研究者中消化器傳染ニ重キヲ置キ病毒ニ汚染セル厩舎飼槽水槽等ノ媒介ニ依リテ傳染スルモノト信シ或ハ昆蟲類ノ媒介ニ因ルト唱フルモノアリ

一部落ヨリ他ノ部落ニ傳播スルハ常ニ病馬ヲ移轉スルニ由ル殊ニ本疫ニ罹リテ一時症候ノ減退セラル馬ハ轉賣セラレ易キヲ以テ甚タ危險ナリ

〔症候〕 本病ノ特徵ハ腺疫感冒等ノ原因ナクシテ發熱シ心悸脈搏ニ異狀ヲ來セシ漸次貧血ニ陥リ瀉瘦スルモ食欲多クハ減損セス

通常畜主ノ目ニ觸ルハノ症候ハ大略左ノ如シ
病馬ハ厩舎内ノ一隅ニ佇立シ頭ヲ垂レテ沈鬱シ羸モ身傍ノ事ニ注意セス使役中ハ倦怠疲勞シテ發汗シ易ク歩様蹣跚タリ放牧地ニ於テハ他ノ馬群ト離レ頭ヲ垂レテ沈鬱スルヲ見ル此際檢温スレハ概ネ三十九度以上四十一二度ノ高熱ヲ示シ脈數ハ増加シ平素四十搏内外ノモノ五六十乃至七八十ニ増加シ甚シキハ百内外ヲ算ス手ヲ左胸壁ニ抵スレハ心悸ノ亢進セルヲ觸知ス或ハ其ノ部ニ於テ心臟ノ鼓動ヲ目視ス又下頸部ニ於テハ脈管靜脈ノ搏動スルヲ見ル眼鼻口ヲ開キ其ノ粘膜ヲ檢スルニ概シテ黃色ヲ帶フ病ノ初期ハ黃赤色若ハ濃赤色ニシテ黃色判然セサルコトアルモ一度貧血ニ陥リタルモノハ顯著ノ黃白色ヲ呈スルヲ特徵トス此色彩ハ殊ニ結膜ニ著シク且結膜ハ眼腺ト共ニ多

少浮腫スルモノ多シ又結膜及鼻結膜ニハ細小ノ血斑ヲ生シ顔面頸部胸腹下部四肢等ニハ浮腫ヲ見ルコト多シ

更ニ精密ニ診査シ且排泄物ニ注目スルトキハ左ノ症狀ヲ發見スヘシ

頸間部ニ輕微ノ腫脹アルモ腺疫ニ於ケルカ如ク甚シカラス且熱痛ヲ帶ホス

腰部ノ知覺ハ鈍クシテ尾ニカナシ

呼吸ハ増加スルコトアルモ打診及聽診上著シキ異常ナク肺ハ健全ナルヲ常トス

心臟ノ濁音界ハ擴張シ心悸ニモ屢ニ異狀ヲ認ム例之貧血性雜音心悸ノ重複濁濁弛張間歇等ノ如シ

糞ハ褐色ノ小塊ヲナス青草ノミヲ食スルモノニ在リテハ必シモ然ラス往々下痢スルモノアリ

尿量ハ増加スルヲ常トス而シテ發熱中竝ニ重症ノ貧血ニ陥リタル馬ノ尿ハ概ネ多量ノ蛋白ヲ含有ス尿ニ醋酸ヲ加ヘテ煮沸スレハ絮狀ノ沈澱ヲ生ス

畜主ノ注意如何ニ因リテ病馬ノ發見ニ遲速アリ隨テ發見當時ノ容態一様ナラサルハ論ナシ然レトモ初期ノ症候ハ輕々看過セラレ多クハ既ニ慢性ニ陥リ顯著ノ貧血ヲ呈シ或ハ已ニ痼削ス斯ル病馬ニ於テハ循環器ノ異狀ヲ主トシ熱候ハ缺如スルコトアリ

心臟ノ異常ハ運動後殊ニ顯著ナリ試ニ病馬ヲ厩舎ヨリ牽出スニ概シテ歩行ヲ厭ヒ馳走ニ耐ヘス後體ニ力ナク歩様蹣跚トシテ脚ハ震搖シテ蹉跌シ易ク暫時運動セシムレハ速ニ倦怠疲勞シ鞭撻ヲ加フルニ非サレハ一步モ前ムコトヲ肯セサルニ至ル運動後左胸壁ヲ望メハ心臟部ノ跳動盛ニシテ頸靜脈ノ搏動モ亦旺盛ナリ脈數ハ屢ニ百以上ニ達シ容易ク元氣ニ復セス呼吸モ亦促進ス此際最明瞭ニ異常ノ心悸ヲ聽取シ得ルモノトス

輕症又ハ恢復中ノ馬ヲ驅使スル場合ニ於テモ亦前記ノ症候ヲ認ム阪路ヲ登ラシムル時殊ニ甚シ

〔經過〕 病症ニ由リ發病後數日ニシテ斃ルモノアリ或ハ數箇月ニ瀕ルモノアリ因テ本病ヲ急性

慢性ノ二症ニ區別ス

急性症 高熱留シテ顯著ノ循環器障得ヲ呈シ脈ハ百内外、食慾ハ振ハス粘膜ノ出血諸部ノ浮腫水腫ヲ發シ數日ノ後殆ルヲ常トス

慢性症 ニ在リテハ熱ハ一旦發生スルモ一二日若ハ數日ニシテ分利シ元氣食慾ヲ回復シ暫時健康状態ヲ示スモ其後數日(七日乃至一週日)ヲ隔テ更ニ再ニ發症スルモノトス之カ爲メ病馬ハ漸次貧血ニ陥リ瘦削シ衰弱ノ極起立ニ耐ヘス稀削心臓麻痺等ノ爲メ殆ル又慢性經過中病勢頓ニ増劇シ急ニ死スルモノアリ又幸ニシテ病勢衰フレハ全治セサルニアラサルモ恢復期遷延シ久シク羸瘦スルモノ多シ或ハ五六箇月乃至七八箇月ノ後更ニ發症スルモノアリ三四歳ノ馬ニ於テハ屢、其ノ發育ノ障得セラルルヲ見ル

初回ノ熱候減退後ハ外觀全ク病前ニ異ナラス粘膜ノ黃色及血斑亦多クハ消散シ痕跡ヲ留メサルニ至ル只鼻粘膜ノ大血斑ハ壞死シテ潰瘍ニ變スルモノ多シ
再ニ發作ヲ反復スルニ隨ヒ粘膜漸次黃白色ニ變ス
食慾ハ發熱時ヲ除クノ外殆ント平日ニ異ナラス糞尿ノ性状ハ前ニ述フルカ如シ
脈數ハ常ニ五六十以上ニ居リ心悸亢進鼓動變調シ呼吸數ハ増加シ疲勞倦怠發汗シ易ク力役、馳走負重ニ耐ヘス殊ニ後體ニ力ナシ

浮腫ハ屢、増減消長シ創傷ハ癒合シ難シ
熱候ノ回歸スル度數及無熱期ノ長短ハ一様ナラサルモ通常十日乃至十四五日ヲ隔テテ發病シ極熱期一日乃至三日ニシテ二三回ノ發作ヲ呈スルモノ最多ク五回以上ニ及フハ稀ナリ

血液ハ稀薄ニシテ其ノ凝固ハ緩慢不全ナリ之ヲ試驗管ニ受ケテ靜置スルトキハ赤血球ハ速ニ沈澱シテ管底ニ集リ其ノ上ニ多量ノ黃白色軟凝塊ヲ生シ血清ノ分離不具ナリ赤血球層ノ容積ハ健馬ニ在リテハ血液全量ノ十分ノ四以上ナルヲ常トスレトモ本病馬ニ在リテハ十分ノ二、五以下ニ居ル又健馬ノ血液ハ一立方「ミリメートル」中ニ約六七百萬箇ノ赤血球ヲ算フルモ本病馬ニ在リテハ其ノ數三四百萬若ハ一百萬以下ニ減ス此他白血球、血小板等ニモ多少ノ異狀ヲ見ル
勞働、放牧、不適當ノ飼養管理法ハ本病ノ再發ヲ促シ經過ヲシテ不具ナラシム寄生蟲及合併症亦本病ノ經過ニ不具ノ影響ヲ及ホスモノナリ

〔剖視〕 本病ノ屍體ニ於テハ熱ト貧血トノ結果タル循環器系統血液製造器ノ變狀、臟器實質ノ變性ノ外特種ノ病的變狀ヲ見サルヲ常トス

急性症ノ屍體ハ概シテ敗血症ノ變狀ヲ呈シ血液ハ暗色濃厚ニシテ凝固不全ナリ此他皮下粘膜漿液膜殊ニ心臓ノ内外膜、腎臟、腸粘膜等ノ出血皮下及心囊水腫心肝腎ノ濁腫、急性脾腫淋巴腺ノ腫脹、充血又ハ出血骨髄出血等ヲ主要ノ變狀トシ腦脊髓ニハ水腫若ハ大出血ヲ見ルコトアリ

慢性症ノ屍體ニ於テハ水腫、出血實質炎、脾腫淋巴腺肥大ノ外大貧血ヲ呈シ皮下血管ハ血液ニ乏シク大血管内ニハ少量ノ凝集血球ヲ交ヘタル黃白色ノ血漿又ハ黃白赤色ノ軟凝塊ヲ含有ス

臟器中變狀ノ最著シキハ心臓ニシテ屢、極度ノ脂肪變性ヲ見ル脾腫及脾門ノ淋巴腺腫肝臟變血、脂化及白血性浸潤ノ如キモ亦屢、遭遇スル變狀ナリトス

大貧血ノ外著明ノ解剖的變狀ヲ見サル場合モ亦尠シトセス

〔類症〕 本病ト最モ誤診セラレ易キハ血斑病、流行性感胃、ボルナ病其ノ他内臟寄生諸症ナリ或ハ老衰使役過度、慢性胃腸病、營養不給其ノ他症候隱微ノ慢性病ニシテ本病ノ疑ヲ起サシムルモノナキニアラス

血斑病ハ概ネ腺疫ニ繼發シ大腫脹、大出血ヲ呈シ「コロイド」銀ノ注射ニ應シ血液ニ傳染力ナク屍

體ニ於テハ淋巴腺ノ膿腫又ハ其ノ周圍組織ノ膿液ヲ見ル
白血病ニ於テハ血液ニ特異ノ變狀アリ
流行性感冒ハ展々大流行ヲ來タシ熱ノ回歸ヲ呈セス其ノ屍體ニ於テハ肺臟及呼吸器ノ他部ニ變
狀ヲ見ル
他ノ諸症ハ各自ノ症候ニ據リテ容易ニ鑑識スルヲ得

〔診察〕 本病ノ診察上最難シトスル所ハ其ノ經過ニ弛張間歇アリテ症候ノ消退後ハ一見殆ント健
體ト異ナル所ナキニ在リ故ニ症候不全ノ場合ニハ一回ノ検査ニ依リテ輕シク否認ノ斷案ヲ下スヘ
カラス必ス一定ノ期間觀察スルヲ要ス他ニ合併症アルトキハ殊ニ然リ
疲勞倦怠發汗シ易ク營養不良ニシテ精膜ノ血色ニ乏シキ或ハ之ニ黃色ヲ帶フルモノ脈數五十以上
ノモノ輕微ノ運動ニ因リテ脈搏增加シ心悸亢進シ易キモノ時々沈鬱スルモノ他ニ異狀ナクシテ體
温ノ高キモノ浮腫血斑ヲ呈スルモノ放牧中馬群ニ離ルルモノ歩樣踉蹌トシテ尾ニ力ナキモノ等ハ
本病ノ疑アルヲ以テ他ノ馬匹ト隔離シ一二箇月間觀察スヘシ但シ觀察中ハ時々運動ヲ課シテ心機
變調ノ有無ヲ檢スルヲ要ス

〔診斷〕 疑アルトキハ試驗管沈澱法ニ依リテ赤血球層ヲ檢シ又ハ尿ノ蛋白質検査、死後剖檢等ヲ
要ス
粉翼ノ熱候回歸シ心悸亢進失常シ精膜黃白色ヲ呈シテ試驗管ニ受ケタル赤血球層十分ノ二以下
ニ居リ他ニ特殊ノ病徵ヲ呈セサルモノハ本病ト鑑定シテ可ナリ

○内務省訓令第八號

其派管長缺職ニ付後任管長選舉就任ニ至ル迄ノ間一等教師大橋海應ヲシテ宗制寺法ニ依リ管長ノ
職務ヲ取扱ハシム

明治四十二年十月二十九日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省訓令第二十五號

稅關

明治三十八年勅令第五百七號ニ依ル鹽及鹽藏魚類ノ輸出ニ關シ稅關事務取扱方左ノ通相定メ明
治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年五月大藏省訓令第四十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年十月二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 第一條 鹽專賣法第十九條第一項第一號ニ依リ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者鹽ノ輸出申告書ヲ提出シタ
ルトキハ鹽專賣官署ヨリ發シタル鹽賣渡通知書ニ照査シ現品ヲ検査シテ其ノ數量ヲ檢定スヘシ
- 第二條 前條ノ檢定ハ鹽全部ノ重量ヲ秤量シテ之ヲ定ムヘシ但シ同一包裝ニ在リテハ百ニ付五ノ
割合(五十以上ニ上ルトキハ五十ニ止ム)ヲ以テ適宜包裝ヲ摘出秤量シ其ノ數量ヨリ風袋量ヲ控
除シタル平均量目ヲ全包裝數ニ乘シテ其ノ數量ヲ算定スルコトヲ得
- 第三條 鹽專賣法第十八條又ハ第十九條第一項第三號ニ依リ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者鹽ノ輸出申告
書ヲ提出シタルトキハ現品ヲ検査シ第二條ニ依リ其ノ數量ヲ檢定スヘシ
- 第四條 鹽藏シタル鰵又ハ鱈ノ輸出申告書ヲ提出シタルトキハ現品ヲ検査シ第二條ニ準シ鹽藏魚
類ノ重量ヲ檢定スヘシ
- 第五條 鹽又ハ鹽藏魚類ヲ輸出シタル者アルトキハ毎月末日第一號書式ノ鹽及鹽藏魚類輸出通知
書ヲ調成シ第一條ニ該當スル鹽ニ付テハ賣渡鹽專賣官署ニ、第三條ニ該當スル鹽及第四條ニ該
當スル鹽藏魚類ニ付テハ出港地所轄鹽專賣官署ニ之ヲ送付スヘシ

第六條 税關ハ第二號書式ノ鹽及鹽藏魚類輸出整理簿ヲ設備シ鹽賣渡通知書 鹽及鹽藏魚類輸出申告書等ニ依リ必要ノ事項ヲ記入スヘシ

第七條 税關ハ毎月第三號書式ニ依リ鹽及鹽藏魚類輸出報告表ヲ調製シ翌月十五日迄ニ專賣局ニ報告スヘシ

第八條 交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚類ヲ輸入シタル者アルトキハ第四號書式ニ依リ鹽藏魚類輸入通知書ヲ調製シ輸入港所轄鹽專賣官署ニ之ヲ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ税關ハ鹽專賣官署ヨリ追徴金納入濟通知書ヲ受理シタル後ニ非サレハ輸入者ヲシテ現品ヲ引取ラシムルコトヲ得ス

鹽及鹽藏魚類輸出通知書

輸出月日	輸出物種類	同數量	輸出先地名	積載船名	寄港地名	輸出者住所氏名	備要
何月何日	何	何斤	何	何	何	何	何
何月何日	何	何斤	何	何	何	何	何
何月何日	何	何斤	何	何	何	何	何
何月何日	何	何斤	何	何	何	何	何

明治何年何月何日 何專賣支局(何出張所)宛

何 税 關 印

備考 外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ニ付テハ摘要欄ニ於テ其ノ旨ヲ明カニスヘシ

第二號書式(鹽及鹽藏魚類輸出整理簿)

出 申 告					備 考
輸出物種類	輸出物數量	輸出先	積載船名	寄港地	
何	何斤	何	何	何	
何	何斤	何	何	何	
何	何斤	何	何	何	
何	何斤	何	何	何	
何	何斤	何	何	何	

明治何年何月何日	何 稅 關 國
何專賣支局(何出張所)宛	

〔参照〕

明治三十八年九月五日大藏省訓令第四十二號ハ鹽及鹽藏物ノ輸出並ニ交付金下附ニ關シ稅關事務取扱方ナリ

○大藏省訓令第二十六號

警 視 廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課
 造 幣 局 印刷局 專 賣 局 稅 關
 稅務監督局 稅務署 釀造試驗所 大藏省臨時建築部

本年三 大藏省訓令第五號明治四十二年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第一款租稅第十七項舊稅追納中ニ第二目沖繩縣酒造免許稅ノ目ヲ追加ス

明治四十二年十月八日

○大藏省訓令第二十七號

大藏大臣 侯爵桂太郎

北海道廳 府 縣 稅務監督局

明治二十三年大藏省訓令第五百五號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十月十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔参照〕

明治二十三年六月二日大藏省訓令第五百五號ハ大藏省所管經費中仕拂豫算ヲ以テ仕拂命令委任シタルモノ、過誤拂ヲ爲シタルトキ取扱手續ナリ

○大藏省訓令第二十八號

稅務監督局 稅務署

耕地整理地取扱手續左ノ通定ム

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十二年十月二十六日

第一條 耕地整理施行者ヨリ整理施行ノ認可アリタルコトノ申告アリタルトキハ相當調査ヲ爲シ其ノ地區内ニ耕地整理法第十五條第一號ノ土地アルトキハ工事著手前實地臨檢ノ上毎筆地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シ土地臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ

第二條 耕地整理施行者ヨリ工事完了ノ申告アリタルトキニ於テ耕地整理法第十四條第一項第三項及第十五條第二號ニ依リ從前ノ地域ニ依リ地價ヲ設定又ハ修正スヘキ土地アルトキハ實地臨檢ノ上直ニ之カ設定又ハ修正ヲ爲スヘシ

第三條 耕地整理施行者ヨリ地價配賦ノ請求アリタルトキハ實地臨檢ノ上毎筆ニ地番ヲ附シ相當ニ地價ヲ配賦スヘシ

第四條 整理地ノ地番ハ其ノ地區内ニ於ケル從前ノ地番中首位ニ在ルモノヨリ順次之ヲ附シ從前ノ地番ノ最終番ヲ超エル場合ニ於テハ便宜ノ土地ニ付一三三三等ノ符號ヲ附シタル地番ヲ用フヘシ但シ其ノ順位ニ當ル地番地區外ノ土地ニ在ルカ爲重複スルトキハ之ヲ除外スヘシ

第五條 耕地整理法施行規則第十五條ニ該當スル土地アルトキハ實地ノ狀況ニ依リ工事ノ利益ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査シ相當處理スヘシ

第六條 整理地ニ關スル土地臺帳ノ登錄ハ新ニ之ヲ爲シ從前ノ登錄ハ其ノ沿革欄ニ異動ノ事由ヲ

明治四十二年十月 訓令 大藏省第二十八號

○陸軍省訓令第二十七號

明治四十二年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年十月二十二日

陸軍大臣

子爵寺內正毅

陸軍一級

歳出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	△近衛師團司令部附 屬建物其他修繕	

○司法省訓令第四號

明治三十五年^{十二}司法省訓令第四號中左ノ通改正シ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月十一日

司法大臣

子爵岡部長職

監獄

致謝原簿様式ヲ別紙ノ通改正シ就學人名簿、就學者出監人名簿ヲ廢止シ教育簿ヲ設ケ其様式ヲ別紙ノ通相定ム但別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ

○農商務省訓令第三十六號

明治四十二年農商務省訓令第八號科目表へ左記ノ通追加ス

明治四十二年十月七日

農商務大臣

男爵大浦兼武

山林局 林區署

歳出經常部		(未位ニ△印ヲ増設ス)	
款	項	目	解 疏
森 林 費	認 費	△標 本 費	木材利用調査ニ關 スル標本

○農商務省訓令第三十七號

國有林野耕地整理施行地區編入手續左ノ通定ム

明治四十二年十月十四日

農商務大臣

男爵大浦兼武

大林區署

國有林野耕地整理施行地區編入手續

第一條 國有林野ヲ整理施行地區ニ編入ノ申請アリタルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ大林區署長之ヲ認許スヘシ但シ面積二町步ヲ超ユルトキ又ハ編入ヲ認許スヘカラスト認メタルトキハ意見ヲ具シ稟伺スヘシ

前項ノ認許書ハ之ヲ地方長官ニ送付スヘシ

第二條 前條ノ認許ヲ與フルハ整理施行地區内ノ不要存置林野ニシテ整理施行上必要ノ箇所ニ限ル

第三條 地方長官ヨリ第一條ノ申請書ノ送付アリタルトキハ速ニ實地ノ調査ヲ爲スヘシ

第四條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立認可ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ整理施行地區ニ編入シタル國有林野ノ賣拂手續ニ着手スヘシ

第五條 整理施行地區ニ編入ヲ認許シタル國有林野ノ内道路、堤塘、溝渠、溜池等他ノ官有地ニ組替ヲ要スルモノハ工事完了ノ後組替ノ手續ヲ爲スヘシ

附則

第六條 本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第七條 前數條ノ規定ハ耕地整理法施行前發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者カ國有林野ヲ耕地整理地區ニ編入セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

○農商務省訓令第三十八號

大林區署

明治三十年九月農商務省訓令第二十四號宿直及徹夜者食料支給方左ノ通改正シ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス

明治四十二年十月十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

宿直及徹夜者食料支給規則

- 第一條 宿直及徹夜者ノ食料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
判任官、雇員及巡視ノ宿直ハ一回金十四錢、徹夜ハ一回金二十錢
給仕、小使及小者ノ宿直ハ一回金十一錢、徹夜ハ一回金十六錢
- 第二條 小林區署内ニ居住ノ者ニハ前條ノ食料ヲ支給セス
製材所員ニシテ現業員勤勉手當ノ支給ヲ受クル者ニハ徹夜ノ場合ト雖其ノ食料ヲ支給セス
- 第三條 第一條ノ食料ハ翌月五日以内ニ之ヲ支給スヘシ

○農商務省訓令第三十九號

千葉縣

其縣下千葉郡豐富村ノ内大字八木ヶ谷大神保、神保新田及小室、印旛郡白井村ノ内大字復根、木折

立及富塚、東葛飾郡風早村ノ内大字藤ヶ谷及高柳ヲ本年十月二十五日習志野原御獵場ニ編入シタル旨宮内大臣ヨリ照會アリタルニ付此旨心得ヘシ

明治四十二年十月三十日

農商務大臣 男爵大浦兼武
内務大臣 法學博士 田東助

○遞信省訓令第二號

海務局 海務署

明治三十三年十二月遞信省訓令第四號船舶検査手續中左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ施行ス

明治四十二年十月七日

遞信大臣 男爵後藤新平

- 第十一條 第一項中「六種ヲ」七種ニ改メ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク
- 二 漁船検査證書交付簿

第六號書式(甲)ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ
漁船検査證書交付簿

第六號書式(甲)ノ二

證書番號	本船番號	信號符字	船名	船籍港	検査回数	證書交付年月日	船員定員	汽機種類	汽壓制限	汽鐘種類	前出證書	業務種類
					年月日	明治 年 月 日						

航路定期	若ハ噸石數	船長免狀
	所有者	種類及氏名
航行期間	從明治	檢査官吏名
	至明治	
航路定期	年月日	年月日
	年月日	

○統監府訓令第十九號(官報十月九日)

統監府特許局

明治四十一年八月統監府訓令第十七號統監府特許局分課規程左ノ通改正ス

統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年十月二日

統監府特許局分課規程

- 第一條 統監府特許局ニ第一審査課、第二審査課、庶務課及特許品陳列所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 第一審査課ニ於テハ發明及意匠ノ審査致分類ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 第二審査課ニ於テハ商標ノ審査致分類ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第四條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 書類、雛形又ハ見本ノ接受發送、保管ニ關スル事項
 - 二 圖面ノ調製、書類ノ膠木及證明ニ關スル事項
 - 三 原簿登錄ニ關スル事項

- 四 各官廳其ノ他トノ通信、報告ニ關スル事項
- 五 内外國ノ文書翻譯ニ關スル事項
- 六 報酬額決定ニ關スル事項
- 七 公報其ノ他印刷物ノ編纂發行ニ關スル事項
- 八 圖書閱覽ニ關スル事項
- 九 著作權ニ關スル事項
- 十 特許代理業者ニ關スル事項
- 十一 他課ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第五條 特許品陳列所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 内外國ノ特許發明、登錄實用新案、登錄意匠ノ見本雛形及登錄商標其ノ他參考品ノ陳列ニ關スル事項
 - 二 陳列品ノ觀覽ニ關スル事項
 - 三 陳列品ニ關スル照會應答其ノ他必要ナル事項
 - 四 陳列品ノ貸付又ハ讓渡ニ關スル事項

○大藏省訓令第三十一號

明治三十九年^三大藏省訓令第四號内國稅徵收費科目中俸給及諸給ノ項末位ニ勅任俸給ノ目及局長ノ節ヲ追加ス

稅務監督局

明治四十二年十一月十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第三十二號

明治三十四年^三大藏省訓令第八號經費取扱規程第四條中「奏任俸給及判任俸給」ヲ勅任俸給又ハ奏任俸給ト判任俸給トニ改正ス

稅務監督局

明治四十二年十一月十七日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省訓令第三十三號

明治三十六年^五大藏省訓令第二十一號中「一月及七月」ヲ削除ス

稅務監督局

明治四十二年十一月二十四日

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔参照〕

明治三十六年^五大藏省訓令第二十一號ハ稅務監督局及稅務署現在員數給額報告ノ件ナリ

○陸軍省訓令第二十八號

陸軍一般

明治四十二年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年十一月一日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

明治四十二年十一月 訓令 大藏省第三十一號 第三十二號 第三十三號 陸軍省第二十八號

○陸軍省訓令第三十一號

明治四十二年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年十一月三十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍一級

歲出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	未位ニ	
		△高橋小波外野地等の置 其他修繕費	
歲出臨時部			
災 害 費	未位ニ		
	△其他修繕費 其他修繕費		
		△步兵第二十四聯隊 兵舎其他修繕費	

○海軍省訓令第一號

明治三十八年海軍省訓令第二號ヲ廢ス

明治四十二年十一月十九日

海軍大臣 男爵齋藤實

道廳 府縣

〔參照〕

明治三十八年十一月海軍省訓令第二號ハ海軍下士卒ニシテ免官免役後原籍變更ノ者在籍領守府ニ通知ノ件ナリ

○農商務省訓令第四十號

大林區署

明治四十年七月農商務省訓令第十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十一月一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

〔參照〕

明治四十年七月農商務省訓令第十八號ハ林務報告例ナリ

○農商務省訓令第四十一號

道廳 府縣

藻手線網、藻打網、藻漕網及藻曳網ノ漁業ハ或ル種ノ水族ヲ捕獲スルモノヲ除クノ外細少ナル網目ノ漁網ヲ以テ水族ノ育生及棲息ニ好適ナル場所ニ於テ使用スルモノナルニ依リ稚兒ヲ濫獲シ蓄殖ヲ害スルコト尠カラス近時魚類需用ノ増加ト價額ノ騰貴トニ從ヒ愈々其ノ弊ヲ逞フシ水族ノ蓄殖保護上頗ル憂慮ニ堪ヘサルモノアリ因テ此等有害ノ漁業ヲ禁止スルコトハ必要ノコトニ屬ス然ルニ該漁業ニ從事スル者ハ概ネ小漁民ナルヲ以テ今直ニ之ヲ禁止スルトキハ其ノ生計上ノ困難ヲ惹起スルコト之レアルヘキヲ以テ相當ノ年月ヲ期シ漸次ニ之ヲ禁止スルノ方針ヲ定メ從來許可シタルモノヲ除クノ外新ニ之ヲ許可スヘカラサルハ勿論事情ノ許ス限リ其ノ數ヲ遞減シ又ハ漁業ノ時期及網目ノ制限ヲ設ケテ終ニ之ヲ全廢ノ期ニ達セシメント期スヘシ

瀬戸内海ニ於テハ關係府縣ノ管轄區域及漁業關係ノ錯綜スルト共ニ該漁業ニ伴フ弊害著シキヲ以

テ特ニ今般右ニ付省令ヲ發布シタルニ依リ關係地方長官ハ其ノ旨趣ヲ體シ水族ノ蕃殖保護上遺憾ナキヲ期スヘシ

明治四十二年十一月十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第四十二號

北海道廳 府縣

明治三十七年九月農商務省訓令第十一號農商務統計樣式中第四九號樣式ニ依ル報告ハ明治四十二年及以後毎五年即六年目ニ該當スルモノハ之ヲ爲スコトヲ要セス

明治四十二年十一月二十五日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○逕信省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治二十四年八月逕信省訓令第八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十一月十一日

逕信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

明治二十四年八月逕信省訓令第八號ハ郡區市境界ノ變更及町村字名ノ分合改稱等アルトキ報告方ナリ

○統監府訓令第二十號(官報十一月四日)

統監府法務院

統監府司法廳及統監府裁判所開廳ノ際司法事務引繼方左ノ通心得ヘシ

明治四十二年十月二十一日

統監 子爵曾禰荒助

一 司法行政事務ハ之ヲ統監府司法廳ニ引繼クヘシ

二 訴訟及非訟事件ニ關スル事務中既決ニ屬スルモノハ高等法院ニ、未決ニ屬スルモノハ京城控訴院ニ之ヲ引繼クヘシ

三 檢察事務中既決ニ屬スルモノハ高等法院檢察局ニ、未決ニ屬スルモノハ京城控訴院檢察局ニ之ヲ引繼クヘシ

四 前三項以外ノ事務ハ之ヲ統監府ニ引繼クヘシ

五 前各項ノ事務ノ引繼ヲ爲スト共ニ其ノ事務ニ關スル文書、金錢及物件ヲ引渡スヘシ

○統監府訓令第二十一號(官報十一月四日)

理事廳

統監府裁判所開廳ノ際司法事務引繼方左ノ通心得ヘシ

明治四十二年十月二十一日

統監 子爵曾禰荒助

一 訴訟及非訟事件ニ關スル事務中既決ニ屬スルモノハ別表ニ依リ當該地方裁判所又ハ同支部ニ、未決ニ屬スルモノハ明治四十二年統監府令第二十八號同第二十九號同第三十號ニ依リ之ヲ取扱フヘキ裁判所ニ之ヲ引繼クヘシ

二 檢察事務中既決ニ屬スルモノハ別表ニ依リ當該地方裁判所檢察局又ハ同支部檢察局ニ、未決ニ屬スルモノハ明治四十二年統監府令第二十八號同第二十九號同第三十號ニ依リ之ヲ取扱フヘキ裁判所檢察局ニ之ヲ引繼クヘシ

三 前各項ノ事務ノ引繼ヲ爲スト共ニ其ノ事務ニ關スル文書、金錢及物件ヲ引渡スヘシ

別表

既決事務ヲ引繼クヘキ理事廳名	既決事務ノ引繼ヲ受クヘキ裁判所名	群山理事廳	水浦理事廳	光州地方裁判所全州支部同檢察局
金山理事廳	金山地方裁判所同檢察局	京城理事廳	京城地方裁判所同檢察局	光州地方裁判所水浦支部同檢察局
馬山理事廳	金山地方裁判所同檢察局	仁川理事廳	京城地方裁判所仁川支部同檢察局	京城地方裁判所同檢察局

平壤理事廳 平壤地方裁判所同檢事局
 鎮南浦理事廳 平壤地方裁判所同檢事局
 元山理事廳 咸興地方裁判所元山支部同檢事局
 咸興地方裁判所清津支部同檢事局
 咸興地方裁判所清津支部同檢事局
 ○統監府訓令第二十二號(官報十一月四日)

大邱理事廳 大邱地方裁判所同檢事局
 清津理事廳 咸興地方裁判所清津支部同檢事局
 新義州理事廳 平壤地方裁判所新義州支部同檢事局

本年統監府令第三十一號施行ノ際理事廳監獄事務ハ左ノ手續ニ依リ之ヲ統監府監獄ニ引繼クヘン
 明治四十二年十月二十一日 統監 子爵會禰荒助

理事廳監獄事務引繼手續

- 第一條 理事廳監獄事務ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ當該典獄又ハ分監長ニ引繼クヘン
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 引繼ヲ爲ス
(キ理事廳) | 受繼ヲ爲ス
(キ統監府監獄) |
| 仁川理事廳 | 京城監獄仁川分監 |
| 京城理事廳 | 永登浦監獄 |
| 元山理事廳 | 咸興監獄元山分監 |
| 清津理事廳 | 咸興監獄清津分監 |
| 平壤理事廳 | 咸興監獄清津分監 |
| | 平壤監獄 |
- 第二條 諸帳簿諸表及文書ハ目錄ニ對照シテ引繼クヘン
 未完結文書ノ引繼ニ付テハ其ノ事由書ヲ添附スヘン
- 第三條 在監人ハ身分帳若ハ之ニ代ハルヘキ簿書ニ對照シテ之ヲ引繼クヘン 假出獄若ハ假出場ヲ許サレタル者ニ付テハ其ノ人名等ヲ記載シタル調書理事廳ニ於テ埋葬シタル在監人ノ遺體若ハ遺骨ニ付テハ死亡帳及埋葬ノ場所等ヲ記載シタル書類ヲ引繼クヘン
- 第四條 監獄、分監若ハ出張所ノ所在地ニ在ル理事廳監獄ニ拘禁スル刑事被告人ハ其ノ所在地

警察署ニ引繼クヘン

- 第五條 監獄事務ニ專用スル官有財產物品等ハ帳簿若ハ目錄ニ對照シテ之ヲ引繼クヘン
- 第六條 在監人領置金品(遺留金)ハ各人別ニ帳簿若ハ目錄ニ對照シテ之ヲ引繼クヘン
- 第七條 作業ノ受負及委託ニ關シ從來契約ニ依リタルモノアルトキハ其ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ引繼クヘン
- 作業受負人若ハ作業委託人ヨリ提供シタル作業器具及素品等ニ付テハ第五條ノ例ニ依ル
- 第八條 作業賞與金ノ計算高ハ帳簿若ハ調書ヲ以テ引繼クヘン
- 第九條 典獄又ハ分監長ニ於テ前數條ノ外特ニ文書ヲ作製シテ受授ヲ明カニセムコトヲ請求シタルトキハ理事廳ハ之ニ應スヘン
- 第十條 理事廳ハ引繼ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘン
- 統監府訓令第二十三號(官報十一月四日)
- 明治四十年統監府訓令第二十一號統監府事務分掌規程中左ノ通改正ス
- 明治四十二年十月二十一日 統監 子爵會禰荒助
- 第八條 第四號中司法及「行政」ニ改ム
- 附則
- 本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府訓令第二十一號統監府事務分掌規程(明治四十年十月十五日官報)抄錄
 第八條 地方部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 四 司法及警察ニ關スル事項

○統監府訓令第二十四號（官報十一月四日）

統監府司法廳分課規程左ノ通定ム

統監府司法廳

子爵會禰充助

明治四十二年十月二十一日

統監府司法廳分課規程

第一條 統監府司法廳ニ職員課庶務課民事課及刑事課ヲ置ク
各課ニ長ヲ置ク

第二條 職員課ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌ス

一 機密ニ關スル事項

一 裁判所、監獄ノ設置、廢止及管轄區域ニ關スル事項

一 職員ノ進退、身分並出張ニ關スル事項

一 裁判所及監獄職員ノ試験ニ關スル事項

一 辯護士ノ職務ニ從事スル者ノ身分及監督ニ關スル事項

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌ス

一 文書ノ接受、發送及淨寫ニ關スル事項

一 文書ノ翻譯、編纂及保存ニ關スル事項

一 長官ノ官印及應印ノ管守ニ關スル事項

一 統計ニ關スル事項

一 官報及公報ニ掲載スヘキモノニ關スル事項

一 經費及諸收入ノ豫算並會計ニ關スル事項

一 官有財産ニ關スル事項

一 保管金ノ收支及物品ノ出納ニ關スル事項

一 廳舎ノ建築及修繕ニ關スル事項

一 會計ノ監督ニ關スル事項

一 廳内ノ取締ニ關スル事項

一 傭人ノ使役ニ關スル事項

一 他課ノ主宰ニ屬セサル事項

第四條 民事課ニ於テハ民事及非訟事件ニ關スル事務ヲ管掌ス

第五條 刑事課ニ於テハ刑事檢察、監獄恩赦及出獄人保護ニ關スル事務ヲ管掌ス

○統監府訓令第二十六號（官報十一月四日）

統監府司法廳
統監府裁判所及檢事局

統監府裁判所及檢事局處務規程左ノ通定ム

統監 子爵會禰充助

明治四十二年十月二十一日

統監府裁判所及檢事局處務規程

第一條 裁判所又ハ檢事局ノ長ヨリ統監ニ請訓、具申又ハ報告ヲ爲スニハ別段ノ例規アルモノヲ
除ク外其ノ監督上官ヲ經由スヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ直ニ統監ニ請訓、具申又ハ報告ヲ爲
シ同時ニ其ノ監督上官ニ報告スヘシ

第二條 裁判所及檢事局ノ長ト中央官廳、在外國日本官廳及韓國中央官廳トノ間ニ往復スル文書ハ
別段ノ例規アルモノヲ除ク外統監ヲ經由スヘシ

第三條 統監ニ差出シ又ハ統監ヲ經由スヘキ文書ハ總テ司法廳長官ヲ經由スヘシ

第四條 高等法院長ハ統監ノ名ヲ以テ其ノ院ノ判事ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許否シ並除服出仕ヲ命ス

ルコトヲ得高等法院檢察事長ノ其ノ院ノ檢事ニ對スル亦同シ

第五條 控訴院長ハ統監ノ名ヲ以テ其ノ院ノ判事及其ノ管内ノ下級裁判所ノ判事ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許シ竝除服出仕ヲ命スルコトヲ得控訴院檢察事長ノ其ノ局及其ノ管内ノ下級檢事局ノ檢事ニ對スル亦同シ

第六條 高等法院長及高等法院檢察事長 控訴院長及控訴院檢察事長ハ統監ノ名ヲ以テ各其ノ院ノ書記、通譯官、書記及通譯生ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許シ竝除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第七條 前三條ニ依リ攝行ヲ爲シタル場合ハ其ノ長ヨリ速ニ之ヲ統監ニ報告スヘシ但シ書記及通譯生ニ對スル攝行ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條 地方裁判所長及檢事正ハ統監ノ名ヲ以テ其ノ廳及其ノ管内ノ區裁判所ノ書記及通譯生ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許シ竝除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第九條 裁判所及檢事局ニ出勤簿ヲ備置クヘシ

第十條 裁判所及檢事局ノ長ハ毎年一月及七月ノ兩度ニ之ヲ調査シ其ノ抄録ヲ統監ニ進達スヘシ

第十條 裁判所及檢事局ノ職員疾病、忌服其ノ他ノ事故ニ因リ缺勤スルトキハ各其ノ所屬廳ノ長官ニ届書ヲ差出スヘシ

第十一條 裁判所及檢事局ノ職員訴訟事件又ハ非訟事件ニ付其ノ廳所在地外ニ出張セムトスルトキハ直近監督上官ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ出張ノ後其ノ旨ヲ報告スヘシ

前項ニ記載シタル以外ノ事由ニ因リ其ノ廳所在地外ニ出張セムトスルトキハ統監ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ廳ノ書記ニ宿直ノ勤務ヲ命スヘシ

第十三條 裁判所及檢事局ノ長其ノ廳又ハ書記課ノ職務細則ヲ設クルトキハ統監ノ認可ヲ受クヘシ

シ但シ書記課ノ職務細則ハ裁判所及檢事局ノ長協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十四條 地方裁判所檢事局又ハ其ノ管内ノ區裁判所檢事局ニ於テ左ノ事件ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ速ニ之ヲ統監ニ報告スヘシ但シ支部ヲ設置シタル區裁判所檢事局ニ於テ受理シタル場合ハ其ノ檢事局ノ長ヨリ報告スルコトヲ得

一 刑法第二編第一章乃至第四章ノ犯罪

二 韓國刑法大全第四編第一章ノ犯罪

三 外國人ト共ニ犯シタル犯罪

四 一般又ハ地方ノ公安ニ重大ナル關係アル犯罪

五 前掲ノ外報告ヲ必要ト認ムル犯罪

第十五條 裁判所及檢事局ノ長ハ左ノ文書ニ署名捺印スヘシ

一 監督上官ニ差出スヘキ文書

二 中央官廳及地方廳在外國日本官廳、韓國中央官廳及地方廳トノ往復文書

三 前掲ノ外重要ナル往復文書

檢事局ノ長ハ上訴、再審申立書ニ亦署名捺印スヘシ

第十六條 第一條第二條第九條第十二條及第十五條ノ規定ハ區裁判所ノ一人ノ判事、檢事又ハ上席ノ判事、檢事ニ之ヲ準用ス

○統監府訓令第二十八號(官報十一月四日)

統監府警視 統監府警部

區裁判所所在地ニ在勤スル統監府警視、警部ハ所轄地方裁判所檢事正ノ要求アルトキハ其ノ區裁判所檢事ノ職務ヲ取扱フヘシ

前項ノ職務ハ成ルヘク上席ノ者ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

明治四十二年十月二十八日

○統監府訓令第二十九號(官報十一月四日)

統監 子爵曾禰荒助

統監府 檢事

統監府 警視

統監府 警部

韓國駐劄憲兵隊

統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年統監府訓令第十三號司法警察官外國人ニ關スル執務心得左ノ通改正ス

統監 子爵曾禰荒助

司法警察官外國人ニ關スル執務心得

第一條 外國人ニ關スル司法警察事務ニ付テハ總テ當該地方裁判所檢事正ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二條 外國人ノ犯罪又ハ外國人ニ對スル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ當該地方裁判

所檢事正ニ報告スヘシ

第三條 外國人ノ現行犯ヲ認メタル場合ニ於テハ其ノ犯人ヲ當該外國官憲ニ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ輕微ナル犯罪ト認メタル場合ニ於テハ犯人ノ國籍住所及姓名ヲ開糺スニ止メ直ニ之ヲ當

該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ

第四條 犯罪ノ嫌疑アル外國人ニ對シテハ當該地方裁判所檢事正ノ指揮ヲ受クルニ非サレハ逮

捕訊問其ノ他強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 日本人又ハ韓國人ニシテ罪ヲ犯シタル者外國官憲、外國艦船(ボートヲ含ム)又ハ外國人

ノ邸宅内ニ在ル場合ニ於テ事件急速ヲ要スルトキハ當該外國官憲、艦長、船長又ハ家主ノ同意ヲ

得テ之ヲ逮捕シ速ニ其ノ旨ヲ當該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキ若ハ事件急速ヲ要セサルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ當

該地方裁判所檢事正ニ報告スヘシ

前二項ノ規定ハ第一項ニ記載シタル場所ニ就キ檢護、家宅搜索、物件差押又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲

ス場合ニ之ヲ準用ス

第六條 外國官憲、外國艦船又ハ外國人ノ使用人タル日本人又ハ韓國人ニシテ罪ヲ犯シタル者ヲ

逮捕シタルトキハ速ニ當該地方裁判所檢事正ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第七條 本令ニ依リ地方裁判所檢事正ニ報告ヲ爲ストキハ同時ニ當該理事官ニ報告スヘシ

○統監府訓令第三十號(官報十一月四日)

統監府 檢事

統監府 警視

統監府 警部

韓國駐劄憲兵隊

統監 子爵曾禰荒助

韓國人ニ對スル司法警察事務ハ韓國司法警察官執務規程ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年十月二十八日

○統監府訓令第三十一號(官報十一月四日)

統監府 司法廳

統監府 裁判所及檢事局

統監府 警視

統監府 警部

統監 子爵曾禰荒助

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

明治四十二年十月二十八日

統監 子爵曾禰荒助

刑ノ執行猶豫ニ關スル取扱規程

第一條 一定ノ住所ヲ有セサル犯人ニ對シテ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ヲシテ速ニ其ノ住所ヲ定メ之ヲ届出テシムヘシ

第二條 檢事ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ニ猶豫期間ノ始期及終期並刑法第二十六條及第二十七條ノ旨趣ヲ告知スヘシ

第三條 地方裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ氏名年齢住所罪名刑名刑期猶豫期間及其ノ始期終期其ノ他必要ト認ムル事項ヲ所轄警察官署ニ通知スヘシ

若シ犯人其ノ裁判所ノ管轄地外ニ住スル者ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四條 區裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及所轄警察官署ニ前條第一項ニ定ムル事項ヲ通知スヘシ

若シ犯人區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地外ニ住スル者ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五條 高等法院又ハ控訴院ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ住所地方裁判所ノ檢事及所轄警察官署ニ通知スヘシ高等法院ニ於テ上告ヲ棄却シタル場合亦同シ

第六條 地方裁判所ノ檢事警察官署ヨリ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人其ノ住所ヲ轉シタルコトノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ第二條第一項ニ定ムル事項ヲ所轄警察官署ニ通知シ且刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ニ住所ヲ轉シタルコトヲ通知スヘシ若シ轉住地其ノ裁判所ノ管轄地外ナルトキハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス轉住地内地ナルトキ亦同シ

第七條 檢事局ニハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ノ名簿ヲ備フヘシ

前項ノ名簿ハ其ノ裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ノ管内區裁判所ノ檢事ノ通知ニ係ルモノ及其ノ他ノ裁判所ノ檢事ノ通知ニ係ルモノニ付各別ニ之ヲ調製スヘシ

第一項ノ名簿ニハ執行猶豫表及執行猶豫事故表ニ掲記スヘキ一切ノ事項ヲ記載スヘシ

第八條 檢事刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ニ付言渡取消ノ原因ヲ覺知シタルトキハ犯人所在地又ハ最後ノ住所地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタル場合ニ於テハ檢事ハ所轄警察官署刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地方裁判所ノ檢事ニ犯人ノ氏名及取消ノ原因ヲ通知スヘシ

第十條 檢事刑ノ執行猶豫事故表ニ掲タル猶豫取消以外ノ事故發生シタルコトヲ覺知シタルトキハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條 前三條ノ規定ハ最後ノ住所内地ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事局ハ刑ノ執行猶豫ノ裁判確定シタルモノニ付三月毎ニ左表ヲ製シ其ノ翌月末日迄ニ統監府司法廳ニ提出スヘシ

執行猶豫表(第一)

何裁判所檢事局

年	月	日	罪名	刑期	猶豫期間	檢事請求又ハ職權言渡ノ區別	猶豫人氏名	年	齡

人内 未成年 成年

執行猶豫事故表(第二)

何裁判所檢事局

罪名	猶豫期		取消計	行先不明	移轉	死亡	其他
	開示了	再犯(除頭發覺)前科發見					
計							
備考							

凡例

- 第二表 凡例
- 一 檢事ノ請求ニ係ルモノハ更ニ其ノ數ヲ相當欄内ノ傍ニ添書ス
 - 二 他處ニ於テ取消サレタルモノアルトキハ其ノ數ヲ取消事由所在地又ハ最後ノ住所地ノ管轄廳ノ處分ナルヤ否ヤヲ備考欄ニ記ス
 - 三 所在判明復歸ハ入籍又ハ外國渡航等ハ其他欄ニ掲記シ且其ノ事故ヲ備考欄ニ記ス

○統監府訓令第三十二號(官報十一月二十日)

監獄

統監府看守及統監府女監取締勤務手當 宿料及特別手當支給規則左ノ通定ス

明治四十二年十月二十九日

統監 子爵曾禰荒助

第一條 統監府看守及統監府女監取締非番勤務手當 宿料及特別手當支給規則

第一條 統監府看守及統監府女監取締ニシテ非番ノ日ニ於テ勤務ヲ爲シタル者ニハ左ノ區別ニ依リ非番勤務手當ヲ支給ス

勤務時間	日本人	韓國人	日本人	韓國人
一日十二時間以上勤務ノ者	五十錢	三十錢	三十錢	二十錢
一日三時間以上十二時間未満勤務ノ者				

三時間未満勤務ノ者ニハ非番勤務手當ヲ支給セズ

第二條 統監府看守及統監府女監取締ニハ左ノ區別ニ依リ宿料ヲ支給ス

- 一 京城監獄在勤者 一箇月 金十圓
 - 一 永登浦監獄在勤者
 - 一 平壤監獄在勤者
 - 一 京城監獄仁川分監在勤者 一箇月 金七圓
 - 一 咸興監獄清津分監在勤者
 - 一 平壤監獄新義州分監在勤者
 - 一 大邱監獄在勤者
 - 一 釜山監獄在勤者 一箇月 金六圓
 - 一 光州監獄木浦分監在勤者
 - 一 咸興監獄元山分監在勤者
 - 一 其ノ他ノ監獄及分監在勤者 一箇月 金五圓
- 宿料支給ノ方法ニ關シテハ統監府裁判所及統監府監獄職員ノ例ニ依ル
- 第三條 統監府看守及統監府女監取締ニシテ通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル者ニハ左ノ區別ニ依リ特別手當ヲ支給ス

特別手當支給ノ方法ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル	一級	二級	三級	四級	五級	六級
日本人	八圓	二十圓	十五圓	十圓	七圓	四圓
韓國人	七圓	四圓	六圓	五圓	四圓	三圓

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府訓令第三十三號(官報十月二十日)

統監府司法廳
統監府裁判所
統監府監獄

統監府裁判所及統監府監獄會計事務章程左ノ通定

明治四十二年十月二十九日

統監 子爵會禰克助

統監府裁判所及統監府監獄會計事務章程

目次

- 第一章 總則
- 第二章 豫算
- 第三章 歳入
- 第四章 歳出
- 第五章 工事及物件ノ賣買貸借
 - 第一節 工事
 - 第二節 物件ノ賣買貸借
- 第六章 歳入歳出外現金及保管物
- 第七章 物品
- 第八章 官有財産

附則

統監府裁判所及統監府監獄會計事務章程

第一章 總則

第一條 控訴院長ハ其ノ廳ノ會計事務ヲ監理ス地方裁判所長及典獄ハ其ノ廳及所管各廳ノ會計事務ヲ監理ス

區裁判所ノ會計事務ハ上席判事又ハ一人ノ判事ニ、監獄分監ノ會計事務ハ分監長ニ委任シテ其ノ監理ヲ分掌セシムルコトヲ得

各級裁判所ノ廳舎合併ノ場合ニ於ケル會計事務ハ上級裁判所ノ長之ヲ監理ス

第二條 歳入徴收官及物品出納命令官ハ控訴院長、地方裁判所長及典獄トス但シ各級裁判所廳舎合併ノ場合ニ於テハ上級裁判所ノ長其ノ職務ヲ行フ

區裁判所ノ歳入徴收官及物品出納命令官ノ事務ハ上席判事又ハ一人ノ判事、監獄分監ノ歳入徴收官及物品出納命令官ノ事務ハ分監長ヲシテ之ヲ分掌セシム

第三條 會計事務監理者ハ裁判所書記長、裁判所書記及看守長ノ中ヨリ左ノ官吏ヲ命シ其ノ廳及所管各廳ニ於テ其ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ但シ第五號以下ノ官吏ハ臨時必要ノ場合ニ於テ之ヲ命スヘシ

一 控訴院、地方裁判所及監獄ノ現金前渡ヲ受クル主任官吏

二 區裁判所及監獄分監ノ現金前渡ヲ受クル分任官吏

三 收入官吏、歳入歳出外現金出納官吏、物品會計官吏

四 明治二十六年九月大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依ル保管物取扱主任

五 會計規則第六十七條第二項第九十一條第一項、物品會計規則第十二條ノ規定ニ依ル検査官吏

六 會計規則第九十二條 物品會計規則第十三條ノ規定ニ依ル立會官吏
 七 會計規則第一百條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ規定ニ依ル代理調製官吏
 八 第一號乃至第三號ニ掲ケタル各官吏ノ代理官
 各級裁判所聯合會併ノ場合ニ於テハ上級裁判所ノ會計事務監理者其ノ廳ノ職員ノ一人ニ前項ノ
 官吏ヲ命シ合併廳會ニ係ル各廳ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ
 第一項ノ官吏ヲ命シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ
 第四條 會計事務監理者ハ出納官吏又ハ保管物取扱主任其ノ保管ニ係ル現金若ハ有價證券ヲ亡失
 シタルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ事實ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ
 第五條 會計事務監理者ハ第三條第六條第七條第八條第三十六條及第七十五條ニ掲ケタル事項
 ニ付處分ヲ爲ス場合ニ於テハ關係ヲ有スル檢察長 所長又ハ檢察正ト協議スヘシ
 第二章 豫算
 第六條 會計事務監理者ハ第一號及第二號書式ニ依リ歳入歳出ノ概算書ヲ調製シ前年度四月十五
 日マテニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ
 第七條 各廳經費豫算額ハ毎年度ノ始ニ於テ司法廳長官之ヲ會計事務管理若令達ス
 豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ其ノ科目金額ニ付其ノ年度經理ノ計劃ヲ立テ所管各廳ニ分付スヘ
 第八條 會計事務監理者豫算各目ノ流用又ハ新設ヲ要スルトキハ第三號又ハ第四號書式ニ依リ其
 ノ要求書ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ
 豫算ノ増額ヲ要スルトキハ第五號書式ニ依リ其ノ増額要求書ヲ提出スヘシ
 第九條 會計事務監理者ハ第六號書式ニ依リ年度末ニ於ケル經費ノ現計書ヲ作り毎年四月五日マ
 テニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

第三章 歳入

第十條 歳入徴收官及其ノ事務分掌者ハ歳入ヲ調定シ十五日以内ニ於テ適宜納入ノ期日ヲ定メ明
 治二十三年^四大藏省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ノ様式ニ依リ各納入ニ對シ納入告知書
 ヲ發シ現金ヲ金庫又ハ收入官吏ニ納付セシムヘシ
 前項ニ依リ調定シタル金額ハ第七號書式ノ調定原簿及明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第
 十一號様式ノ徴收簿ニ之ヲ登記スヘシ
 第十一條 歳入徴收官及其ノ事務分掌者金庫又ハ收入官吏ヨリ領收済ノ通知ヲ受ケタルトキハ前
 條ノ帳簿ニ登記スヘシ
 判事又ハ檢事ノ通知ニ依リ歳入ヲ調定シタルモノハ其ノ結果ヲ通知ヲ爲シタル當該官ニ通知ス
 ヘシ
 第十二條 收入官吏納入告知書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ之ニ接續セル領收證書ヲ納入ニ交
 付シ領收ノ旨ヲ速ニ歳入徴收官又ハ其ノ事務分掌者ニ報告スヘシ
 第十三條 收入官吏納金ヲ領收シタルトキハ明治二十六年^{十一}大藏省令第三十二號第十四號様式
 ノ出納官吏現金出納簿及第八號ノ一書式ノ收入簿ニ之ヲ登記シ第三號様式ノ現金拂込書ヲ調製
 シ明治二十二年^十大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フヘ
 金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏納金ヲ領收シタルトキハ出納官吏現金取扱規則第十六條ノ手續
 ニ依リ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘ毎月一回京城本金庫ニ拂込ムヘシ
 第十四條 歳入徴收官及其ノ事務分掌者ハ納金ヲ其ノ期限内ニ納入セサル者アルトキハ直ニ督促

シ尙納入ヲ了セサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 歳入徵收事務分掌者ハ徵收簿ニ依リ明治二十六年十一月十一日大藏省令第三十二號第四號様式ニ依リ前月分ノ徵收報告書ヲ毎月調製シ第八號ノ二書式ノ金庫月計對照表トノ差額仕譯書及第八號ノ三書式ノ徵收明細書並歳入金月計對照表ヲ添ヘ之ヲ其ノ月一日ニ歳入徵收官ニ提出スヘシ
歳入徵收官ハ前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ徵收簿ニ登記スヘシ但シ自己取扱ノ分ト口座ヲ區別スヘシ

歳入徵收官前項ノ手續ヲ終リタルトキハ第一項ニ掲ケタル様式ニ依リ前月分ノ徵收報告書ヲ毎月調製シ第一項書式ノ金庫月計對照表トノ差額仕譯書及徵收明細書並歳入金月計對照表ヲ添ヘ之ヲ其ノ月七日マテニ司法廳長官ニ提出スヘシ

歳入金ノ取扱ナキトキニ於テモ各其ノ旨報告スヘシ
第十六條 歳入徵收官及其ノ事務分掌者第十條ノ手續ヲ了シタル後科目ニ誤記アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ徵收簿ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ若シ報告書提出後ニ係ルトキハ其ノ訂正ヲ爲シタル月ノ報告書ニ之ヲ掲ケ其ノ事由ヲ詳記スヘシ
年度ニ誤記アルコトヲ發見シタルトキハ訂正ノ手續ハ明治二十四年五月五日大藏省令第十一號ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收入官吏ニ現金ヲ納入セシモノナルトキハ歳入徵收官ヨリ其ノ旨ヲ收入官吏ニ通知スヘシ納入告知書ニ依リ金庫ニ現金ヲ納入セシモノナルトキハ歳入徵收官ヨリ又現金拂込書ニ依リ金庫ニ納入セシモノナルトキハ收入官吏ヨリ關係金庫ニ其ノ訂正ノ科目訂正ノ請求スヘシ
誤記ノ訂正ヲ爲スハ翌年度六月三十日限トス

第十七條 歳入徵收事務分掌者ハ收入未済額ニシテ後年度ニ繰越ヲ要スルモノアルトキハ第九號書式ノ未入金繰越整理簿ニ之ヲ登記シ明治二十四年八月八日大藏省訓令第六十八號同二十五年月四日省訓令第二十五號及同三十一年二月同省訓令第十二號ニ依リ歳入繰越額計算表ヲ翌年度四月、七月ノ兩度ニ於テ調製シ其ノ月十日マテニ之ヲ歳入徵收官ニ提出スヘシ

歳入徵收官ハ收入未済金ニシテ後年度ニ繰越ヲ要スルモノアルトキハ前項ニ掲ケタル手續ヲ爲シ歳入繰越額計算表ヲ其ノ月十五日マテニ司法廳長官ニ提出スヘシ但シ歳入徵收事務分掌者ヨリ提出シタル歳入繰越額計算表ニ記載シタル收入未済金ハ之ヲ合算スヘシ
各年度ノ繰越額ニ付全部ノ處分ヲ了シタルトキハ繰越額計算表ニ準シ繰越額處分濟表ヲ調製シ歳入徵收事務分掌者ハ四月十日マテニ歳入徵收官ニ送附シ歳入徵收官ハ四月十五日マテニ司法廳長官ニ提出スヘシ

第十八條 歳入徵收官歳入金ノ過誤納ヲ發見シ其ノ下戻ヲ要スルトキハ第十號書式ノ諸拂戻金支拂請求書ヲ調製シ權利者ノ請求書ヲ添ヘ司法廳長官ニ提出スヘシ
歳入徵收事務分掌者歳入金ノ過誤納ヲ發見シ其ノ下戻ヲ要スルトキハ前項ニ準シ諸拂戻金支拂請求書ヲ調製シ權利者ノ請求書ヲ添ヘ歳入徵收官ヲ經由シテ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

第十九條 歳入徵收官又ハ其ノ事務分掌者歳入ノ不納缺損處分ヲ要スルトキハ第十一號書式ノ歳入缺損處分要求書ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ但シ分掌者ノ提出スル要求書ハ歳入徵收官ヲ經由スヘシ
第二十條 歳入徵收事務分掌者ハ明治三十四年六月會計検査院達第四號租稅外歳入徵收額證明規程ニ準シ歳入徵收額計算書ヲ調製シ 證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月二十日マテニ之ヲ歳入徵收官ニ提出スヘシ
歳入徵收官ハ前項ニ掲ケタル歳入徵收額證明規程ニ依リ歳入徵收額計算書ヲ調製シ 證憑書類ト

共ニ翌年度四月三十日マテニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

第二十一條 收入官吏ハ明治三十三年五月會計検査院達第二號收入證明規程ノ様式ニ依リ收入計算書ヲ編製シ證憑書類及會計規則第九十三條ノ檢定書ヲ添ヘ翌年度四月二十日マテニ之ヲ歳入徵收官ニ提出スヘシ但シ區裁判所及監獄分監ノ收入官吏ハ收入計算書ヲ歳入徵收事務分掌者ニ送付シ分掌者ハ之ニ第十二號書式ノ保證書ヲ添ヘ歳入徵收官ニ提出スヘシ

歳入徵收官收入計算書ヲ受ケタルトキハ下検査ヲ爲シ第十三號書式ノ下検査書ヲ添ヘ四月三十日マテニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

收入官吏交替シタルトキハ前任者ハ其ノ年度ニ於テ取扱ヒタル收入計算書ヲ編製シ十五日以内ニ歳入徵收官又ハ其ノ事務分掌者ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 歳入徵收官又ハ其ノ事務分掌者交替シタルトキハ直ニ關係ノ金庫ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第四章 歳出

第二十三條 裁判所及監獄ノ經費ハ現金前渡ヲ以テ處理セシム前渡金ハ指定シタル科目ノ金額ヲ交互流用スルコトヲ得ス

第二十四條 現金前渡ヲ受ケル主任官吏前渡金ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ現金出納簿及第十四號書式ノ經費内譯簿ニ登記スヘシ

區裁判所又ハ監獄分監ノ經費ニ係ルモノハ速ニ之ヲ分付シ現金出納簿及第十五號書式ノ經費分任内譯簿ニ登記スヘシ

現金前渡ヲ受ケル分任官吏分付金ヲ受ケタルトキハ直ニ第一項ノ手續ヲ爲シ同時ニ領收證書ヲ現金前渡ヲ受ケル主任官吏ニ送付スヘシ

第二十五條 金庫所在地ノ現金前渡ヲ受ケル主任官吏又ハ其ノ分任官吏ハ明治二十二年十月大藏省

令第十三號出納官吏現金取扱規則第一條ニ依リ現金ヲ總テ金庫ニ義務委託スヘシ

金庫ニ義務委託ヲ爲サントスルトキハ明治二十六年十月大藏省訓令第六十三號様式ノ雜部保管金拂込書ヲ編製シ之ニ現金ヲ添ヘ金庫ニ送付スヘシ

第二十六條 現金前渡ヲ受ケル主任官吏又ハ其ノ分任官吏ハ其ノ資格氏名ヲ記シタル印鑑ヲ關係金庫ニ送付スヘシ

第二十七條 金庫ノ設置ナキ地ノ現金前渡ヲ受ケル主任官吏及其ノ分任官吏ハ出納官吏現金取扱規則第十一條及第十四條ニ依リ取扱フヘシ

前項ノ場合ニ於テ利息ヲ生シタルトキハ明治三十三年七月大藏省訓令第五十六號ノ規定ニ依ルヘシ

第二十八條 現金前渡ヲ受ケル主任官吏又ハ其ノ分任官吏經費ノ仕拂ヲ要スルトキハ第十六號乃至第十八號書式ノ仕拂回讀書ヲ作り經費内譯簿ニ對照シ前渡ヲ受ケタル現金及豫算額ニ超過スルコトナキヤ又支出科目及所屬年度ヲ課ルコトナキヤ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤヲ調査シ會計事務監理者又ハ其ノ事務分掌者ノ決定ヲ執行スヘシ

第二十九條 現金前渡ヲ受ケル主任官吏又ハ其ノ分任官吏概算渡ヲ爲シタルトキハ第十九號書式ノ概算渡整理簿ニ登記スヘシ

旅費ノ精算ハ旅行者其ノ旅行ヲ終リタルトキ速ニ之ヲ爲サシムヘシ

第三十條 現金前渡ヲ受ケル主任官吏又ハ其ノ分任官吏經費ノ仕拂ヲ爲シタルトキハ直ニ現金出納簿及經費内譯簿ニ登記スヘシ

第三十一條 現金前渡ヲ受ケル分任官吏ハ明治三十二年五月會計検査院達第二號仕拂證明規程ニ準

シ前月分ノ仕拂計算書ヲ毎月編製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ月十日マテニ現金前渡ヲ受ケル主任官吏ニ提出スヘシ

現金前渡ヲ受クル主任官吏前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ仕拂額及回收額ヲ經費内譯簿及經費分任内譯簿ニ登記スヘシ

現金前渡ヲ受クル主任官吏第一項ニ掲ケタル規定ニ依リ前月分ノ仕拂計算書ヲ毎月調製シ證憑書類及仕拂計算書ノ副本ヲ添ヘ其ノ月二十日マテニ之ヲ仕拂命令官ニ提出スヘシ但シ現金前渡ヲ受クル分任官吏ヨリ提出シタル仕拂計算書ニ記載シタル金額ハ之ヲ合算スヘシ

仕拂計算書ニハ第二十號書式ノ會計事務監理者又ハ其ノ事務分掌者ノ保證書ヲ添附スヘシ

現金前渡ヲ受クル主任官吏及其ノ分任官吏ハ仕拂計算書及證憑書類ノ副本ヲ作り正本ト同一ノ方法ニ依リ編纂シテ之ヲ保存スヘシ

第三十二條 現金前渡ヲ受クル主任官吏ハ第二十一號書式ニ依リ其ノ廳ノ前月分ノ前渡金受拂書ヲ毎月調製シ其ノ月十日マテニ之ヲ仕拂命令官ニ提出スヘシ

第三十三條 現金前渡ヲ受クル分任官吏ハ前條ニ掲ケタル書式ニ依リ前月分ノ前渡金受拂書ヲ毎月調製シ其ノ月十日マテニ之ヲ現金前渡ヲ受クル主任官吏ニ提出スヘシ

第三十四條 現金前渡ヲ受クル主任官吏又ハ其ノ分任官吏過誤拂ヲ發見シタルトキハ速ニ回收ノ手續ヲ爲シ現金出納簿及經費内譯簿ニ登記シ又科目違ヒヲ發見シタルトキハ經費内譯簿ニ更正ノ登記ヲ爲スヘシ

現金前渡ヲ受クル分任官吏最終仕拂計算書ヲ提出シタル後前項ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ第二十二號書式ニ依リ報告書ヲ作り之ヲ現金前渡ヲ受クル主任官吏ニ提出スヘシ主任官吏誤謬ヲ發見シ又ハ分任官吏ヨリ報告書ヲ受ケタルトキハ第二十二號書式ニ依リ報告書正副二通ヲ作り之ヲ仕拂命令官ニ提出スヘシ

第三十五條 會計事務監理者過年度ニ屬スル經費ノ仕拂ヲ要スルトキハ其ノ金額及事由ヲ具シ仕拂命令官ノ指揮ヲ請フヘシ

第五章 工事及物件ノ買賣貸借

第一節 工事

第三十六條 新營工事又ハ一廉二百圓以上ノ修繕工事ヲ要スルトキハ會計事務監理者ハ圖面、設計書、費用内譯書ヲ添付シ其ノ事由ヲ具シタル請求書ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

一廉三百圓未満ノ修繕工事ハ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第三十七條 營繕工事ノ請負ニ付スルモノハ當分ノ内指名入札ノ方法ヲ以テ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得但シ一廉二百圓未満ノ工事又ハ特種ノ理由アル場合ハ指名入札ノ方法ニ依ラス直ニ營業者ト契約ヲ締結スルコトヲ得

第三十八條 工事請負契約ハ會計事務監理者之ヲ擔任スヘシ但シ區裁判所及監獄分監ニ於テハ會計事務監理分掌者之ヲ擔任スルコトヲ得

第三十九條 工事請負契約ヲ締結スルトキハ請負人ヲシテ請負金額ノ百分ノ十以上ノ保證金ヲ提供セシムヘシ但シ一廉二千圓未満ノ工事ナルトキ又ハ特種ノ理由アルトキハ保證人ヲ立テ保證ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條 競争入札又ハ指名入札ヲ以テ工事請負ヲ爲サシムル場合ニ於テハ工事仕様書、繪圖、面契約書案、工事請負人心得書及現場等ヲ熟覽セシメ入札書提出前ニ見積價格ノ百分ノ五以上ノ保證金ヲ提供セシムヘシ

第四十一條 入札書ハ第二十三號書式ニ依リ之ヲ作り封緘ノ上其ノ氏名ヲ表記シ指定ノ時刻マテニ差出サシムヘシ但シ代理人入札ノ場合ニハ其ノ委任狀ヲ要ス

一旦差出シタル入札書ハ之ヲ引換ヘ又ハ變更スルコトヲ得ス

第四十二條 契約擔任者ハ豫定價格調書ヲ調製シ封緘ノ上之ヲ開札ノ場所ニ置クヘシ

開札ハ入札人ノ面前ニ於テ契約擔任者之ヲ行フヘシ

第四十三條 入札保證金ハ入札執行ノ後落札人ヲ除ク外即日之ヲ還付シ落札人ノ分ハ契約締結ノ上之ヲ還付スヘシ

第四十四條 契約擔任者ハ落札ノ當日ヨリ起算シ五日以内ニ落札人ヲシテ契約保證金ヲ提供セシメ契約ヲ締結スヘシ

落札人前項ノ期間内ニ契約ヲ締結セザルトキハ該落札人ハ之ヲ無効トス

第四十五條 工事竣功シタルトキ又ハ契約ニ依リ工事ノ既済部分ニ對シ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ會計規則第六十七條ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二節 物件ノ賣買貸借

第四十六條 物品ヲ購買セントスルトキハ見本、雛形、圖面等ヲ示シ二人以上ヨリ見積書ヲ徴シ低價ノ者ト契約スヘシ但シ一廉五十圓未満ノモノ又ハ特種ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ必要ナルトキハ相當ノ保證金ヲ提供セシムヘシ

第四十七條 物品ノ購買ハ會計事務監督者又ハ其ノ事務分掌者ノ決定ヲ經テ之ヲ執行スヘシ

第四十八條 不用物品ヲ賣却セントスルトキハ豫メ其ノ價格ヲ評定シ現品ヲ示シ二人以上ヨリ見積書ヲ徴シ高價ノ者ニ賣却スヘシ

第四十九條 物件貸借ノ必要アル場合ニ於テハ會計事務監督者ハ其ノ事由ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ

第六章 歳入歳出外現金出納及保管物

第五十條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ取扱フ現金(訴訟事件、非訟事件ニ關スル費用ノ豫納金、競賣保證金、競賣代金、保託金、押收金、封鎖金、封鎖金、封鎖金、封鎖金)其ノ他常ニ分割仕拂ノ必要アリト認ムルモノ、金庫所在地外ニ於テハ總テノ保管金(ハ之ヲ歳入歳出外現金トシ又明治二十六年勅令第七十號ニ依リ保管スル有價證券及保管證書(民事上告金、保釋保證金、身元保證

金、契約保證金其ノ他常ニ分割仕拂ノ必要ナシト認ムルモノ)ハ之ヲ保管物トシ明治二十六年勅令第二十號保管物取扱規程ニ依リ處理スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金又ハ保管物ノ出納ヲ要スルトキハ會計事務監督者又ハ其ノ事務分掌者其ノ受拂ヲ命スヘシ

判事、檢事ノ命令アルモノハ前項ノ限ニ在ラス

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏ハ現金出納簿、第二十四號書式ノ内譯簿及第二十五號書式ノ保管金原簿ヲ設ケ受拂ヲ登記スヘシ但シ收入官吏兼ナル者ハ明治三十五年^三大藏省訓令第十號ニ依リ其ノ出納ヲ混記スヘシ

第五十三條 前二條ノ場合ニ於テ判事又ハ檢事ノ命令ニ因リ受拂ヲ爲シタルモノナルトキハ其ノ結果ヲ其ノ命令ヲ爲シタル當該官ニ通知スヘシ

第五十四條 保管物取扱主任ハ第二十六號書式ノ受拂簿ヲ設ケ受拂ヲ登記スヘシ

第五十五條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキ又ハ保管物取扱主任有價證券ヲ受ケタルトキハ保管物取扱規程第六條ニ依リ同規程第三號書式ノ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ明治二十三年^五大藏省訓令第七十八號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

納入ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ直ニ金庫ニ納入セシムルトキハ保管物取扱主任保管物取扱規程第三條ニ依リ同規程第一號書式ノ寄託通知書ヲ調製シ之ヲ本入ニ交付スヘシ

第五十六條 有價證券及保管證書ハ堅牢ナル金櫃ニ之ヲ藏置スヘシ

第五十七條 保管物ノ拂戻ヲ要スルトキハ第五十五條第一項ニ依リ取扱ヒタルモノハ保管物取扱規程第六號書式ノ拂渡證書ヲ、同條第二項ニ依リ取扱ヒタルモノハ同規程第二號書式ノ裏書ヲ爲シ之ヲ權利者ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

保管物取扱主任自ラ保管シタル有價證券ヲ交付シタルトキ亦領收證書ヲ徴スヘシ

第五十八條 保管金ヲ歲入ニ納付スル場合ニ於テハ保管物取扱規程第十四條ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第五十九條 歲入歲出外現金及保管物ノ出納ヲ命令シタル者ハ時々各簿冊ニ就キ照査點檢スヘシ

第六十條 歲入歲出外現金出納官吏ハ明治二十四年三月會計検査院達第二號歲入歲出外現金出納證明規程ニ依リ歲入歲出外現金出納計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌年度四月十日迄ニ又交替ノトキハ交替後十日以内ニ會計事務監理者ニ提出シ會計事務監理者ハ速ニ下檢査ヲ爲シ下檢査書(書式第十三)ヲ添ヘ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

區裁判所又ハ監獄分監ノ歲入歲出外現金出納官吏ハ翌年度四月五日迄ニ又交替ノトキハ交替後五日以内ニ歲入歲出外現金出納計算書ヲ會計事務監理分掌者ニ提出シ分掌者ハ保證書(書式第十)ヲ添ヘ之ヲ會計事務監理者ニ提出スヘシ

會計事務監理者前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十一條 保管物取扱主任ハ第二十七號書式ノ保管物受拂報告書ヲ調製シ翌年度四月十日迄ニ又交替ノトキハ交替後十日以内ニ會計事務監理者ニ送付シ會計事務監理者ハ保證書(書式第十)ヲ添ヘ速ニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

區裁判所又ハ監獄分監ノ保管物取扱主任ハ翌年度四月五日迄ニ又交替ノトキハ交替後五日以内ニ保管物受拂報告書ヲ會計事務監理分掌者ニ提出シ分掌者ハ保證書(書式第十)ヲ添ヘ速ニ會計事務監理者ニ提出シ會計事務監理者ハ所管各廳ノ報告書ヲ取繼メ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七章 物品

第六十二條 物品ハ左ノ如ク之ヲ類別ス

第一類 需用品

應用品(在監入費ノ項以外ノ費目ヲ以テ購買シタル物品)

圖書

備品

消耗品

動物

獄用品(就役費以外ノ在監入費ノ項ヲ以テ購買シタル物品)

圖書

備品

消耗品

動物

第二類 作業品(就役費ノ目ヲ以テ購買シタル物品)

器具機械(作業用)

素品(作業ノ原料)

製品(作業ニ因リ生シタル物品)

第三類 直營工事項品

通常工事項品(繼續工事項品以外ノ分)

繼續工事項品

第六十三條 物品ハ命令アルニアラサレハ出納スルコトヲ得ス命令書ハ第二十八號書式ニ依ルヘシ

第六十四條 物品會計官吏ハ第二十九號書式ノ物品出納簿ヲ備ヘ出納ヲ登記シ現品ヲ整理スヘシ前項帳簿ノ外便宜補助簿ヲ備フルコトヲ得

第六十五條 左ノ物品ハ物品會計官吏ノ保管外トシ物品出納簿ニ登記スルコトヲ要セス

一 購入ノ際直ニ消費スルモノ

二 公文印刷物、電信符號、電話番號帳、官報、職員錄、曆、新聞、雜誌ノ類

第六十六條 特別文具ハ左ノ場合ニ限り官費支辨トス

一 筆墨(辭令用、筆墨版用、小使用、受付用、公衆用、訟廷用、公衆用、在監人用)

一 ペン、ペン軸、インキ、押紙、定木(簿記用、筆墨版用)

一 肉池、印肉(官印捺用)

一 製圖具(製圖用)

第六十七條 各部局ニ物品擔當者ヲ置キ其ノ部局ニ於テ要スル物品ノ受拂及保管ニ關スル事務ヲ擔當セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ出納ヲ明確ナラシムヘシ

第六十八條 郵便切手ハ郵便物發送ノ際物品會計官吏ニ於テ之ヲ貼用シ第三十號書式ノ郵便發送簿ニ登記スヘシ

第六十九條 職員專用ノ物品ハ專用者ヲシテ、擔當者保管ノ物品ハ擔當者ヲシテ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ

共用物品ハ物品會計官吏ノ保管トス

第七十條 故意又ハ怠慢ニ因リ物品ヲ亡失毀損シタル者アルトキハ其ノ者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

物品ヲ亡失又ハ毀損シタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニハ保管者辨償ノ責ニ任スヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 物品出納命令官ハ物品中使用ニ堪ヘス又ハ使用ノ目途ナキモノノ處分ヲ要スルトキハ其事由ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ但シ價格五十圓未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

物品出納命令事務分掌者前項ノ必要ヲ認メタルトキハ物品出納命令官ニ報告スヘシ

第七十二條 物品出納命令官及其ノ事務分掌者ハ物品會計規則第十二條ニ依リ検査官吏ヲシテ毎年度末日又ハ物品會計官吏交替ノ際現在品及出納ノ實況ヲ調査シ第三十一號書式ノ調査ヲ作ラシムヘシ

物品會計官吏ハ物品會計規則第十八條ニ依リ前項ノ調査ヲ以テ計算書ニ代ヘ證書類ヲ添ヘ明治三十四年^四會計検査院達物品出納證明規程ニ依リ年度經過後又ハ物品會計官吏交替後一月以内ニ之ヲ物品出納命令官ニ提出スヘシ但シ區裁判所及監獄分監ニ於テハ物品會計官吏ハ物品調査ニ證書類ヲ添ヘ物品出納命令事務分掌者ニ提出シ分掌者ハ之ヲ物品出納命令官ニ提出スヘシ物品出納命令官物品調査ヲ受ケタルトキハ速ニ下検査ヲ爲シ下検査書(書式第十三)ヲ添ヘ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

第八章 官有財產

第七十三條 控訴院長、地方裁判所長及典獄ハ各其ノ監理ニ屬スル官有財產ヲ保管スヘシ但シ區裁判所ニ於テハ上席判事又ハ一人ノ判事、監獄分監ニ於テハ分監長ヲシテ保管事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

各級裁判所ノ廳舎合併ノ場合ニ於テハ上級裁判所ノ長前項ノ財產ヲ保管ス

第七十四條 官有財產ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ整理スヘシ

一 土地及其ノ附屬物

二 營造物及其ノ附屬物

三 家屋及其ノ附屬物

四 船舶及其ノ附屬物

第七十五條 官有財產ノ賣買、讓與、交換、貸付其ノ他物權ノ得喪ヲ生スヘキ處分ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ

第七十六條 會計事務監理者ハ第七十四條ニ掲ケタル區別ニ從ヒ第三十二號書式ノ官有財産彙帳ヲ設ケ其ノ所屬ノ官有財産ヲ登記スヘシ

第七十七條 會計事務監理者ハ其ノ所屬ノ土地建物及船舶ノ圖面ヲ備フヘシ地圖及建物圖ハ第三十三號書式ノ記載例ニ依リ之ヲ調製シ船舶ノ圖面ハ適宜ニ之ヲ調製スヘシ

圖面ニ變更ヲ要スヘキ事項ノ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ更正スヘシ

第七十八條 官有財産ノ價格ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

- 一 買上ニ係ルモノハ其ノ買上代價
- 二 新築ニ係ルモノハ其ノ建築費
- 三 交換ニ因リテ得タルモノハ其ノ評定價格
- 四 保管轉換ニ因リテ得タルモノハ其ノ目録ニ掲ケタル價格又ハ其ノ評定價格
- 五 買上代價若ハ建築費ノ不明ナルモノハ總テ其ノ評定價格

第七十九條 官有地ノ境界ハ之ヲ明確ニシ成ルヘク不朽ノ物質ヲ以テ界標ヲ設クヘシ

第八十條 官有財産ハ十年毎ニ其ノ年三月三十一日ノ現在ヲ調査シ第三十四號書式ニ依リ現在目録ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ但シ第一回ノ目録ハ明治四十四年三月三十一日ノ現在ニ依リ調製スヘシ

第八十一條 毎會計年度間ニ於ケル官有財産ノ増減異動ハ第三十五號書式ニ依リ報告書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

前項ノ期間内ニ増減異動ナキモノハ其ノ旨ヲ申報スヘシ

第八十二條 第八十條ノ現在目録及前條ノ報告書ニハ第七十七條ニ依リ調製シタル土地建物及船舶ノ圖面ヲ添附スヘシ

第八十三條 官有建物ノ内部ニ變更ヲ加ヘ前ニ提出シタル建物圖ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ更

正圖面ヲ調製シ之ヲ司法廳長官ニ提出スヘシ

官有財産ノ名稱又ハ番號ノ變更アリタルトキハ第三十六號書式ノ報告書ヲ提出スヘシ

第八十四條 天災其ノ他ノ災害ニ因リ官有財産ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ司法廳長官ニ申報スヘシ

附則

第八十五條 高等法院 京城控訴院 京城地方裁判所及京城區裁判所ノ會計事務ハ司法廳ノ直轄トシ左ノ順序ニ依リ之ヲ處理ス

- 一 歳入徵收官ハ司法廳長官ヲ以テ之ニ充テ物品出納命令官ハ司法廳庶務課長ヲ以テ之ニ充ツ
- 二 歳入歳出外現金又ハ保管物ノ出納ヲ要スルトキハ司法廳庶務課長其ノ受拂ヲ命スヘシ但シ判事又ハ檢事ノ命令アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 收入官吏 歳入歳出外現金出納官吏 明治二十六年九月大藏省令第二十號保管物取扱主任及物品會計官吏ハ司法廳又ハ裁判所ノ職員ノ中ヨリ司法廳長官之ヲ命ス
- 四 事務取扱ノ手續ハ總テ本則ノ規定ヲ準用ス

(書式略ス)

○統監府訓令第三十四號(官報十一月二十日)

統監府 檢事
統監府 警視
統監府 警部
韓國駐劄憲兵隊

統監 子爵曾禰荒助

在韓國本邦人ニ對スル司法警察官執務規則左ノ通定ム

明治四十二年十月三十一日

在韓國本邦人ニ對スル司法警察官執務規則

第一章 總則

- 第一條 司法警察官ハ犯罪ノ搜查ヲ爲シ及現行犯ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其ノ職務トス
- 第二條 司法警察官ハ巡查又ハ憲兵卒ヲ指揮シテ其ノ職務ヲ補助セシメ必要アルトキハ巡查ニ警部代理ヲ命シ司法警察事務ヲ執ラシムルコトヲ得
- 前項ニ依リ巡查ニ警部代理ヲ命シタルトキハ其ノ氏名ヲ警察署長ヨリ速ニ所轄地方裁判所檢察正及區裁判所檢察ニ通知スヘシ通知後異動アリタルトキ亦同シ但シ臨時代理ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 司法警察官ハ各所屬官署ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フモノトス但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 司法警察官ハ其ノ職務ニ付共助スヘシ
- 第五條 司法警察官ノ作成スル文書ニシテ記録ニ編綴スルモノハ刑事訴訟法ノ規定ニ依ラサルモノト雖同法第二十條及第二十一條ノ規定ニ從フヘシ
- 第六條 被告人証人其ノ他取調ヲ受クル者或又ハ啞ナルトキハ書面ヲ以テ問答ヲ爲シ若文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ用ウヘシ國語ニ通セサルトキ亦同シ
- 書面ヲ以テ問答ヲ爲シタルトキハ其ノ書面ヲ閱讀セシメ其ノ旨ヲ附記スヘシ又通事ニ依リ問答ヲ爲シタルトキハ通事ヲ作リ通事ヲシテ其ノ趣旨ヲ本人ニ告知セシメ其ノ旨ヲ附記シ通事ヲシテ共ニ署名捺印セシムヘシ
- 第七條 司法警察官書類ヲ受理シタルトキハ其ノ欄外ニ受理ノ年月日ヲ記載スヘシ
- 第八條 公務員ニ非サル者ヨリ提出スル書類ニシテ代書ニ係ルトキハ代書者ヲシテ其ノ代書ノ事由及其ノ書類ヲ本人ニ讀開カセタルコトヲ附記セシメ之ニ連署セシムヘシ

第九條 司法警察官左記ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ所轄地方裁判所檢察正及事件所管

屬ノ檢察ニ報告スヘシ(書式第一號)

- 一 刑法第二編第一章乃至第四章ノ罪
- 二 公務員華族及從六位勳六等功六級以上ノ者及韓國官吏ニ應聘中ノ者ノ禁錮以上ニ該ルヘキ罪
- 三 通貨偽造及明治三十八年法律第六十六號ニ關スル無期又ハ短期一年以上ノ禁錮若ハ懲役ニ該ル罪
- 四 公印公文書偽造ニ關スル無期又ハ短期一年以上ノ禁錮若ハ懲役ニ該ル罪
- 五 殺人ノ罪
- 六 保安規則第十二條第二項ノ罪
- 七 新聞紙規則第二十二條及第二十三條ノ罪
- 八 職員選舉ニ關スル罪
- 九 前各號ノ外公安ニ重大ナル關係アル犯罪
- 第十條 被告人勾留中又ハ護送途中逃走シタルトキハ速ニ所轄地方裁判所檢察正及事件所管屬ノ檢察竝其ノ護送ヲ命シタル官吏及交付ヲ受クヘキ官吏ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ
- 第十一條 前二條ノ報告ヲ爲シタル後犯人ヲ逮捕シ又ハ犯人ノ誰タルコトヲ知リタルトキ若ハ搜查ノ續行ヲ要セサルモノト思料シタルトキハ速ニ前二報告シタル官吏ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ
- 第十二條 司法警察官ハ毎月取扱タル犯罪件數檢舉件數及檢舉人員ニ付月表ヲ作リ翌月十日迄ニ所轄地方裁判所檢察正ニ差出スヘシ(書式第二號)

第二章 搜查

第十三條 搜查ハ犯罪ノ證據ヲ蒐集シ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第十四條 捜査ヲ爲スニハ公力ヲ用ウヘカラス

第十五條 捜査ヲ爲スニハ左記ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、出生地及前科、檢事ノ起訴猶豫又ハ警察官ノ訓戒放免ヲ受ケタルコトノ有無
- 二 被告人ノ位記、勳章、功級、年金、恩給、從軍徽章ノ有無
- 三 被告人ノ性質、品行、生活狀態、貧富及教育程度
- 四 犯罪ノ性質、方法、日時、場所及原因
- 五 被害者ノ氏名、年齢、職業及住所
- 六 被告人ト被害者トノ關係
- 七 被害ノ狀態及損害ノ價額
- 八 被告人ノ利益トナルヘキ事實
- 九 前各號ヲ證明スヘキ證據

第十六條 變死者ノ死因ヲ發見スル爲必要アリト思料スルトキハ事件所管廳ノ檢事ノ許可ヲ受ケ死體ノ解剖ヲ爲スコトヲ得

第十七條 捜査上必要アリト認ムルトキハ被告人、證人又ハ其ノ他ノ者ヲ呼出シ若ハ其ノ所在ニ就キ陳述ヲ聽キ又ハ其ノ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人又ハ其ノ他ノ者ノ供述ハ之ヲ錄取シ之ヲ本人ニ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ若署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ(書式第三號)

其ノ陳述シタル事項簡單ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面(手續書又ハ始末書)ヲ差出サシムルコトヲ得

第十九條 外國人ヨリ提出スル書面ハ成ルヘク譯文ヲ添附セシムヘシ

第二十條 捜査上必要アリト認ムルトキハ犯所其ノ他ノ場所ニ出張シ實況ヲ見分スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ實況見分書ヲ作成シ署名捺印スヘシ(書式第四號)

第二十一條 犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ領置書及領置目錄ヲ作り之ヲ記錄ニ添附シ且領置目錄ノ寫ヲ差出人ニ交付スヘシ

第二十二條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ公力ヲ用非サル範圍内ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 事件毎ニ被告人ノ戶籍寫及資産ノ概額、位記、勳章、功級、年金、恩給、從軍徽章ノ有無其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ取調ヘ其ノ事件ヲ送致シタル事件所管廳ニ回答スヘキ旨ヲ本籍地ノ市町村役場ニ照會シ其ノ旨ヲ送致書ニ附記スヘシ(書式第五號)

第二十四條 姦淫、親屬相盜、幼者誘拐等親屬關係若ハ年齢ニ因テ罪ノ成否又ハ刑ノ輕重ニ關係アル事件ニ付テハ特ニ其ノ點ニ注意シ取調ヲ爲スヘシ

第二十五條 禁錮以上ノ罪ニ該ルヘキ非現行犯人ニシテ逃走又ハ證據湮滅ノ虞アルトキハ事件送致ト共ニ令狀ヲ請求スヘシ

時宜ニ因リ犯人ノ承諾ヲ得テ當該官署ニ同行スルコトヲ得緊急ナル場合ニ於テハ事件ノ要領ヲ報告シ令狀ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 殺人又ハ傷害事件ニ付テハ事件送致後ト雖創傷ノ經過ニ注意シ異狀ヲ來シタルトキハ醫師ノ診斷書又ハ被害者ノ始末書ヲ添ヘ事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ

第三章 告訴、告發及自首

第二十七條 告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス且捜査ヲ要スヘキモノナルト否トニ拘ラス之ヲ受理シ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 告訴、告發、自首其ノ他犯罪ノ申告ヲ爲ス者アルトキハ成ルヘク其ノ理由及第十五條、第二十四條ニ掲ケタル事項ヲ明瞭ナラシムルコトニ注意スヘシ

第二十九條 口頭ヲ以テ告訴、告發又ハ自首ヲ爲ス者アルトキハ其ノ陳述ニ付調書ヲ作り本人ヲ署名捺印セシムヘシ(書式第六號ノ一、二)

告訴、告發又ハ自首ノ書面ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セスト思料シタルトキハ其ノ趣旨ニ付陳述ヲ爲サシメ調書ヲ作り本人ヲ署名捺印セシムヘシ(書式第七號)

第三十條 他人ニ代リ告訴、告發又ハ自首ヲ爲ス者アルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出サシムヘシ但シ法定代理人ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 前二條ノ規定ハ告訴、告發又ハ自首ニ付増減變更又ハ取下ノ申立アリタル場合ニ之ヲ準用ス(書式第八號)

第三十二條 告訴、告發又ハ自首ノ書面ハ其ノ取下ノ申立アルモ之ヲ還付セサルモノトス

第四章 假豫審

第三十三條 司法警察官罰金以上ノ刑ニ該ル現行犯、準現行犯ニシテ事件急速ヲ要スルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ事件所管廳ノ檢事ニ通知シテ犯所ニ臨檢シ假ニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 假豫審處分ニ付テハ刑事訴訟法第三章第四節乃至第七節ノ規定ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ

第三十五條 司法警察官前條ニ依リ犯所ニ臨檢シタルトキハ被告人不詳ナルトキト雖假豫審處分ヲ爲スヘシ

第三十六條 檢證ニ著手シタル後豫審判事又ハ檢事ノ臨檢ヲ必要ナリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ事件所管廳ノ檢事ニ急報シ指揮ヲ待ツヘシ但シ猶豫スヘカラサル處分ハ之ヲ續行スルコトヲ要ス

第三十七條 檢證ニ著手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事自ラ其ノ處分ヲ爲サトスルトキハ速ニ之ヲ引繼クヘシ

第三十八條 假豫審處分トシテ檢證、搜索、差押ヲ爲スコト雖成ルヘク穩當ノ方法ヲ執リ止ムヲ得サル場合ニ非サレハ公力ヲ用ウヘカラス

第三十九條 檢證、搜索、差押、訊問及鑑定ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作り署名捺印スヘシ(書式第九號乃至第十三號)

檢證、搜索、差押ノ處分ヲ爲スニハ二人以上ノ立會人アルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ立會人モ共ニ署名捺印セシムヘシ

第四十條 差押ヲ爲シタル物件ハ散佚、毀損ヲ防グ爲認印又ハ封印ヲ爲シ且差押ヲ爲シタル年月日及事件名ヲ記シテ其ノ物件ニ添附シ別ニ差押品目録ヲ作り記録ニ編綴スヘシ

第四十一條 司法警察官ハ假豫審處分ヲ爲スコト雖證人及鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ聽キ且罰金、科料又ハ費用賠償ノ言渡ヲ爲スヘカラス

第四十二條 第三十四條及前第五條ノ規定ハ統監府裁判所司法事務取扱令第二十六條ニ依リ裁判所又ハ豫審判事ヨリ檢證、搜索、差押、證人訊問及鑑定ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 事件送致

第四十三條 捜査ニ因リ事件ノ要領ヲ得タルトキハ拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ハ即決裁判ヲ爲スヘキ官署ニ其ノ餘ノ事件ハ事件所管廳ノ檢事ニ送致スヘシ假豫審處分ヲ了リタルトキ亦同

第四十四條 被告事件ヲ送致スルニハ一件記録ニ記録目録、意見書及送致書ヲ添へ且成ルヘク被告入ノ素行調書ヲ添附スヘシ(書式第十四號乃至第十七號)

第四十五條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ被告事件ヲ送致スルニ當リ

被告人所在不明ナルトキハ成ルヘク人相書ヲ添附スヘシ(書式第十八號)

第四十六條 一件記録ハ其ノ受理又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴シ每葉ニ丁數ヲ附シ其ノ表紙ニ被告人ノ拘束不拘束ヲ記載スヘシ

第四十七條 數罪俱發共犯其ノ他關聯シタル犯罪事件ノ記録ヲ別冊トシテ送致スルトキハ各送致書ニ其ノ關係事件ノ送致年月日事件名及被告人ノ氏名ヲ附記シ若事件所管廳ヲ異ニスルトキハ一方ニハ其ノ證據トナルヘキ書類ノ原本ヲ添附スヘシ

第四十八條 被告事件輕微ニシテ處罰ノ實益ナシト思料シタルトキハ被告人ニ訓戒ヲ加ヘ事件ヲ送致セサルコトヲ得但シ告訴又ハ公務員ノ告發ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲシテ成ルヘク贖物ノ返還損害ノ賠償謝罪等ノ方法ニ依リ被害者ニ満足ヲ與ヘシムルコトニ注意シ若法禁物又ハ犯罪供用物件アルトキハ被告人ヲシテ任意ニ之ヲ拋棄セシメ廢棄其ノ他適宜ノ處分ヲ爲スヘシ

第四十九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分ノ事由被告人ノ氏名年齡職業住所前科起訴猶豫又ハ訓戒放免ヲ受ケタルコトノ有無素行及犯罪事實ノ概要ヲ事件所管廳ノ檢事ニ報告スヘシ(書式第十九號)

第五十條 被告事件輕微ニシテ處罰ノ實益ナク起訴ヲ猶豫スヘキモノト思料スルトキハ意見書ニ其ノ旨ヲ記載シ送致スヘシ

第五十一條 公判ニ提出スヘカラサル報告書復命書ノ類ニハ秘密ノ二字ヲ記シ記録ニ編綴セス親展書ト爲シ之ヲ送付スヘシ

第五十二條 證據物件ヲ送付スルニハ物件ニ小札ヲ附シ之ニ被告人ノ氏名及差押調書又ハ領置書ニ記入シタル順次番號ヲ記載スヘシ若被告人ノ氏名不明ナルトキハ被差押人ノ氏名ヲ記載スヘシ

證書書翰ノ類ハ前項ノ手續ヲ爲シ之ヲ記録ニ編綴セス別ニ封筒ニ入レ證據品ナル旨ヲ表記スヘシ

證據品ヲ記録ト共ニ送付セサルトキハ送致書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第五十三條 證據物件ニシテ送付スルノ必要ナシト認メタルモノ又ハ運搬ニ不便ナルモノハ之ヲ保管シ又ハ適當ノ者ニ命ジテ之ヲ保管セシメ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

前項ニ依リ物件ノ保管ヲ命ジタルトキハ其ノ保管請書ヲ徵シ記録ニ添附スヘシ

第五十四條 證據物件ニシテ腐敗又ハ滅滅ノ虞アルモノハ賣却又ハ廢棄スルコトヲ得

前項ニ依リ賣却シタル物件ノ代金ハ之ヲ保管シ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十五條 證據物件ニシテ送付スルノ必要ナク且沒收スヘカラサルモノト認ムルモノハ其ノ假下ヲ爲スコトヲ得贖物贖物ト交換シタル物又贖金ヲ以テ購求シタル物被告人ノ手ニ現在スルトキハ協議返還ヲ爲サシムルモ妨ナシ

假下ヲ爲スニハ假下中善良ナル注意ヲ以テ其ノ物件ヲ保管シ一切ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ假下物件受領者ニ諭示シ且其ノ旨ヲ記載シタル假下請書ヲ差出サシメ若返還ヲ爲サシメタルトキハ連署又ハ各別ノ書面ヲ徵シ之ヲ記録ニ添附シ差押調書又ハ領置書ニ假下又ハ返還ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十六條 證據物件ニシテ事件ニ關係ナキコト分明シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

前項ニ依リ還付ノ手續ヲ爲シタルトキハ還付請書ヲ差出サシメ之ヲ記録ニ添附シ差押調書又ハ領置書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 事件送致後其ノ事件ニ關スル書類又ハ物件ヲ送付スルニハ送付書ニ事件送致ノ年月日事件名及被告人ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五十八條 被告事件送致後ト雖必要アルトキハ捜査ヲ續行シ證據ヲ得タルトキハ直ニ送付スヘシ

第六章 令狀執行及被告人逮捕

第五十九條 令狀ニ檢事ノ認印アルトキハ執行指揮書ノ添附ナシト雖之ヲ執行スヘシ
 判事ヨリ其ノ出張先ニ於テ直接ニ交付シ又ハ他官廳ノ檢事ヨリ急速ヲ要スルモノトシテ直接ニ
 執行ヲ求メタル令狀ハ所轄檢事ノ指揮ヲ受ケタルモノト看做シ直ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ
 第六十條 令狀ノ執行ヲ受ケヘキ被告人ノ所在他ノ警察官署ノ管轄區域内ナリト雖同一地方裁
 判所内ナルトキハ其ノ所轄司法警察官ニ令狀ヲ送付シテ執行ノ手續ヲ求メ若被告人他ノ地方裁
 判所内ニ在ルトキハ其ノ旨ノ報告書ヲ添へ令狀ヲ返戻スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ直ニ令狀
 ヲ其ノ地ノ警察官署ニ送付シテ執行ヲ囑託シ又ハ巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシメ速ニ指揮ヲ爲シ
 タル檢事ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ
 第六十一條 拘引狀ヲ執行シタルトキハ速ニ指揮ヲ爲シタル檢事ニ令狀ト共ニ押送スヘシ若他官
 廳ノ檢事又ハ司法警察官ノ囑託ニ因ルトキハ速ニ其ノ令狀ヲ發シタル檢事ニ押送ノ手續ヲ爲ス
 第六十二條 拘留狀ヲ執行シタルトキハ指定ノ監獄又ハ留置場ニ押送シタル後其ノ令狀ハ指揮ヲ
 爲シタル檢事ニ差出スヘシ他官廳ノ檢事又ハ司法警察官ノ囑託ニ因ルトキ亦之ニ準ス
 第六十三條 逮捕狀ヲ執行シタルトキハ逮捕狀ト共ニ所轄檢事ニ押送シ若他官廳ノ檢事又ハ司法
 警察官ノ囑託ニ因ルトキハ速ニ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ
 第六十四條 巡查憲兵卒其ノ他司法警察官以外ノ者現行犯準現行犯人ヲ逮捕引致シ來リタルト
 キハ犯罪發覺ノ原因逮捕ノ日時場所其ノ他必要ノ狀況ヲ申立テシメ逮捕告發調書(被害者引致
 ノトキハ告訴調書)ヲ作成シ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ(書式第二十號)引致ト共ニ逮捕
 始末書ヲ差出シタルトキハ其ノ相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ其ノ旨ヲ記載シ署名捺印シテ逮捕告發
 (告訴)調書ニ代フルト得(書式第二十一號)

第六十五條 逮捕シタル被告人ト雖事件起訴スヘカラス又ハ罰金以下ノ刑ニ該當シ若ハ證據溼滅
 又ハ逃走ノ虞ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ

第七章 帳簿

第六十六條 警察官署ニハ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ
 一 犯罪搜查簿(第二十二號書式)
 二 犯罪事件簿(第二十三號書式)
 三 證據品原簿(第二十四號書式)
 第六十七條 司法警察官起訴猶豫人名票 受刑人名票又ハ逮捕狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ累年編
 冊ト爲シ目錄ヲ附スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 書式第一號

犯罪報告

住所職業(職位)
 氏 名(被告人不明)
 年 齡

右何被告事件ニ付(告訴)(告發)(自首)(申告)ヲ受ケ(認知)ヲ爲シ(搜查)中ニ候條此段及報告候也

犯罪事實

一 何何

(注意) 一 犯罪ノ日時場所方法被害者ノ住所氏名被害ノ狀態犯人ノ逮捕未就指等報告當時判明セル程度ニ依リ記載
 スヘシ

- 二 豫審判事又は檢事ノ臨檢ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ記載シ且通事醫師同行及解剖ノ要否其ノ他現場ニ赴ク順序等ヲ附記スヘシ
- 三 電報ヲ以テスルトキト雖犯罪事實ノ要點ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

書式第二號

裁判所(支部)檢事局檢事(正)宛

某署長

官氏

名印

區別種類	年月分		官署名
	年	月	
強盜			
竊盜			
其ノ他ノ刑法犯			
特別法犯			
計			
新受件數			
檢舉件數			
檢舉人員			

(注意) 檢舉件數及檢舉人員ハ其ノ月中ニ自署ニ於テ檢舉シタル件數及人員ヲ記入スルモノニシテ事件受理ノ時期ニ關セザルモノトス

書式第三號

聽取書

本籍住所、身分、職業

氏

生年月日

右ハ本職ノ通知ニ依リ當署何所ニ出頭シ左ノ通任意陳述ヲ爲シタリ
 一云云(被告人等ノ陳述ノミヲ記スルモ必要ノ場合ニハ問答共ニ記スルヲ始ケス事實簡略セルモノハ其ノ陳述ヲ數項ニ分記スヘシ)

右讀開セタル處相違ナキ旨申立テタリ

年月日

署印

於某署

官氏

名印

書式第四號

實況見分書

年月日、、、被告事件檢査上必要ニ付何道何郡何某方ニ到リ戶主某(監督者某)ノ承諾ヲ得テ、、、ノ場所物件ノ實況ヲ見分スルコト左ノ如シ
 一、、、
 一、發見シタル物件、、、痕跡アリテ某ニ送テ、、、シタルモノト認ム物件ハ、、、事件ノ證據トシテ必要ニ付承諾ヲ得テ之ヲ領置ス
 何年月日此ノ見分書ハ某所ニ於テ之ヲ作ル故ニ所屬官署ノ印ヲ用ウル能ハス

某署

官氏

名印

書式第五號

戶籍照會書

縣 町市 村郡 番地士族 戶平民 商職業 氏名

右ノ者犯罪取調上必要ニ付左ノ事項戶籍簿其ノ他ニ就キ取調罷入ノ上月籍簿本ヲ添ヘ本書ト共ニ何裁判所(支部)檢事局ヘ至急送付有之度最必過ノ者無之トキハ似合ノ者ヲ記入セラレ可然此段及照會候也
 年月日

市役所 御中
 町役場

某署

本人ノ氏名	本字	假名	業職	一家ノ 資産ノ 概額	本人ノ 本名	本人ノ 假名	本人ノ 本字	本人ノ 假名
	本字	假名			本人ノ 本名	本人ノ 假名	本人ノ 本字	本人ノ 假名
現在ノ所	本人本籍地ニ現在スルヤ否ヤ							
位階、勳章、功級、年金等	本人本籍地ニ現在スルヤ否ヤ							
前科	罪名	刑名刑期	犯數	對席又ハ 缺席區別	判決及 確定年月日	執行裁判所		
備考	若前科多數ニシテ本 關ニ記載シ置ス能ハ サルトキハ別紙ニ記 述シ本欄ニハ別紙ニ 述ト記ス(ハシ)							

右御照會ニ依リ取調記入ノ上本書及送付候也
年月日

裁判所(支部)検事局宛
(注意) 備考欄ニハ参考トナルヘキ事項ヲ記載スルモノトス(中央ノ折目ハ未トナスモノトス)

市役所
町村役場

書式第六號ノ一

告訴(告發)調書

右ノ者本日何時當署ニ出頭シ某ニ對スル何被告事件ニ付口頭ヲ以テ告訴(告發)致度旨申立ツルニ依リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ
同 被告人ノ住所、職業、氏名、年齢ハ如何
答

(注意) 住所氏名等ヲ知ラサルトキハ人相其ノ他被告人ヲ確ムヘキ資料ヲ供述セシムヘシ
同 被告人ト親族、雇傭同居ノ關係ナキヤ
答 如何
同 告訴(告發)ノ事實ヲ詳述セヨ
答 如何
同 如何
答 如何
同 如何
答 如何

(此ノトキ證據トシテ如何ヲ差出シタルニ付之ヲ差押ヘ別紙差押調書ヲ作ル)

右照開セタル處相違ナキ旨申立ツル(モ署名スル能ハサルニ付)ニ付署名(本官代書シ)捺印(花押)捺印)セシム
年月日

告訴(告發)人 氏 名印
於某署 官 氏 名印

同 曾テ刑事ノ處分ヲ受ケタルコトハナキヤ
 答、、、、、(前科アルトキハ罪名、刑期首渡年月日及裁判所名ヲ記載スヘシ)
 同、、、、、
 答、、、、、
 同 利益トナルヘキ證據アラハ提出スヘシ又其ノ事實アレハ申立ヲヘシ
 答、、、、、
 同 右證明セタル處相違ナキ旨申立フル(モ自署スル能ハス且フ無印)ニ付署名(本官代書シ)捺印(セス)セシム
 年 月 日

署印

於某署
 被告人 氏 名印
 官 氏 名印
 立會人 氏 名印
 同 氏 名印

書式第十二號

証人(參考人)訊問調書

年月 日某、、、、現行犯被告事件ニ付訊問スルコト左ノ如シ
 同 住所、身分、職業、氏名、年齢ハ如何
 答、、、、、
 同 被告人某ト親族又ハ後見人、被後見人、雇人、同居等ノ關係ハナキヤ
 答、、、、、
 同 茲ニ於テ某被告事件ニ付証人(參考人)トシテ訊問スル旨ヲ告ク
 答、、、、、
 同 右證明セタルニ相違ナキ旨申立フル(モ自署スル能ハス且無印)ニ付署名(本官代書ス)捺印(セス)セシム
 年 月 日

署印

於某署
 証人(參考人) 氏 名印
 官 氏 名印
 立會人 氏 名印
 同 氏 名印

書式第十三號

鑑定人調書

(注意) 參考人ニ付テハ立會人ヲ要セス
 同 住所、職業、身分、氏名、年齢ハ如何
 答、、、、、
 同 被告人何某トハ親族又ハ後見人、被後見人、雇人、同居等ノ關係ハナキヤ
 答、、、、、
 同 某ノ各創傷ニ付左記ノ事項ヲ鑑定シ鑑定書ヲ差出スヘシ
 一 創傷ノ状態及其ノ原因
 一 自傷ナルヤ他傷ナルヤ
 一 兇器ノ種類
 一 創傷ノ結果
 一 一、一、一、
 答 承知シマシム
 同 右證明セタル處相違ナキ旨申立フルニ付署名捺印(セス)セシム
 年 月 日

署印

於某署
 鑑定人 氏 名印
 官 氏 名印
 立會人 氏 名印
 同 氏 名印

(注意) 調査ハ鑑定人ニ證明ケ及署名捺印セシメサルモ妨ナシ

書式第十四號

記録目錄

書類	標目	丁數	備考
告訴狀	(二枚ノ例)	一	
告訴人某調書	(四枚ノ例)	三	
被告人某調書	(三枚ノ例)	七	
證人某調書	(三枚ノ例)	九	
鑑定人某調書	(一枚ノ例)	一二	
如何	(一枚ノ例)	一三	
意見書	(二枚ノ例)	一四	
事件致送書		一六	

官署名

書式第十五號

事件送致書

(注意) 記録ニ丁數ヲ附スルニハ書類ノ左上欄外ニ一三ノ順ヲ逐フテ記載シ各書類ノ初丁ニ記載シタル數字ヲ本目錄丁數欄ニ記入スヘシ

罪名	發覺原因	受理	拘留	放免	取調中又ハ照會中ノ事項	備考
		年 月 日	年 月 日	年 月 日		

被告 氏名
 告人 氏名
 人 氏名
 氏名

(拘束) 氏名
 (不拘束) 氏名

(注意) 一 被告人數人アリテ各罪名其ノ他ノ事項ヲ異ニスルトキハ相當ノ符號ヲ記載シ又ハ備考欄ニ記入スル等一見明瞭ナラシムルニ注意スヘシ
 二 拘束、不拘束ハ之ヲ朱書スヘシ

右被告事件別紙證據書類相添へ及送致候也

年月日 署印

某署長印

裁判所(支部)検事局検事(正)宛

書式第十六號

意見書

住所(職業)職位) 氏名

年 齡 名

一 刑事處分、起訴猶豫又ハ罰戒放免ヲ受ケタルコトノ有無
 如何
 (注意) 前ニ刑事處分、起訴猶豫又ハ罰戒放免ヲ受ケタル者ナルトキハ被告人取調書ニ於ケル注意ニ同シ
 犯罪事實
 第一何何

第二何何

(注意) 犯罪日時、場所、方法、被害者ノ住所、氏名、被害物件及其ノ價額等ノ概要ヲ記載シ且ニ箇以上ノ所爲アル場合ハ犯罪ノ順ヲ逐ヒ一罪毎ニ項ヲ分テ記載スヘシ

一證據

(注意) 有罪無罪ヲ推定スルニ必要ナル證據ヲ指示スヘシ例ヘハ某ノ証言及何何ノ証書ト云フカ如シ
右被害事件ヲ按スルニ刑法何何法(第何條ニ該當スル犯罪)ノ證據充分ナラス(ナルモ何何ノ事由ニ因リ起訴證據相成ヘキモ)(其ノ所爲罪トナラス)ト思料ス

年月日

署印

於某署

官氏

名印

裁判所(支部)檢事局檢事(正)宛

書式第十七號

第 號	被告人某素行調書
住所、出生地、職業、氏名、年齢	
性 質	
品 行	(注意) 成ルヘク既往ノ經歷ニ關シテ事實ヲ擧ケ單ニ且又ハ不良ト云フカ如キ抽象的ノ記載ヲ避クヘシ
生活ノ状態	
貧富程度	
教育ノ程度	(注意) 學歷アル者ハ其ノ大要ヲ擧ケ然ラサルモノハ普通文字ヲ讀ミ幼年者、老弱者又ハ廢疾者ナルトキハ監習者又ハ扶養者ノ住所、職業、氏名

右ノ通ニ候也

年月日

署印

於某署

官氏

名印

書式第十八號

改悛ノ見込ノ有無	備 考
	(注意) 成ルヘク調書ノ徑路及其ノ材料ノ出所ヲ本欄ニ記入スヘシ
第 號	人相書
住 所	年 氏 姓
丈	所 業 名 年 齡
顔 色	肥 瘠
眼 毛	
眉 毛	
鼻 口	眼 耳
齒 音	口 眼
痘 痕	鼻 口
特 徴	顯 聲

右ノ通ニ候也

年月日

署印

於某署

官氏

名印

書式第十九號

第 號	訓戒放免報告書
住所、職業、氏名、年齢	
罪 名	
犯罪事實ノ概要	
發 見 原 因	
刑事處分ノ起訴猶豫 又ハ訓戒放免ヲ受ケ タルコトノ有無	
案 行 ノ 概 要	
贓物ノ返還損害ノ賠償 謝罪等ノ方法	

右及報告候也

年月日

署印

某署長

官氏

名印

書式第二十號

裁判所(支部)検事局検事(正)宛

逮捕及告發(告訴)調書

年月 日午前(後)何時巡查某(巡兵卒)ハ本官ノ面前ニ、、、現行犯事件ノ被告人某ヲ引致シ左ノ逮捕及告發(告訴)ノ申立ヲ爲ス

一、、、(現行犯)現行犯ト認メタル狀況ヲ詳記スヘシ

右讀開セタル是相違ナキ旨申立ルニ付共ニ署名捺印セシム

年月日

署印

於某署

逮捕人 氏

官 氏

名印

書式第二十一號

逮捕人ヨリ其ノ手續書ヲ差出シタルニ依リ更ニ逮捕及告發(告訴)ニ付テノ調査ヲ作ラサルトキハ其ノ紙尾ニ左ノ如ク記載スヘシ

右逮捕告發(告訴)ノ事實ニ付取調ヘタル處其ノ申立前記ノ通相違ナキニ付左ニ共ニ署名捺印ス

年月日

署印

於其處

官 氏 氏

名 名
印 印

書式第二十二號

第 號		署 長	主任
要 概 實 事 罪 犯		發 覺 原 因	受 理
		年 月 日	年 月 日
犯 罪 事 件 傳 第 號	被 告 者		
	年 氏 職 住	年 氏 職 住	年 氏 職 住
	年 氏 職 住	年 氏 職 住	年 氏 職 住

書式第二十三號

第 號		署 長	主任
要 概 實 事 罪 犯		發 覺 原 因	受 理
		年 月 日	年 月 日
犯 罪 事 件 傳 第 號	被 告 者		
	年 氏 職 住	年 氏 職 住	年 氏 職 住
	年 氏 職 住	年 氏 職 住	年 氏 職 住

(注意)

本簿ハ告訴、告發、届出等ニ因リ犯罪アルコトヲ知リ又ハ自ら認知シタルトキハ被告人ノ明、不明ニ關セズ直ニ記入スヘキモノトス。被告人數名アルトキハ其ノ主ナル一人ノ氏名ヲ記入シ外幾人ト附記スヘシ。犯罪事實概要欄ニハ犯罪ノ日時、場所、被害物件及其ノ價額等ヲ記入スヘシ。

○統監府訓令第四十一號(官報十一月二十日)
明治四十一年二月統監府訓令第四號左ノ通告正ス

統監 子爵曾禰克助

統監府鐵道廳出納官吏及出納員任命規程

第一條 統監府鐵道廳ニ左ノ出納官吏及出納員ヲ置キ統監府鐵道廳長官之ヲ任命ス

一 主任現金出納官吏分任現金出納官吏、主任現金出納員、現金出納員

二 主任物品會計官吏分任物品會計官吏

第二條 驛長ハ別ニ辭令ヲ用井分任現金出納官吏トス但シ雇員タル驛長ハ主任現金出納員トス

驛長兼務ノ場合ニ在リテハ主席助役ヲ以テ主任現金出納員トス

主任現金出納員ハ分任現金出納官吏ノ職務ヲ行フモノトス

第三條 現金出納官吏及主任現金出納員ニ屬シテ現金ヲ取扱フ職員ハ別ニ辭令ヲ用井分任現金出納員トス

第四條 分任現金出納官吏、主任現金出納員及分任物品會計官吏ハ統監府鐵道廳長官ノ定ムル所

ノ事務管掌區域ニ從ヒ各主任官ニ屬ス

第五條 會計規則第九十二條物品會計規則第十三條ノ立會官吏及會計規則第一百條物品會計規則第

十五條第二項但書ニ依リ計算書調製官吏ハ統監府鐵道廳長官之ヲ命ス但シ會計規則第九十二條

ノ立會員ニシテ出納員ニ關スルモノハ課所長之ヲ命ス

○統監府訓令第四十二號(官報十一月二十日)

明治四十二年統監府訓令第十九號統監府特許局分課規程中左ノ通告正ス

明治四十二年十一月十三日 統監府特許局

第二條中「發明」ヲ「發明實用新案」ニ改ム 統監 子爵曾禰荒助

○内閣訓令第二號

鐵道院職員服裝規則左ノ通告

明治四十二年十二月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

鐵道院一般

鐵道院職員服裝規則

第一條 鐵道院職員制服ヲ着用スル場合ハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 禮裝ハ概ネ左ノ場合ニ之ヲ着用ス

一 宮中又ハ皇族ノ午餐晚餐夜會等ニ列スルトキ(通常禮服用ノ場合ニ限ル)

二 任官敘位ニ付參内スルトキ(通常禮服用ノ場合ニ限ル)

三 其ノ他一般ニ通常禮服用ヲ着用スル場合

第三條 通常禮裝ハ概ネ左ノ場合ニ之ヲ着用ス

一 宮中又ハ皇族ノ午餐晚餐夜會等ニ列スルモ通常禮服用ニ及ハサルトキ

二 内謁見ノ爲參内スルトキ

三 天機伺ノ爲參内スルトキ

四 任官敘位敘勳ノ御禮其ノ他之ニ等シキ場合ニ參内スルトキ

五 歳末其ノ他御祝詞ノ爲參内スルトキ

六 行幸行啓等ノ場合ニ參集シ又ハ奉送迎スルトキ

七 重立ヲタル午餐ノトキ

八 政始出廳ノトキ

九 内外貴賓送迎ノトキ

十 其ノ他右ニ準スヘキトキニシテ一般通常服ヲ着用スル場合

第四條 常装ハ平常勤務ノ際着用スルモノトス
 第五條 夏季ニ於テ白又ハ鼠色地質ノ制服着用ノ場合ニ於テハ上衣又ハ袴ノ何レカヲ黒又ハ紺地ノ制服ト混用スルコトヲ得
 第六條 外套ハ何レノ服装ヲ論セス雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲室外ニ於テ着用スルモノトス
 第七條 雨覆ハ雨雪ノ際ニ限り室外ニ於テ外套着用ノ際用ウルモノトス
 第八條 日覆ハ炎暑ノ際常装ノ場合ニ之ヲ用ウルコトヲ得
 第九條 劔ハ室ノ内外ヲ問ハス一方ノ環ヲ劔帯ノ鈞金ニ掛ケ置クヘシ
 第十條 劔帯ハ何レノ服装ニ於テモ上衣ノ下ニ之ヲ佩フルモノトス
 第十一條 手套ハ禮装ノ場合ハ必ス白色ヲ用ウルモノトス
 第十二條 下襟ハ何レノ服装ニ在リテモ白布製ノ立襟ヲ用ウルモノトス
 第十三條 靴ハ禮装通常禮装ノ場合ハ黒革製トス長靴ハ雨雪ノ際常装ニ限り用ウルコトヲ得
 第十四條 勳章及記章ハ通常禮装以上ニ限り佩用ス但シ勳一等以上ハ禮装ノ場合ニ限り佩用シ通常禮装ノ場合ニハ其ノ副章ノミヲ佩用ス

附則

本令ハ鐵道院職員服制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省訓令第九號

廳府縣

本年内務省令第二十七號ニ依ル精神病者調査票用紙ハ毎年十一月中ニ内閣統計局ヨリ之ヲ廳府縣ニ配附ス但明治四十三年分ニ限り本年十二月十二日中ニ配附ス廳府縣ハ其ノ所管内ニ於ケル精神病院並ニ精神病者ヲ收容スル病院ノ翌年中ノ所要枚數ヲ見積リ毎年十二月十二日中ニ之ヲ各病院ニ配附スヘシ

各病院ヨリ送附セル精神病者調査票ハ廳府縣ニ於テ其ノ枚數及番號ヲ検査シ前半年分ヲ其ノ年八月末日マテニ後半年分ヲ翌年二月末日マテニ之ヲ内閣統計局ニ送附スヘシ
 精神病者調査票ハ各病院毎ニ一括ト爲シ之ニ送致目錄及病院別送致目錄ヲ添フヘシ

甲 精神病者調査票送致目錄

明治	年後期分	精神病者調査票送致目錄
一 某病院		何枚
一 某病院		何枚
一 某病院		何枚
備考		無シ
廳府縣名		

其ノ期間ニ全ク退院者無キ病院ニ在リテハ病院名ノ下ニ無シト記入スヘシ
 備考ニハ其ノ期間ニ於ケル病院新設廢止又ハ名稱變更等ノ事實ヲ記入スヘシ

乙 病院別精神病者調査票送致目錄

明治	年後期分	病院別精神病者調査票送致目錄
一 病院名		
二 其ノ所在地名		
三 本区分調査票枚數	男女別	
四 調査票番號	自第	號至第
五 備考		號

- イ 收容シ得ヘキ患者ノ豫定數
- ロ 前期ヨリ繰越患者數
- ハ 本期中入院患者數
- ニ 本期末残留患者數

廳 府 縣 名

本令ニ於ケル廳府縣ノ事務ハ東京府ニ於テハ警視廳之ヲ行フ

明治四十二年十二月二十八日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○大藏省訓令第三十四號

鐵道院
韓國ニ於テ帝國ノ經營スル鐵道ノ會計ニ關シテハ總テ統監ノ定メタル從前ノ規定ニ據ル

明治四十二年十二月十六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○陸軍省訓令第三十二號

明治四十二年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十二年十二月十八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

歲出經常部

△印増設

款	項	目	節
陸軍本省	俸給及諸給		
	△賞	與	

款	項	目	節
憲兵費	雜給及雜費	給	與
	俸給及諸給	△賞	與

歲出臨時部

款	項	目	節
測量費	俸給及諸給	△賞	與
	測量事業費	測量事業費	與
	拂下地圖製造費	拂下地圖製造費	與
災害費	△給	與	

▲ 臺北衛戍病院汽離室新築費	▲ 臺北衛戍病院汽離室新築費
▲ 臺灣各部隊風水害復舊費	▲ 臺灣各部隊風水害復舊費

○司法省訓令第五號

明治二十二年六月內務省訓令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十二月二十七日

司法大臣 子爵岡部長職 監獄

〔參照〕

明治二十二年六月內務省訓令第二十九號ハ看守及監獄衛人ノ分掌例ナリ

○農商務省訓令第四十三號

明治四十二年四月農商務省訓令第八號科目表中廢出臨時部足尾國有林復舊費ノ款足尾國有林復舊費ノ項ノ末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

明治四十二年十二月十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第四十四號

明治四十年一月農商務省訓令第二號中左ノ通改ム

明治四十二年十二月二十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第三條第二項中「道路」ノ下ニ「鐵道」ヲ「河川」ノ下ニ「湖沼海面」ヲ加フ

林區署

〔參照〕

明治四十年一月農商務省訓令第二號ハ國有林野部分林規則、社寺保管林規則、國有林野委託規則及國有林野法施行規則ニ依ル事務取扱手續ナリ

○統監府訓令第四十四號(官報十二月十一日)

明治三十八年勅令第二百二十七號ニ依リ收入印紙ヲ以テ罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ヲ納付セシムル場合ニ於テハ別記第一號様式ノ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ差出サシメ其ノ納入ニハ別記第二號様式ノ納付濟證ヲ交付スヘシ
印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘシ
明治四十二年十二月四日

統監 子爵曾禰充助

(別記)

第一號様式

納付書	
④事件主任官印	④取扱者印
印契 一金	何何被告事件罰金(追徵金等)(何何何何ノ内)
右收入印紙ヲ以テ上納候也	住所
明治 年 月 日	氏 名 ④

第二號樣式

(備考) 用紙ハ美濃紙トス

統監府裁判所(檢事局) 名御中
 (警 察 官 署)

(代 納 者 何 某 (印))

納付済證	
印 獎	領 金
金	領 金
納付義務者	①取扱者印
種 類	
官渡年月日	明治 年 月 日
納付年月日	明治 年 月 日
統監府裁判所(檢事局) 名 國 (警 察 官 署)	

○統監府訓令第四十五號(官報 十二月十一日)

監獄領置品取扱規程左ノ通定ム

明治四十二年十二月四日

統監府監獄

子爵會稱荒助

監獄領置品取扱規程

- 第一條 監獄及分監ニ於ケル領置品ハ領置品取扱主任之ヲ保管スヘシ
- 第二條 典獄ハ部下ノ吏員中ヨリ領置品取扱主任ヲ命スヘシ
- 第三條 領置品取扱主任ハ典獄又ハ分監長ノ命令ニ依リ領置品ノ出納ヲ爲スヘシ
- 第四條 領置品取扱主任ハ領置品基帳(第一號)ヲ設ケ領置品ノ品目、數量、評價格、事由及顛末ヲ登記スヘシ
- 第五條 領置品取扱主任差入人ヨリ領置品ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求アリタルトキハ領收證(第二號)ヲ交付スヘシ
- 第六條 領置品ヲ交付スルトキハ領收證ヲ徵スヘシ但シ監房ニ携入セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 領置品ノ内有價證券、寶印其ノ他貴重品ト認ムヘキモノハ鎖鑰ヲ施シタル堅牢ナル函ニ藏メテ保管スヘシ
- 前項以外ノ物品ハ倉庫内ニ納メテ保管スヘシ
- 第八條 領置品圖庫ニ歸屬シタル場合ニ於テハ典獄又ハ分監長ハ領置品取扱主任ヲシテ賣却ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ現品ヲ以テ直ニ慈善ノ用ニ充テムトスルモノニ付テハ賣却ヲ爲ササルコトヲ得
- 前項但書ニ依リ賣却ヲ爲ササル物品ハ領置品取扱主任ニ於テ之ヲ保管シ其ノ出納ハ慈善用品受辨簿(第三號)ニ之ヲ登記スヘシ
- 第九條 領置品取扱主任故意怠慢ニ由リ領置品ヲ亡失毀損シ爲ニ國庫ニ損失ヲ生セシメタルトキハ典獄又ハ分監長ハ辨償ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ事實ヲ詳具シ統監ニ報告スヘシ
- 第十條 典獄又ハ分監長ハ毎年一回以上部下ノ吏員ニ検査員ヲ命シ領置品ニ關スル帳簿及現在品ヲ検査セシムヘシ領置品取扱主任交替ノ場合亦同シ

(別記様式)

試験成績表		試験科目	科目	目	點數	平均點數	在勤地	氏名
四考	監獄ニ關スル法規	刑罰ニ關スル法規	會計ニ關スル法規	算術	外國語又ハ日本語	平均點數	及職名	氏名

一 試験科目ノ點數ハ各科目百點ヲ以テ滿點トス

考査表		明治 年 月 日	日 拜 命	氏 名
考査事項	至明治 何 年 何 月 何 日	買 務	成 績	生年月日
監獄ニ關スル法規 刑罰ニ關スル法規 會計ニ關スル法規				
算術				
外國語又ハ日本語				
平均點數				
在勤地				
及職名				
氏名				
職務執行ノ當否				
勤務ノ勉否				
書類報告ノ整否				
特技ノ有無				
何 何				
何 何				

考 備

一統監府看守ニシテ轉職シタルトキハ本表ヲ轉職先ノ統監府監獄ニ引繼クヘキモノトス

○統監府訓令第五十號(官報 明治四十三年一月四日)

統監府監獄

統監府看守及統監府女監取締ノ精勤證書授與ニ付テハ明治三十六年司法省訓令第七號看守女監取締精勤證書授與規則ヲ準用ス

附 則

韓國ノ監獄看守ニシテ統監府看守採用規則施行ノ際統監府看守ニ採用セラレタル者ニ付テハ特ニ其ノ前職ノ勤績期間ヲ本令ノ勤績期間ニ算入スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ前職勤務中韓國ノ懲戒ニ關スル規程ニ依リ懲戒ニ處セラレタル者ニ付テハ勤績期間ノ起算ハ看守女監取締精勤證書授與規則第三條ノ例ニ依ル

明治四十二年十二月二十五日

統監 子爵曾禰荒助

法令全書

達

○陸達第一號

明治三十年陸達第二十九號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年一月六日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

(參照)

明治三十年 三月二日 陸達第二十九號ハ官衙學校附設醫務規則ナリ

○陸達第二號

陸軍主計團規則左ノ通定ム

明治四十二年一月九日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍主計團規則

第一條 陸軍主計團ハ在職並豫備役、後備役經理部將校相當官ヲ以テ之ヲ組織ス

退役經理部將校相當官ハ志願ニ依リ陸軍主計團ニ屬スルコトヲ得

第二條 陸軍主計團ハ分團ニ分テ陸軍經理部所管區域毎ニ各一箇ノ分團ヲ置ク

分團ハ其ノ所管ニ從ヒ何師管陸軍主計分團近衛師團ニ在リテハ近衛師團陸軍主計分團又ハ臺灣、韓國、關東陸軍主計分團ト稱ス

第三條 分團長ハ當該所管經理部長ヲ以テ之ニ充ツ

分團長ハ團長ノ命ヲ承ケ分團ニ係ル一切ノ事項ヲ管掌ス

第四條 經理部將校相當官ノ分團所屬區分ハ左ノ各號ニ依ル

明治四十二年一月 達 陸軍省陸達第一號 第二號

一 在職者ハ在職地所管ノ陸軍主計分團 近衛師團ニ屬スル者ハニ屬ス
 一 豫備役後備役並退役ノ者ハ居住地所管ノ陸軍主計分團ニ屬ス
 一 前各號ノ所管ニ入ラサル者ノ所屬ハ團長ノ指定ニ依ル

第五條 退役經理部將校相當官ニシテ主計團ニ屬セムトスル者ハ居住地所管ノ分團長ヲ經テ團長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 分團所屬者ノ中上長官以上ハ之ヲ名譽團員トシ其ノ他ハ總テ團員トス

第七條 主計團ニ於テハ將校團條例第一條ノ目的ヲ達スル爲時時研究會ヲ開キ殊ニ職務上須要ナル學術ヲ研究シ其ノ活用ノ識力ヲ發達セシメ且實務ニ練達セシムルヲ以テ要旨トス其ノ教育科目ヲ定ムルコト概ネ左ノ如シ

一 軍事勤務殊ニ經理實務
 一 課題作業
 一 講話
 一 野外作業
 一 馬術

在職ノ者ニ在リテハ前項教育科目ノ外本人ノ長所ニ應シ職務上適切ナル專門事項ニ精通セシムルコトヲ計リ豫備役後備役又ハ退役ノ者ニ在リテハ前項教育科目ニ付彼此海酌ヲ加フルヲ可トス

分團長ハ必要ニ應シ分團内ニ班ヲ設ケ第一項ノ研究練習ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 分團長ハ分團ノ教育ヲ行ヒ其ノ責ニ任ス但シ軍事學ノ教育ハ將校團ノ設置アル部隊附經理部將校相當官ニ付テハ當該將校團長其ノ他ノ部隊附經理部將校相當官ニ付テハ分團長ノ依頼ニ依リ最寄將校團長ニ於テ其ノ責ニ任ス

第九條 分團長ハ軍事學ノ教育ニ關シ意見アルトキハ關係將校團長ニ之ヲ開陳スルコトヲ得

第十條 分團長ハ分團ノ業務ニ關シ所在地將校團長ニ所要ノ幫助ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 分團長ハ分團ノ業務施行ニ關スル規約ヲ定メ團長ノ認可ヲ受クヘシ
 團員タル豫備役後備役將校相當官ニシテ屢規約ニ背キ改悛ノ情ナキ者ハ分團長ヨリ之ヲ團長ニ報告スヘシ

第十二條 團長ハ分團ノ業務ヲ監督シ各分團ヲ相互ノ連絡ヲ保持セシムヘシ

第十三條 主計團ノ業務ヲ整理スル爲團長及分團長ノ下ニ委員若干名ヲ置ク

委員ハ名譽團員及團員中ヨリ主計團ニ在リテハ團長主計分團ニ在リテハ分團長之ヲ指定ス

第十四條 主計團ノ業務施行ニ關スル細部ノ手續ハ團長之ヲ定ム

○陸軍第三號
 陸軍軍醫團規則左ノ通定ム

明治四十二年一月九日
 陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍軍醫團規則

第一條 陸軍軍醫團ハ在職並豫備役後備役衛生部將校相當官ヲ以テ之ヲ組織ス
 退役衛生部將校相當官ハ志願ニ依リ陸軍軍醫團ニ屬スルコトヲ得

第二條 陸軍軍醫團ハ分團ニ分チ陸軍軍醫部所管區域毎ニ各一箇ノ分團ヲ置ク
 分團ハ其ノ所管ニ從ヒ何師管陸軍軍醫分團 近衛師團ニ在リテハ近 又ハ臺灣 韓國 關東 陸軍軍醫分團ト稱ス

第三條 分團長ハ當該所管軍醫部長ヲ以テ之ニ充ツ
 分團長ハ團長ノ命ヲ承ケ分團ニ係ル一切ノ事項ヲ管掌ス
 清國駐屯軍ニ在リテハ前條ニ準シ分團ヲ置キ同軍病院長分團長ノ業務ヲ行フ

第四條 衛生部將校相當官ノ分團所屬區分ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 在職者ハ在職地所管ノ陸軍軍醫分團近衛師團ニ屬スル者ハニ屬ス
- 一 豫備役後備役並退役ノ者ハ居住地所管ノ陸軍軍醫分團ニ屬ス
- 一 前各號ノ所管ニ入ラサル者ノ所屬ハ團長ノ指定ニ依ル

第五條 退役衛生部將校相當官ニシテ軍醫團ニ屬セムトスル者ハ居住地所管ノ分團長ヲ經テ團長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 分團所屬者ノ中上長官以上ハ之ヲ名譽團員トシ其ノ他ハ總テ團員トス

第七條 軍醫團ニ於テハ將校團條例第一條ノ目的ヲ達スル爲陸軍衛生部將校相當官教育規則ニ依ルノ外集會、雜誌刊行等ノ方法ニ依リ概ネ左ノ事項ヲ施行ス

- 一 軍陣醫學藥學ニ關スル研究
- 一 軍事衛生ニ關スル内外國ノ時報
- 一 軍事學衛生勤務學、軍陣醫學、藥學ニ關スル講筵、談話、討論
- 一 臨床講義、器械標本等ノ標示、實習

第八條 分團長ハ分團ノ業務ニ關シ所在地將校團長ニ所要ノ幫助ヲ求ムルコトヲ得

第九條 分團長ハ分團ノ業務施行ニ關スル規約ヲ定メ團長ノ認可ヲ受クヘシ

團員タル豫備役後備役將校相當官ニシテ履規約ニ背キ改換ノ情ナキ者ハ分團長ヨリ之ヲ團長ニ報告スヘシ

第十條 團長ハ分團ノ業務ヲ監督シ各分團ヲ相互ノ連絡ヲ保持セシムヘシ

第十一條 軍醫團ノ業務ヲ整理スル爲團長及分團長ノ下ニ委員若干名ヲ置ク

第十二條 軍醫團ノ業務施行ニ關スル細部ノ手續ハ團長之ヲ定ム

○陸軍第四號

陸軍獸醫團規則左ノ通定ム

明治四十二年一月九日 陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍獸醫團規則

第一條 陸軍獸醫團ハ在職並豫備役後備役獸醫部將校相當官ヲ以テ之ヲ組織ス

退役獸醫部將校相當官ハ志願ニ依リ陸軍獸醫團ニ屬スルコトヲ得

第二條 陸軍獸醫團ハ分團ニ分チ陸軍獸醫部所管區域毎ニ各一箇ノ分團ヲ置ク

分團ハ其ノ所管ニ從ヒ何師管陸軍獸醫分團近衛師團陸軍獸醫分團又ハ臺灣、韓國、關東陸軍獸醫分團ト稱ス

第三條 分團長ハ當該所管獸醫部長ヲ以テ之ニ充ツ

分團長ハ團長ノ命ヲ承ケ分團ニ係ル一切ノ事項ヲ管掌ス

第四條 獸醫部將校相當官ノ分團所屬區分ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 在職者ハ在職地所管ノ陸軍獸醫分團近衛師團ニ屬スル者ハニ屬ス
- 一 豫備役後備役並退役ノ者ハ居住地所管ノ陸軍獸醫分團ニ屬ス
- 一 前各號ノ所管ニ入ラサル者ノ所屬ハ團長ノ指定ニ依ル

第五條 退役獸醫部將校相當官ニシテ獸醫團ニ屬セムトスル者ハ居住地所管ノ分團長ヲ經テ團長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 分團所屬者ノ中上長官以上ハ之ヲ名譽團員トシ其ノ他ハ總テ團員トス

第七條 獸醫團ニ於テハ將校團條例第一條ノ目的ヲ達スル爲集會、雜誌刊行等ノ方法ニ依リテ職務上須要ナル學術ヲ研究シ其ノ活用ノ識力ヲ發達セシメ且實務ニ熟練セシムルコトヲ團長概ネ左

ノ事項ヲ施行ス

- 一 獸醫學ノ研究
 - 一 軍事勤務殊ニ軍馬衛生勤務ノ研究
 - 一 獸醫學及軍馬衛生勤務ニ關スル對策講話實地講說等
 - 一 軍事學ニ關スル研究
 - 一 馬術ノ練習
- 一前各號ノ外軍人精神ノ涵養、團員團結心ノ鞏固及軍事上ノ研究ニ資スヘキ事業
分團長ハ必要ニ應シ分團内ニ班ヲ設ケ前項ノ研究練習ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第八條 分團長ハ分團ノ教育ヲ行ヒ其ノ責ニ任ス但シ軍事學ノ教育ハ將校團ノ設置アル部隊附獸醫部將校相當官ニ付テハ當該將校團長、其ノ他ノ部隊附獸醫部將校相當官ニ付テハ分團長ノ依頼ニ依リ最寄將校團長ニ於テ其ノ責ニ任ス
- 第九條 分團長ハ軍事學ノ教育ニ關シ意見アルトキハ關係將校團長ニ之ヲ開陳スルコトヲ得
- 第十條 分團長ハ分團ノ業務ニ關シ所在地將校團長ニ所要ノ幫助ヲ求ムルコトヲ得
- 第十一條 分團長ハ分團ノ業務施行ニ關スル規約ヲ定メ團長ノ認可ヲ受クヘシ
團員タル豫備役、後備役將校相當官ニシテ屢規約ニ背キ改悛ノ情ナキ者ハ分團長ヨリ之ヲ團長ニ報告スヘシ
- 第十二條 團長ハ分團ノ業務ヲ監督シ各分團ヲ相互ノ連絡ヲ保持セシムヘシ
- 第十三條 獸醫團ノ業務ヲ整理スル爲メ團長及分團長ノ下ニ委員若干名ヲ置ク
委員ハ名譽團員及團員中ヨリ獸醫團ニ在リテハ團長、獸醫分團ニ在リテハ分團長之ヲ指定ス
- 第十四條 獸醫團ノ業務施行ニ關スル細部ノ手續ハ團長之ヲ定ム

○陸軍第五號

軍馬管理規則中左ノ通改正ス

明治四十二年一月九日

第四十三條中但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ騎兵實施學校ノ補充馬中特ニ優等ナルモノハ此ノ限ニ在ラス又優等ナル將校乘馬ニ在リテハ所管長官ノ認可ヲ經テ去勢セサルコトヲ得

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○陸軍第六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治四十二年一月二十八日

第六條第四號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別俸ヲ給スルハ特務曹長及上等工長ニ限ル

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○海軍省達第一號

海軍兵備品會計規程中左ノ通改正ス

明治四十二年一月八日

兵備品出納受拂帳簿諸證憑用紙書式備考第四號兵備品ノ出納受拂ニ要スル證憑第六號乃至第十號書式中「品名」ノ次ニ「單位稱呼」ノ欄ヲ追加ス

海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第二號

明治四十年五月達第五十九號證書證狀書式中ニ左ノ通追加ス

明治四十二年一月十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

(第三十號書式)

第 號	運用術修業證狀	何等
	官(職)氏	名
運用術練習艦練習生教程修業ヲ證ス		
成績何人中ノ何番		
年月日		
運用術練習艦何艦長官位勳功爵	氏	名
		印職

○海軍省達第三號
學術卒業證書等授與式施行手續中左ノ通改正ス
明治四十二年一月十五日

海軍大臣 男齋藤實

第九條 海兵團、病院、運用術練習艦ニ於ケル證書證狀授與式ハ本手續ニ準シ施行スヘシ其ノ參列官ハ海兵團、病院ニ在テハ鎮守府司令長官、運用術練習艦ニ在テハ海軍教育本部長トス

〔參照〕

海軍省達第二百二十六號學術卒業證書等授與式施行手續(明治四十年十一月十六日)抄録
第九條 海兵團、病院ニ於ケル證書證狀授與式ハ本手續ニ準シ施行スヘシ其ノ參列官ハ鎮守府司令長官トス

○海軍省達第四號

海軍無線電報取扱規約附表第一中角島ノ次ニ左ノ通追加ス

海軍大臣 男齋藤實

JOI

落石

○海軍省達第五號

勳章視察令施行細則ニ關スル取扱規程左ノ通り定ム

海軍大臣 男齋藤實

明治四十二年一月十五日

第一條 勳章視察令第二條第一項第一號第二號ノ場合ニ於テ賞勳局總裁ニ爲ス申牒ハ其ノ確定裁判ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官之ヲ爲スヘシ

第二條 勳章視察令第二條第一項第四號ノ場合ニ於テ賞勳局總裁ニ爲ス申牒ハ所屬長官之ヲ爲スヘシ

前項ノ申牒ニ關スル書類ニハ副本ヲ添付スヘシ

第三條 勳章視察令施行細則第二條ノ申牒ハ收禁狀ヲ發シ又ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官之ヲ爲スヘシ

第四條 勳章視察令施行細則第三條ノ處分ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官之ヲ爲スヘシ

第五條 前條ノ處分ヲ行ヒタル長官ハ處分ヲ受ケタル者ノ官(職)位勳等功級記章氏名所屬罪名刑

名刑期裁判確定年月日勳等功級記章視察年月日ヲ記載シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 前條ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ他所管ノ下士卒ニ在テハ其ノ都度本人ノ在籍鎮守府ニ通

第七條 本規程ハ記章褒章ノ視察又ハ其佩用停止及外國記章ノ佩用禁止又ハ停止ニ之ヲ準用ス

○海軍省達第六號 野砲小銃及拳銃射擊規則第十二條表中發射彈數速射砲ノ欄一番砲手「六」トアルヲ「四」ニ「二番砲手

六」トアルヲ「四」ニ「一番砲手」トアルヲ「一〇」ニ改ム

明治四十二年一月十五日 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第七號 艦隊日誌摘要報告様式中左ノ通改正ス

但シ現存ノ分ハ訂正ノ上使用スヘシ

明治四十二年一月十五日 海軍大臣 男爵齋藤實

別紙欄外中常備艦隊司令官鎮守艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ヲ艦隊司令官長官司令官長官ヲ

置カサル艦隊ノ首席司令官豫備艦隊司令官ニ改ム

○海軍省達第八號 明治二十六年達第十二號及二十七年達第二十九號ヲ廢止ス

明治四十二年一月二十二日 海軍大臣 男爵齋藤實

〔參照〕 明治二十六年三月海軍省達第十二號ハ射助用減裝藥規則同二十七年三月同第二十九號ハ四十七密米保式重速射砲射

的削減裝藥ノ件ナリ

○海軍省達第九號 歲入歳出取扱規程第六十二條中鎮海灣「ノ」三字ヲ刪除ス

明治四十二年一月二十七日 海軍大臣 男爵齋藤實

○海軍省達第十號 明治三十六年達第百二十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任仕拂命令官歳入

徴收官收入官吏別表中「在韓國海軍用地ヨリ生スル收入」ノ項ヲ左ノ通改メ備考第三中「鎮海防備

隊司令官ヲ防備隊司令官若クハ司令ニ改ム

明治四十二年一月二十七日 海軍大臣 男爵齋藤實

在韓國海軍用地ヨリ生スル收入 防備隊司令官若クハ司令 防備隊主計長

○海軍省達第十一號 學生生徒練習生ノ卒業證書授與式費ハ左ノ定額内ニテ處辨スヘシ

明治四十二年一月二十九日 海軍大臣 男爵齋藤實

一 大學校學生 金 四百圓 水雷學校學生並練習生 金 五十圓

二 兵學校學生 金 二百圓 工機學校學生並練習生 金 五十圓

三 機關學校學生 金 二百圓 運用術練習艦練習生 金 三十圓

四 軍醫學校學生 金 五十圓 看護術練習生 金 三十圓

五 經理學校學生並練習生 金 五十圓 砲術學校學生並練習生 金 三十圓

六 砲術學校學生並練習生 金 五十圓 樂隊練習生 金 三十圓

附則 明治二十一年達第八十二號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕 明治三十一年七月海軍省達第八十二號ハ本號ト同伴ナリ

○海軍省達第十二號 自今明治三十五年二月達第十三號ニ據ル英佛度量衡ノ名稱中其ノ略字ヲ左ノ通定ム

明治四十二年一月二十九日 海軍大臣 男爵齋藤實

明治四十二年一月 海軍省第十號 第十一號 第十二號

名	英 國 式	佛 國 式	稱 略 字
一	大 學 校 學 生	海 軍 大 臣 男 爵 齋 藤 實	金 五 拾 圓
二	兵 學 校 學 生	工 機 學 校 學 生 並 練 習 生	金 五 拾 圓
三	機 關 學 校 學 生	運 用 術 練 習 艦 練 習 生	金 三 拾 圓
四	軍 醫 學 校 學 生	看 護 術 練 習 生	金 三 拾 圓
五	經 理 學 校 學 生 並 練 習 生	砲 術 學 校 學 生 並 練 習 生	金 三 拾 圓
六	砲 術 學 校 學 生 並 練 習 生	樂 隊 練 習 生	金 三 拾 圓